岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第445集

寺ノ上（てらのうえ）遺跡発掘調査報告書

県営ほ場整備事業寺領小林関連遺跡発掘調査

岩手県水沢地方振興局農政部農村整備室
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

寺ノ上遺跡発掘調査報告書

てらのうえ

県営ほ場整備事業寺領小林地区関連遺跡発掘調査

序

岩手県内には旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地にあり、平成14年度現在でおよそ11,000ヶ所に及ぶ遺跡が確認されております。これら先人の残した多くの文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、私たち県民に課せられた大切な責務であります。

一方、地域開発に伴う社会資本の充実も重要な施策であります。発掘により遺構が消滅することはまことに惜しいことでありますが、その反面それまで闇に包まれていた先人の営みに光明が当たるのも事実であります。このような埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和は今日的課題であり、(財)岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する措置を取ってまいりました。

本報告書は、岩手県水沢地方振興局農政部農村整備室「県営ほ場整備事業寺領小林地区」に関連して、平成14年度に実施した寺ノ上遺跡の調査結果をまとめたものであります。

発掘調査では、縄文時代の陥し穴状遺構と中世の竪穴住居跡、溝状遺構、土坑、堀跡等が検出され、縄文時代と中世の複合遺跡であることが明かになりました。また、遺物では、須恵器やかわらけの他に県内では出土例の少ない中国産陶器や瓦器が出土するなど、当該地域の歴史及び、周辺の遺跡との関連性を考える上で貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご援助、ご協力を賜りました岩手県水沢地方振興局農政部農村整備室、前沢町教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より謝意を表します。

平成15年12月

財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　合　田　　武

例　言

1．本報告書は、岩手県胆沢郡前沢町古城字寺ノ上182ほかに所在する寺ノ上遺跡の発掘調査結果を収録したものである。

2．本遺跡の発掘調査は、県営ほ場整備事業寺領小林地区埋蔵文化財発掘調査委託業務に伴う緊急発掘調査である。調査は水沢地方振興局農政部農村整備室と岩手県教育委員会生涯学習文化課との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。

3．本遺跡の岩手県遺跡登録台帳における遺跡番号と調査時の遺跡略号は以下の通りである。

遺跡番号　　ＮＥ46－0242

遺跡略号　　ＴＵ－02

4．調査期間・調査面積・調査担当者は以下の通りである。

調査期間　　平成14年10月9日～11月27日

調査面積　　1,533m²

調査担当者　　野中真盛・佐々木信一

5．室内整理期間と整理担当者は以下の通りである。

室内整理期間　　平成14年11月1日～12月13日

整理担当者　　野中真盛・佐々木信一

6．本報告書の執筆･編集は、野中真盛が担当した。

7．委託業務にあたっては、以下に委託した。

座標原点の測量･･････㈱ハイマーテック

空中写真･････････････㈱東邦航空

8．本書の作成にあたり、下記の方々ならびに機関から御指導と御協力を頂いた。(敬称略)

及川真紀　　(前沢町教育委員会)

藤澤良祐　　(愛知県瀬戸市埋蔵文化財センター)

井上喜久男　(愛知県陶磁器資料館)

9．野外調査にあたっては、前沢町と地元の方々に多大なる御協力をいただいた。

10．本遺跡から出土した遺物及び調査にかかわる資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。

目　次

序
例言

〈本　文〉

Ⅰ　調査に至る経過……1
Ⅱ　遺跡の位置と環境……2
　1．遺跡の位置……2
　2．遺跡周辺の地形と地質……2
　3．遺跡の基本層序……2
　4．周辺の遺跡……6
Ⅲ　調査方法と室内整理……11
　1．野外調査の方法……11
　　(1) 調査区の設定……11
　　(2) 粗掘・遺構検出……11
　　(3) 遺構の精査・出土遺物の取り上げ…11
　　(4) 実測……11
　　(5) 写真撮影……11
　2．室内整理……12
　　(1) 作業手順……12
　　(2) 遺構図版・遺物図版……12
Ⅳ　検出された遺構と出土遺物……15
　1．縄文時代の遺構と出土遺物……15
　　(1) 陥し穴状遺構……15
　　(2) 遺物……15
　2．中世の遺構と遺構内出土遺物……15
　　(1) 竪穴住居跡……15
　　(2) 掘立柱建物跡……18
　　(3) 土坑……21
　　(4) 柱穴遺構……27
　　(5) 溝跡……27
　　(6) 堀跡……41
Ⅴ　まとめ……44
　1．遺構……44
　　(1) 縄文時代の遺構……44
　　(2) 中世以降の遺構……44
　2．出土遺物……46
　3．おわりに……48

〈図　版〉

第１図　岩手県全図……3
第２図　遺跡周辺の地形図……4
第３図　遺跡周辺地形分類図……5
第４図　基本土層柱状図……6
第５図　周辺の遺跡分布図……10
第６図　凡例……12
第７図　遺構配置図……13
第８図　陥し穴状遺構……16
第９図　竪穴住居跡……17
第10図　掘立柱建物跡……19
第11図　掘立柱建物跡断面図……20
第12図　１～５号土坑……22
第13図　６～９号土坑……24
第14図　10・11号土抗……26
第15図　柱穴遺構(1)……28
第16図　柱穴遺構(2)……29
第17図　柱穴遺構(3)……30
第18図　柱穴遺構(4)……31
第19図　1・8・9号溝跡……37
第20図　2～4号溝跡……38
第21図　5～7号溝跡……39
第22図　10～16号溝跡……40
第23図　1号堀跡(南側)……42
第24図　1号堀跡(北側)・2号堀跡……43
第25図　遺構内・外出土遺物……49

〈　表　〉

第１表　周辺の遺跡一覧表……7
第２表　竪穴住居跡柱穴一覧表……14
第３表　柱穴一覧表……32
第４表　掘立柱建物跡柱穴観察表……44
第５表　土坑一覧表……45
第６表　溝跡一覧表……45
第７表　鉄製品観察表……50
第８表　縄文土器観察表……50
第９表　土師器・須恵器観察表……50
第10表　陶器観察表……50
第11表　中国産陶器観察表（褐釉四耳）……50
第12表　ロクロかわらけ観察表……51
第13表　手づくねかわらけ観察表……51

〈写真図版〉

写真図版 1　遺跡全景……55
写真図版 2　調査前風景・基本土層断面……56
写真図版 3　竪穴住居跡……57
写真図版 4　掘立柱建物跡……58
写真図版 5　陥し穴状遺構、1・2号土坑跡……59
写真図版 6　3～5号土坑・遺物出土状況……60
写真図版 7　6・7・9・10・11号土坑……61
写真図版 8　1・8・9号溝跡……62
写真図版 9　2～4号溝跡……63
写真図版10　5～7号溝跡……64
写真図版11　10～12号溝跡……65
写真図版12　13～16号溝跡……66
写真図版13　1号堀跡……67
写真図版14　2号堀跡……68
写真図版15　出土遺物……69

Ⅰ　調査に至る経過

寺ノ上遺跡は「ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）寺領小林地区」の施行に伴い、その事業区に位置することから発掘調査を実施する事となったものである。

「ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）寺領小林地区」は、胆沢郡前沢町古城地内の受益面積83haからなる地区であるが、水田は10a程度と小区画であり農道についても幅員が狭小の状況であった。また、水路については用排兼用の土水路であったため排水不良による湿田となり、営農の機械化や耕地の汎用化、さらには農地の流動化、生活環境の向上など高生産性農業を阻害していた。

これらの阻害要因を除去し、効率的で安定した経営体に農地を集積し、高生産性農業の確立を図り、併せて農村環境水準の向上を資すために、大区画ほ場整備事業を実施するものとして平成11年度に新規採択され、現在工事の進捗を図っているところである。

当事業の施行に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、岩手県水沢地方振興局農政部農村整備室から平成12年5月15日付け水農整第295－2号「埋蔵文化財の分布調査依頼について」の文書によって岩手県教育委員会に対して分布調査の依頼をしたのが最初であり、依頼を受けた岩手県教育委員会では、同年に分布調査を実施し、その結果平成12年9月11日付け教文第691号「ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）実施計画における埋蔵文化財の分布調査について(回答)」により岩手県水沢地方振興局農政部農村整備室へ回答、その際工事施工範囲内が寺ノ上遺跡の範囲内であることが付記された。

この回答を受けた岩手県水沢地方振興局農政部農村整備室では、寺ノ上遺跡を含む面工事実施年度である平成13年7月25日付け水農整第333－9号「ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）寺領小林地区における埋蔵文化財の試掘調査依頼について（依頼)」の文書によって岩手県教育委員会へ試掘調査を依頼し、依頼を受けた岩手県教育委員会では平成13年10月9日～10日、11月15日に試掘調査を実施、その結果を平成13年5日付け教生第1106号及び11月20日付け教生第1193号「ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）寺領小林地区における埋蔵文化財の試掘調査について(回答)」で岩手県水沢地方振興局農政部農村整備室へ回答し、その際寺ノ上遺跡の発掘調査が必要である旨付記された。

（岩手県水沢地方振興局農政部農村整備室）

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1．遺跡の位置

寺ノ上遺跡の所在する前沢町は、岩手県のほぼ南に位置し、北は水沢市に、西は胆沢扇状台地で胆沢町、南は衣川村と平泉町に、東は北上山地で東山町の５市町村に接する。東西約13.5㎞、南北約9㎞、総面積72.74㎞²の人口約15,500人を有する町である。遺跡は第2図に示すようにＪＲ東北本線陸中折居駅から約1.5㎞南西に位置する前沢町古城字寺ノ上に所在し、北上川右岸にある胆沢扇状地の中位段丘に立地している。

本遺跡は国土地理院発行の5万分の1地形図「水沢」（ＮＪ－54－14－14）及び、2万5千分の1の地形図「前沢」(ＮＪ－54－14－14－2)の図幅に含まれ、北緯39度4分47秒、東経141度7分53秒付近にあたる。標高は76～79mで、現況は水田及び畑地である。

2．遺跡周辺の地形と地質

前沢町の中央よりやや東側を北上川が流れる。この北上川は岩手町に源を発し、宮城県で太平洋に注ぐ全長249㎞の日本屈指の大河である。前沢町を流れる長さは、北―南に僅か約9.5㎞に過ぎないが、大河の様相を見せ、河川用地幅は平均約400mと拡大し、川の東側と西側はまったく異なる地形を形成している。支流として松の木沢川、太郎ヶ沢川、白鳥川、明後沢川、岩堰川など小さな川が合流している。

北上川の東側は河川流域に細長い沖積地はあるが、殆どは北上山系で、丘や山が重なり合う丘陵地帯である。地質は河川流域では砂の沖積層、丘陵地帯では第三紀層で砂岩、泥岩、凝灰岩となっている。西側は胆沢平野の南部にあたり、北上川と国道4号に挟まれる地域で沖積層となっており、腐植土壌または砂質土壌で覆われ、県下屈指の肥沃な土壌となっており、稲作地帯である。本遺跡は、国道西方にある胆沢扇状台地の東縁にあたる。また、平坦な台地が沢による浸食で舌状になり南・東･北に急俊な傾斜地を持つ地形となっている。調査区周辺は昭和に入ってから開拓された地域で、農地整備が行われ平坦な耕作地にするための造成の跡が見られる。地質は洪積層で火山灰の堆積土壌と腐埴土とされている。調査区に至っては、耕作用に後から入れられた客土となっている。

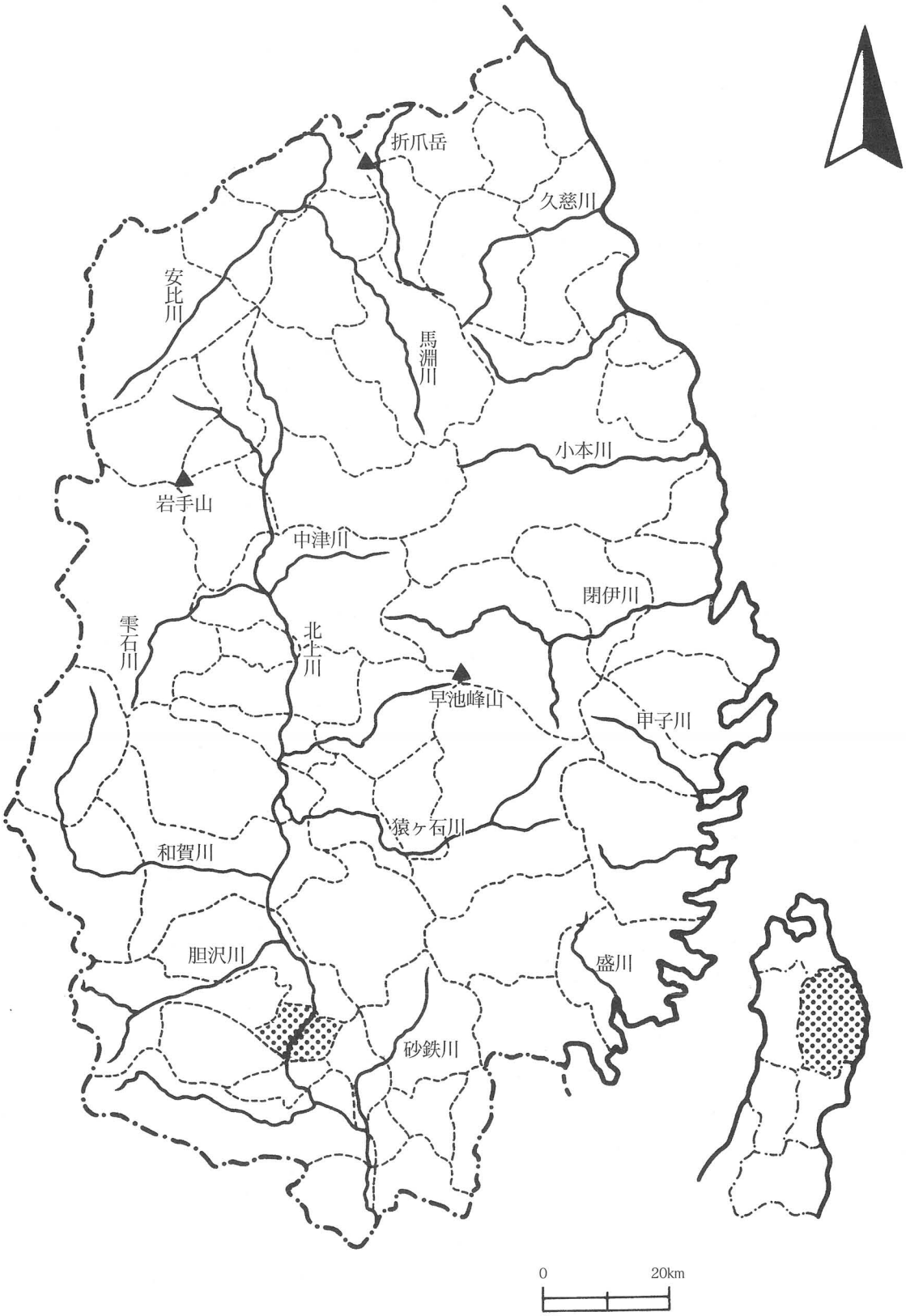
3．遺跡の基本層序

今回調査した地域の南側調査区は、丘状を呈する畑地で、中央部が高くなり東側にかけて約90㎝下方に傾斜している。また、南北方向も中央部から両側に緩く下方に傾斜している。北側調査区は、一段下がった水田になっており南側調査区より約1～2mほど低くなっている。本遺跡は昭和に入ってから開墾され、土地区画などにより、造成された土地である。第Ⅰ層は造成の際に新たに入れられた耕作用の盛土で、場所によっては第Ⅱ層（地山面）も削平されている。北側調査区はなだらかな斜面を平坦にするために高い所から低い所へ土を押した撹乱土が見られる。

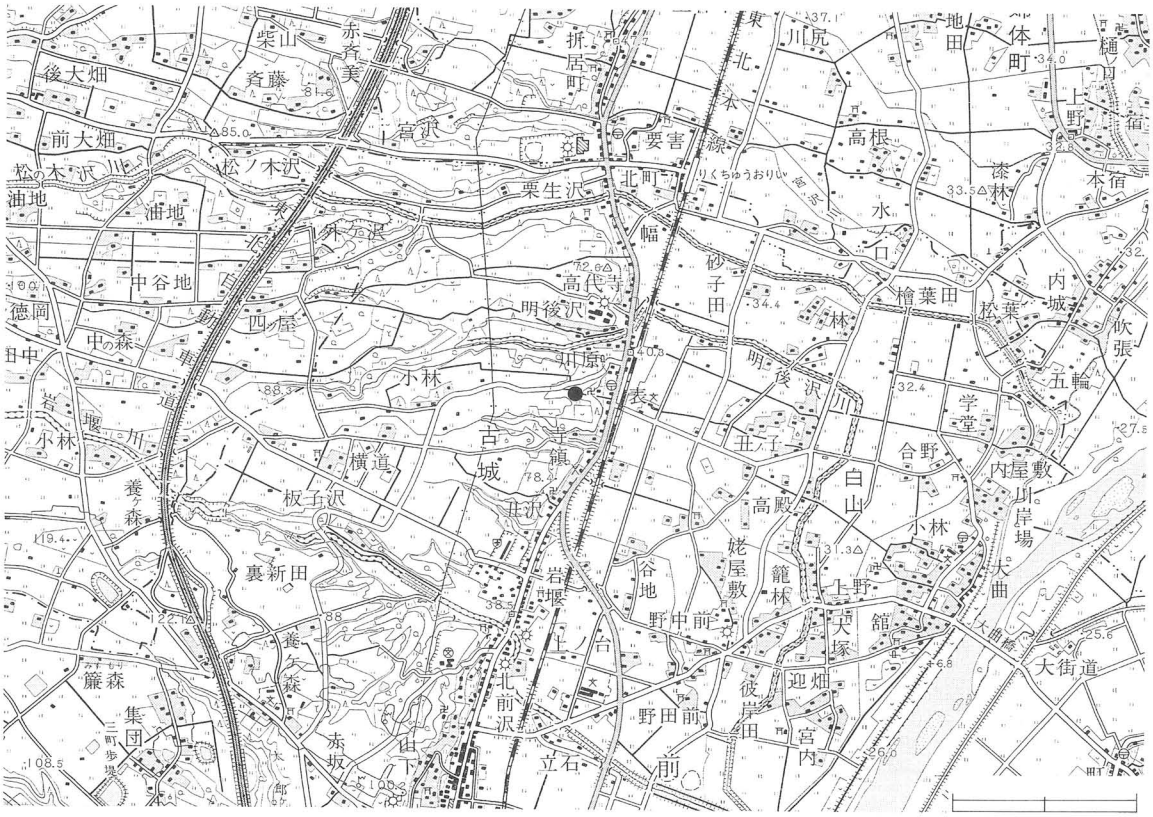
土層の基本層序は、第4図基本土層柱状図の通りである。

第Ⅰ層

10YR3/2～3/3　黒褐色土～褐色土シルト5/8黄褐

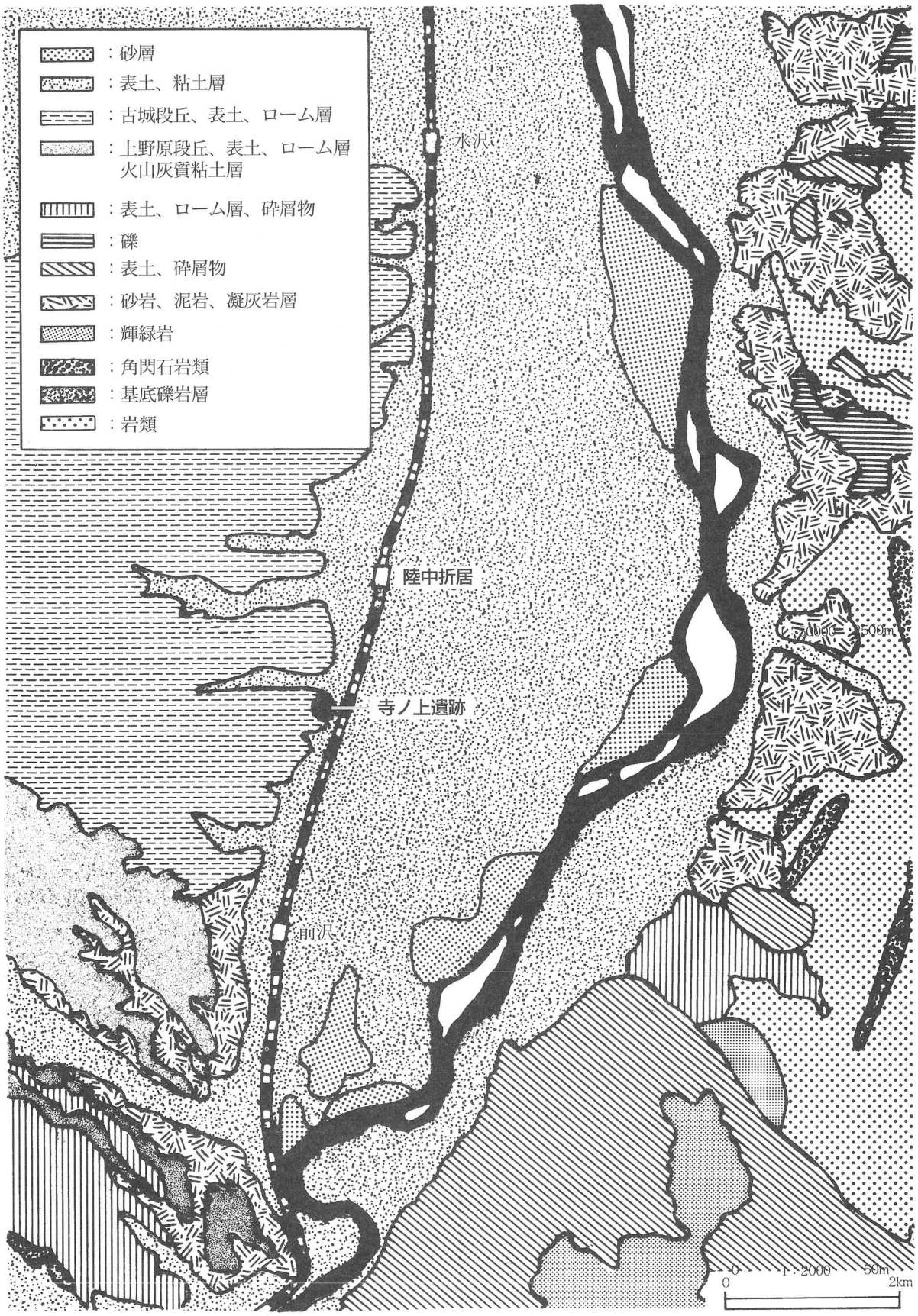

折爪岳
久慈川
安比川
馬淵川
小本川
岩手山
中津川
閉伊川
雫石川
北上川
早池峰山
甲子川
猿ヶ石川
和賀川
胆沢川
盛川
砂鉄川
0
20km

第１図　岩手県全図



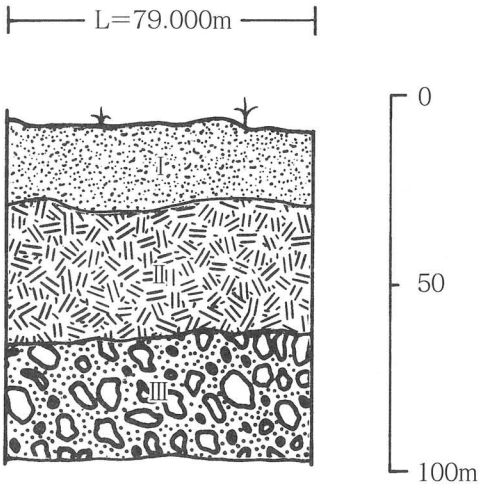
柴山
赤斉美
斉藤
後大畑
前大畑
松ノ木沢
油地
中谷地
徳岡
中の森
岩小林
堰川
養ケ森
簾森
集団
三町歩堤
四ツ屋
外ケ沢
宮沢
栗生沢
北町
要害
拼居町
高代寺
明後沢
川原
小林
古城
寺鎮
横道
板子沢
裏新田
養ケ森
赤坂
山下
北前沢
立石
岩堰
台
谷地
野中前
野田前
前
姥屋敷
籠林
高殿
白山
丑ノ子
明後沢
砂子田
幅
表
高根
水ノ口
檜葉田
松葉
内城
吹張
五輪
学堂
合野
小林
上野
大塚
舘
迎畑
彼岸田
宮内
大街道
大曲
川岸場
内屋敷
川尻
地田
体町
上野
本宿
漆林

第２図　遺跡周辺地形図



第３図　遺跡周辺地形分類図

色土(1～5㎜地山粒)3～5%含む　堅く締まる
粘性あり
第Ⅱ層
10YR5/6黄褐色粘土質シルト　堅く締まる　粘性あり
木根撹乱あり
第Ⅲ層
10YR5/8黄褐色粘土質シルト　5YR3/6暗赤褐色土
(1～1㎝地山粒状)2～3%含む　砂粒2～3㎜を含む
堅く締まる　粘性あり



第4図　基本土層住状図

4．周辺の遺跡

現在、前沢町内では140ヶ所の遺跡が登録されている。第5図には、胆沢平野を中心とする範囲に所在する遺跡の分布を示している。遺跡の時代別分布状況をみると旧石器1、古代23、縄文68、弥生6、平安39、奈良2、中世31、近世16、近代1となっている。この内、複合遺跡は42遺跡ある。しかし、確認・登録はされてはいるものの本調査が行われている遺跡は少なく、平成14年度は、寺ノ上遺跡の外、明後沢遺跡（宗角館・八郎館）、明後沢遺跡（幅・八郎館(２期)）の４遺跡であった。その他には確認調査で終わっている遺跡が5遺跡であり、遺跡全般から弥生、古墳～奈良時代、近代の遺跡の事例が少ないと言える。中世の遺跡としては、安部氏関連の城柵や藤原氏関連の館跡、さらには柏山氏関連の城館がみられる。

＜引用・参考文献＞

前沢町教育委員会　「前沢町史　上巻」

前沢町教育委員会　「前沢町史　下巻」

前沢町教育委員会　「明後沢遺跡群第10次発掘調査概要」　平成13年

前沢町教育委員会　「明後沢遺跡群第11次調査（幅地区）発掘調査概要」　平成13年

前沢町教育委員会　「明後沢遺跡群第14次発掘調査概要」　平成13年

前沢町教育委員会　前沢町埋蔵文化財調査報告第11集「前沢町遺跡地図」

(財)岩手県埋蔵文化センター　調査報告書第317集　平成12年　「川岸場Ⅱ遺跡発掘調査　北上川流域改修事業発掘調査報告書」

第1表　周辺の遺跡一覧表（1）

No	遺跡名		種別	時代／備考
1	古城外ヶ沢		散布地	縄文前期・古代
2	明後沢遺跡群	明後沢	散布地・城館跡？	平安
3		八郎館	城館跡・散布地	縄文・平安・中世
4		宗角館	城館跡	平安・中世
5		熊野	散布地	平安
6		幅	散布地・瓦窯跡？	縄文・平安
7		鳥子沢	散布地	平安・中世
8		前堀	散布地	縄文・古代
9	九郎館		城館跡	中世
10	寺ノ上		散布地・城館跡？	古代・縄文・中世
11	寺ノ上経塚		経塚	中世
12	長者館		城館跡	中世
13	高日向		散布地	弥生・平安
14	古城上野		散布地	縄文中期・古代
15	雷神Ⅱ		散布地	縄文中期
16	古城合ノ沢Ⅰ		集落跡？	縄文古代
17	古城合ノ沢Ⅱ		散布地	縄文
18	北館		環濠屋敷跡	中世
19	北館東Ⅰ		散布地	古代
20	北館東Ⅱ		散布地	縄文・古代
21	館合下		散布地	平安
22	砂子田		散布地	古代
23	林Ⅰ		散布地	古代
24	林Ⅱ		散布地	古代
25	中畑城（樫山城）		城館跡	中世
26	内ノ町		環濠屋敷跡	中世
27	寺領沖		散布地	古代
28	水尻		散布地	縄文・古代
29	古城方八庁		散布地	古代・縄文
30	要害		散布地	縄文・古代
31	亀田		環濠屋敷跡	中世
32	上ノ台		環濠屋敷跡	中世
33	水ノ口		集落跡	縄文・平安
34	六日入		城館跡	古代・中世
35	檜葉田		散布地	平安
36	松葉		散布地	平安
37	学堂		散布地	平安
38	内屋敷		散布地	平安
39	合野		散布地	古代
40	川岸場Ⅰ		散布地	縄文晩期・弥生・平安
41	川岸場Ⅱ		集落跡・環濠屋敷跡	縄文晩期・弥生・平安・近世
42	大室経塚		一字一石経塚	中世末
43	白山上野		散布地	縄文後期
44	小林繁長		散布地	縄文中期・晩期・弥生・平安
45	上麻生城(大麻生柵)		城館跡	古代・中世
46	高田Ⅰ		散布地	縄文
47	高田Ⅱ		散布地・環濠跡	縄文前期・中期・古代・中世
48	五輪経塚		経塚	平安末
49	八幡		散布地	縄文晩期
50	彼岸田		散布地	縄文・平安

第1表　周辺の遺跡一覧表（2）

No	遺　跡　名	種　　別	時　代　／　備　考
51	迎　　畑	散布地	奈良・平安
52	学　堂　Ⅱ	散布地	古代
53	道　　上	散布地	古代
54	川　　前	散布地	古代
55	南　　在	散布地	縄文
56	西館一字―石経塚	経塚	近世
57	西　　館	散布地・城館跡	縄文後期・中世
58	壇　ノ　腰	散布地	縄文・平安
59	六 本 松 館	城館跡	中世
60	大林時(ﾌﾞﾂｹﾞﾝｼﾞ)跡	寺院跡	中世・近世
61	六本松長者屋敷	城館跡（屋敷跡）	中世・近世
62	合　ノ　沢A	散布地	縄文中期・平安・近世
63	合　ノ　沢B	散布地	縄文前期
64	永　　沢	散布地	縄文
65	永　沢　東	散布地	縄文
66	長　　根	散布地	縄文・旧石器
67	徳　沢　Ⅱ	散布地	縄文
68	新　城　Ⅰ	城館跡	縄文・平安・中世
69	新　城　Ⅱ	散布地	縄文
70	新　城　Ⅲ	その他の墓	近世
71	舞 鶴 公 園	散布地	縄文中期・古代
72	徳沢一里塚	一里塚	近世
73	徳　沢　Ⅰ	散布地	縄文
74	照　井　館	散布地・城館跡	縄文前期・平安・中世
75	南　陣　場	散布地	縄文早期・前期
76	小　沢　口	散布地	縄文・平安
77	衣　　関	散布地	平安
78	白　鳥　館	城館跡	縄文・平安・中世
79	塔　ヶ　崎	寺院跡？	近世？
80	泊　ヶ　崎	散布地	縄文・平安
81	南陣場窯跡	窯跡	近世
82	前　沢　城	城館跡	中世
83	三沢氏居館跡	城館跡	近世
84	専念寺山窯跡	窯跡	近世
85	栗　ヶ　島	散布地・環濠屋敷	中世・近世
86	安　倍　館	城館跡？	古代～中世
87	竹　　沢	集落跡	平安
88	谷　　地	散布地	縄文後期
89	五　合　田	その他の墓	近世
90	目呂木本杉	散布地	古代
91	長 壇 高 畑	散布地	平安
92	道　　場	散布地	縄文
93	大　　桜	集落跡	平安
94	養　ヶ　森A	散布地	縄文
95	養　ヶ　森B	散布地	縄文
96	養　ヶ　森C	散布地	縄文
97	養　ヶ　森D	散布地	縄文
98	簾　　森	散布地	縄文
99	上　ノ　原	散布地	縄文
100	狐　　石	散布地	縄文

第1表　周辺の遺跡一覧表（3）

No	遺　跡　名	種　　別	時　代　／　備　考
101	赤　坂　Ⅰ	散布地	縄文
102	赤　坂　Ⅱ	散布地	平安
103	赤　坂　Ⅲ	散布地	縄文
104	駒　　水	散布地	縄文
105	陣　　場	散布地	縄文
106	柳　　沢	散布地	縄文
107	上　　水	散布地	縄文後期
108	箱　　根	散布地	縄文
109	青　　木	散布地	縄文後期・晩期
110	田　　谷	散布地	平安
111	生母長根Ⅰ	散布地・経塚？	縄文・平安末
112	生母長根Ⅱ	経塚？	平安末？
113	気仙坊塚	その他の塚	近世
114	生　母　宿	散布地･屋敷跡	旧石器･近世
115	荒　　谷	散布地	弥生
116	東館(赤生津城)	城館跡	中世
117	二　子　Ⅰ	散布地	縄文中期
118	二　子　Ⅱ	散布地	中世･近世
119	硬　　水	散布地	縄文
120	峠　　Ⅱ	散布地	縄文
121	赤　間　館	城館跡？	中世？
122	新　　田	散布地	縄文
123	峠　　Ⅰ	散布地	縄文
124	蓑　　輪	散布地	縄文前期･中期
125	日　　向	散布地	縄文
126	羽　場　館	城館跡	中世
127	竹　ノ　内	散布地	縄文
128	古　　館	城館跡	中世
129	経　塚　山	経塚？	平安末？
130	安　寺　沢	散布地	縄文
131	石　田　Ⅰ	散布地	縄文
132	一　首　坂	散布地	平安
133	滝　ノ　沢	散布地	縄文
134	六　本　松	散布地	縄文草創期
135	登満羽毛経塚	経塚	平安末
136	古森焼窯跡	窯跡	近世～近代
137	上　　木	集落跡・寺院跡	縄文前期･中期･中世
138	谷　地　前	散布地	縄文
139	上　木　山	散布地	縄文
140	大　谷　地	散布地	弥生

第5図　周辺の遺跡分布図

Ⅲ　調査方法と室内整理

1．野外調査の方法

(1) 調査区の設定

調査区の設定は、南側調査区と北側調査区の2箇所あるため、広い南側調査区の中央を東西方向に横断するように基準点1と2を設けて基準線とした。この基準線に平行及び直交する線を4m間隔で引き、4×4mの方眼とした。実際には直線の交点に杭を打設して区割りを行った。

グリッドの起点を北西に定め、40×40mを大区画とし、4×4mの間隔で10等分して小区画に細分化している。大区画は起点から南にアルファベットの大文字Ａ～Ｂ、東にローマ数字のⅠ～Ⅲに設定し、小区画は南にアルファベットの小文字ａ～ｊ、東に算用数字の０～９を付している。調査区の名称は大区画と小区画の組み合わせでＡⅠ－ａ0、ＢⅢ－ｊ9というように表示した。基準点1・2の成果値（世界測地系）は公共座標上で以下の通りである。

基準点1　X＝－102,104.000　　Y＝25,788.000　　H＝78.252m

基準点2　X＝－102,104.000　　Y＝25,788.000　　H＝77.389m

(2) 粗掘り・遺構検出

調査区域内の数カ所にトレンチを入れて検出面までの深さや層序の確認をした上で、表土の除去を重機で行った。遺構検出面までの土層の除去は人力で行った。検出面はⅡ層上位である。

(3) 遺構の精査・出土遺物の取り上げ

遺構の精査は竪穴住居跡を4分法、掘立柱建物跡・陥し穴状遺構・土坑を2分法、溝状遺構･堀跡については数カ所に土層確認のための土層断面を残して掘り下げた。精査の段階で図面の作成や写真撮影等必要な記録をとった。出土遺物の取り上げは、遺構内のものは遺構名、遺構外のものは小グリッド単位で記入して取り上げた。

(4) 実測

実測は、簡易遣り方測量で行った。実測図は原則として20分の1の縮尺で平面図・断面図を作成した。住居跡、溝状遺構、堀跡等では40分の1の縮尺で図面を作成した。

(5) 写真撮影

写真撮影には、6×7㎝モノクロ1台、35㎜判のモノクロとカラーリバーサル各1台を使用し、遺構の平面図・断面図、遺物の出土状況を中心に撮影した。

2．室内整理

(1) 作業手順

遺構については、現地で作成した実測図の点検、合成、第2原図の作成、トレース、図版作成の順に進めた。遺物については、接合、復元、仕分け、登録を行った後、原則として実測図の作成、トレース、写真撮影、図版作成の順に進めた。

(2) 遺構図版・遺物図版

報告書に掲載した遺構図版の縮尺は以下の通りである。

・竪穴住居跡の平面図・断面図・焼土の断面‥1/60　・柱穴の断面･･･1/120

・掘立柱建物跡の平面図・断面図･･･1/120　・溝状遺構の平面図‥1/150　断面図‥1/75

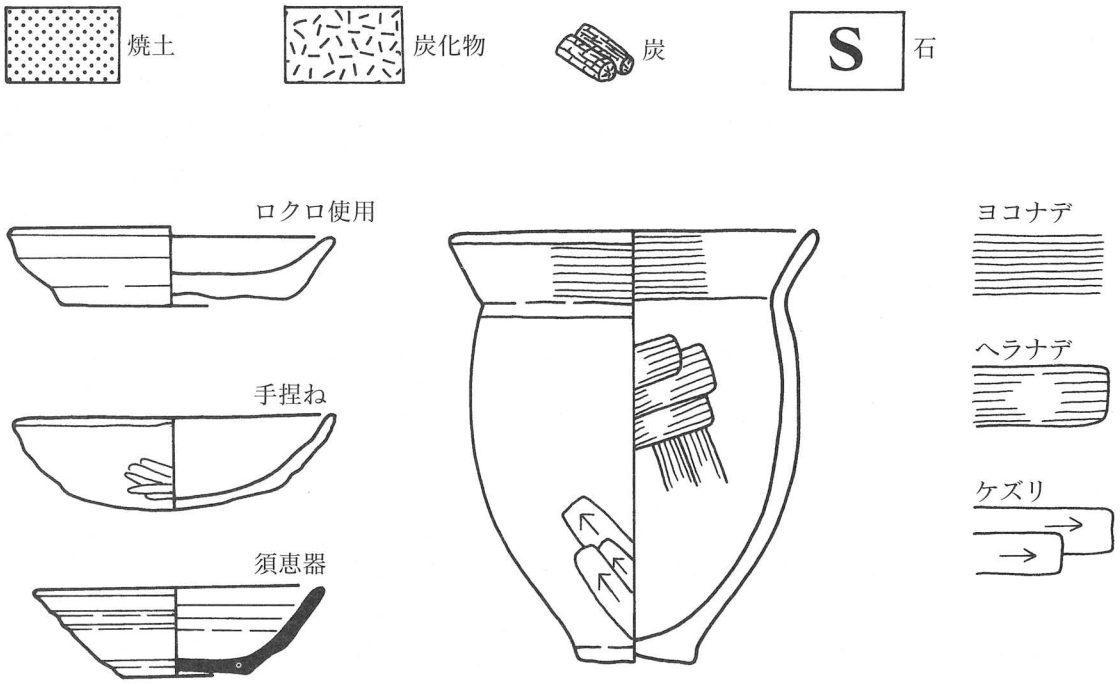
・陥し穴状遺構の平面図・断面図････1/40　・堀跡の平面図・断面図･･･1/20

・土坑の平面図・断面図･･･1/40

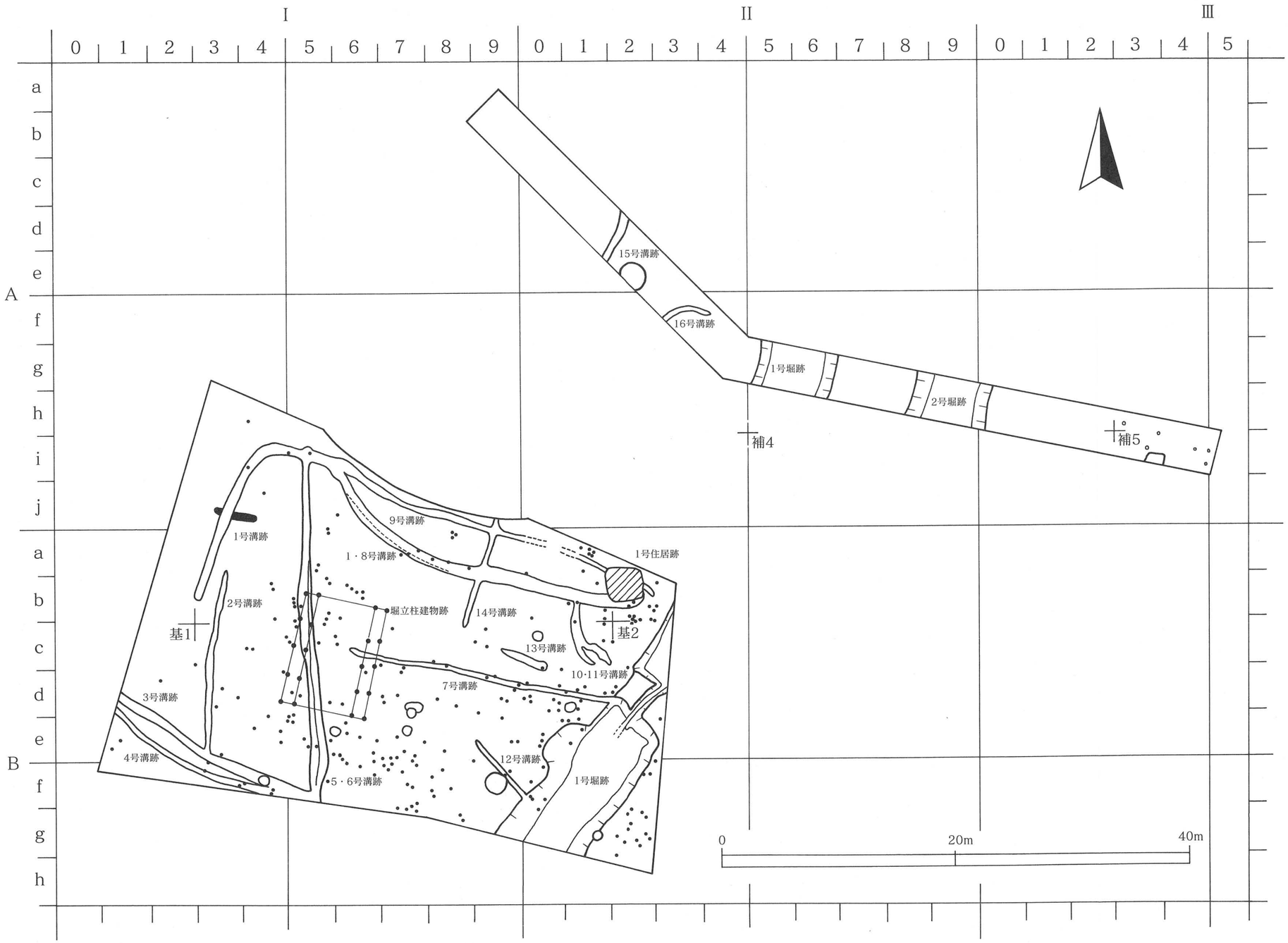
・遺物図版の縮尺は、土器・鉄製品・拓本1/2、1/3である。遺構やその他の写真の縮尺は不定である。なお、遺物図版掲載番号と写真図版掲載番号とは符号する。

・遺構図版における土層断面図には、層位毎に数字を付して色調、土性、混入物等を記してある。

・遺構図版、遺物図版を作成するにあたって、使用したスクリーントーンの種別と土器実測図の凡例は第6図の通りである。



第6図　凡例


I
II
III
A
B
15号溝跡
16号溝跡
1号堀跡
2号堀跡
補4
補5
1号溝跡
2号溝跡
3号溝跡
4号溝跡
5・6号溝跡
7号溝跡
9号溝跡
1・8号溝跡
10・11号溝跡
12号溝跡
13号溝跡
14号溝跡
1号住居跡
1号堀跡
堀立柱建物跡
基1
基2
0
20m
40m

第7図　遺構配置図

Ⅳ　検出された遺構と出土遺物

1．縄文時代の遺構と出土遺物

(1) 陥し穴状遺構（第8図、写真図版5）

＜位置・検出状況・重複＞　南側調査区北西部のAⅠ－j3～AⅠ－j4に位置し、Ⅱ層上面で検出された。西側が溝と重複している。溝より古い。

＜規模・構造・方向＞　開口部3.7×0.72m、底部4.6×0.44m、深さ1.1mで、縦断面形はフラスコ状になっている。長軸方向は東―西方向である。

＜埋土＞　黒褐色土シルトを主体として8層に分かれており、下部は粘土質土である。

＜遺物＞　出土していない。

＜時期＞　形状や類例から縄文時代のものと考える。

(2) 遺物

南調査区の2号溝の埋土から、縄文晩期の鉢の口縁部１点が出土した。縁に刻みがあり、3条の平行沈線が入っている。

北側調査区北東部から縄文後期の鉢の体部と底部の２点が出土した。同一個体と考えられる。胎土に砂が多く混じり摩耗が激しい。特徴は底部が正方形を呈し、体部で大きく内湾する形になっている。

2．中世の遺構と遺構内出土遺物

(1) 竪穴住居跡（第9図、写真図版3）

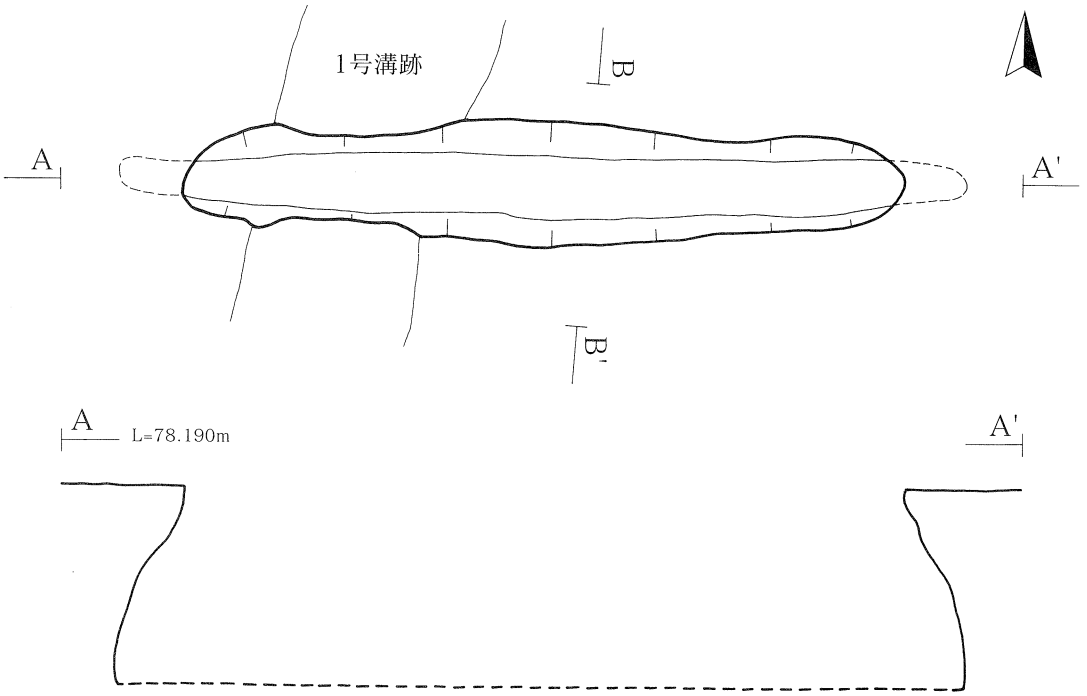
＜位置・検出状況・重複＞　南側調査区の北東部隅、BⅡ－a1・a2・b1・b2グリットに位置する。Ⅱ層上面の黒色土からプランが検出された。西壁南側と南壁が、溝と重複し一部削平されている。溝より古い。

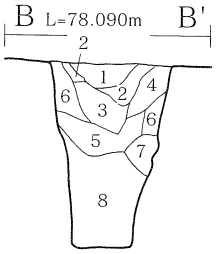
＜平面形・規模＞　平面形は歪みのある隅丸方形を呈している。規模は3.40×3.15mである。

＜埋土＞　埋土上位層は暗褐色土に地山の黄褐色土ブロックが混入している。下位層は黄褐色土、灰黄褐色土粒が多く混じっている。

＜壁・床＞　床面はほぼ平坦で堅く締まり、床面から急傾斜状に壁が立ち上がっている。壁高は東壁22㎝、西壁33㎝、南壁19㎝、北壁38㎝である。南壁は溝に削平され低くなっている。

＜柱穴＞　主柱穴の配置は、Pit１・４・５・12の４基で方形を形成しており、壁に沿って7基の柱穴が巡っている。また、床面にも7基柱穴がある。

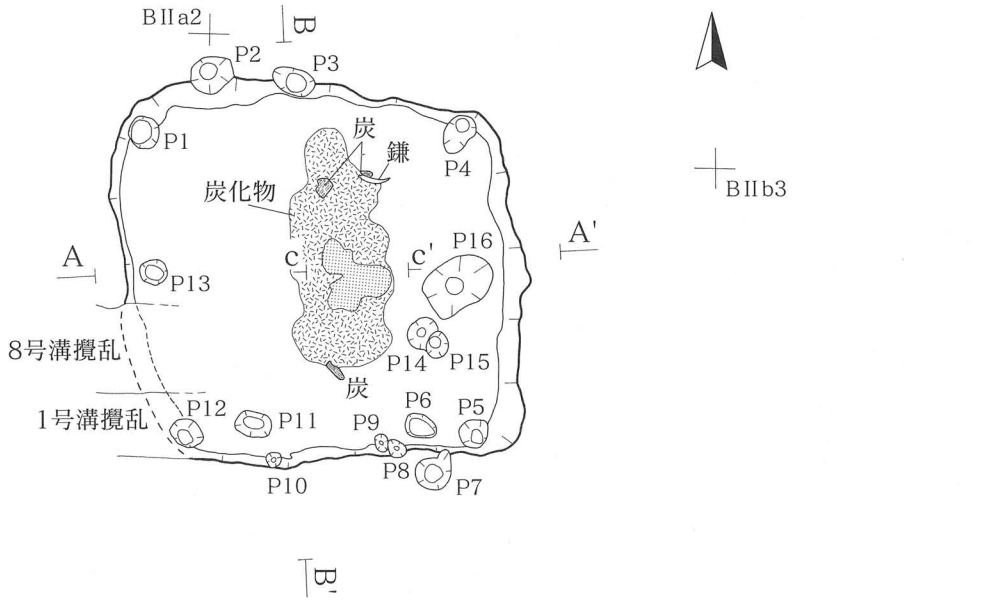


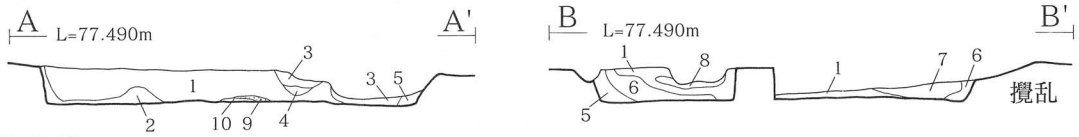


1. 10YR1.7/1黒色シルト　5/8黄褐色(地山粒)1%含む　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR3/2黒褐色シルト　5/8黄褐色(地山粒)5%含む　堅く締まる　粘性あり
3. 10YR3/3黒褐色シルト　5/8黄褐色(地山粒)10%　3/2黒色1%含む
　堅く締まる　粘性あり
4. 10YR4/6褐色と3/3暗褐色に混合土　堅く締まる　粘性あり
5. 10YR4/6褐色粘土質土　締まりあり　粘性あり
6. 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質土　締まりあり　粘性あり
7. 10YR5/6黄褐色シルト　堅く締まる　粘性あり
8. 10YR4/6褐色粘土質土　堅く締まる　粘性あり

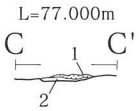
0　1：40　2m

第8図　陥し穴状遺構





A−A'・B−B'
1. 10YR4/3暗褐色　5/8黄褐色　3/3暗褐色　5/6黄褐色の混合土　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR3/3暗褐色　4/4褐色　5/6黄褐色の混合土　堅く締まる　粘性あり
3. 10YR2/3黒褐色　4/6褐色　5/6黄褐色の混合土　堅く締まる　粘性あり
4. 10YR3/3暗褐色　堅く締まる　粘性あり
5. 10YR5/6黄褐色　3/3暗褐色30%含む粘土質土　堅く締まる　粘性あり
6. 10YR4/6褐色　堅く締まる　粘性あり
7. 10YR2/3黒褐色　4/6褐色　3/4暗褐色　8/3浅黄橙の混合土　堅く締まる　粘性あり
8. 10YR6/2灰黄褐色と3/3暗褐色の混合土　堅く締まる　粘性あり
9. 2.5YR4/6赤褐色と5YR5/6明赤褐色の混合土　焼土堅く締まる　粘性あり
10. 2.5YR3/6暗赤褐色　堅く締まる　粘性あり



C−C'
1. 2.5YR4/6赤褐色と5YR5/6明赤褐色の混合土　焼土　堅く締まる　粘性あり
2. 2.5YR3/6暗赤褐色　堅く締まる　粘性あり

0　1：60　2m

第9図　竪穴住居跡

第2表　竪穴住居跡柱穴一覧表

柱穴No.	直径cm	深さcm	柱穴No.	直径cm	深さcm	柱穴No.	直径cm	深さcm
1	23×26	21.2	7	28×30	32.0	13	18×20	10.6
2	29×36	37.2	8	14×18	7.2	14	18×30	5.4
3	23×34	35.8	9	11×14	15.4	15	17×24	2.9
4	21×34	28.4	10	14×16	19.5	16	40×57	8.5
5	23×24	25.5	11	22×30	11.4			
6	23×27	10.5	12	22×25	23.0			

＜焼土＞　床面中央部よりやや東に位置する。約45×54cmの不正形の範囲に、最大3～6cmの厚さで焼土層が検出された。上位層は2.5YR4/6赤褐色と5YR5/6明褐色の混土と下位層は5YR3/6暗褐色の2層になっている。

＜炉＞　検出されなかった。

＜その他＞　床面中央から炭化物が広範囲で検出された。炭化物の鑑定は床面A．B．Cから採取し鑑定をして頂いた。Aはタモの木、B．Cは判定不能であった。

＜遺物＞（第25図、写真図版15）

床面北壁寄り埋土から、鉄製の鎌の一部が出土している。大きさは13cmで頸部から刃部にかけての部分で、両端は欠損している。

＜時期＞　柱穴の配置の特徴から、中世の住居跡と考えられる。

（2）掘立柱建物跡（第10・11図、写真図版4）

＜位置＞　南側調査区南西部のB。－b5～B。－b7からB。－d4～B。－e6で検出された。

＜規模・方向・構造＞　南北4間10.05m、東西1間4.56mの棟方向は南北方向の建物である。東西両側に約１m幅の庇を備えている。

＜柱配置・柱間＞　柱配置は、長方形を呈し整然と配置されている。南北方向の柱間は、東側P5－P1：1.89m、P1－P2：1.85m、P2－P3：1.78m、P3－P4：2.17m、西側P22－P21:1.83m、P21－P20：1.98m、P20－P19：1.80m、P19－P14:2.20mである。東西の柱間は、南側P22－P5:4.56m、北側P14－P4:4.56mである。北側のP4-P3とP14－P19の間隔が約2.20mと他の3間より30～40cm広めに取られているのが分かる。

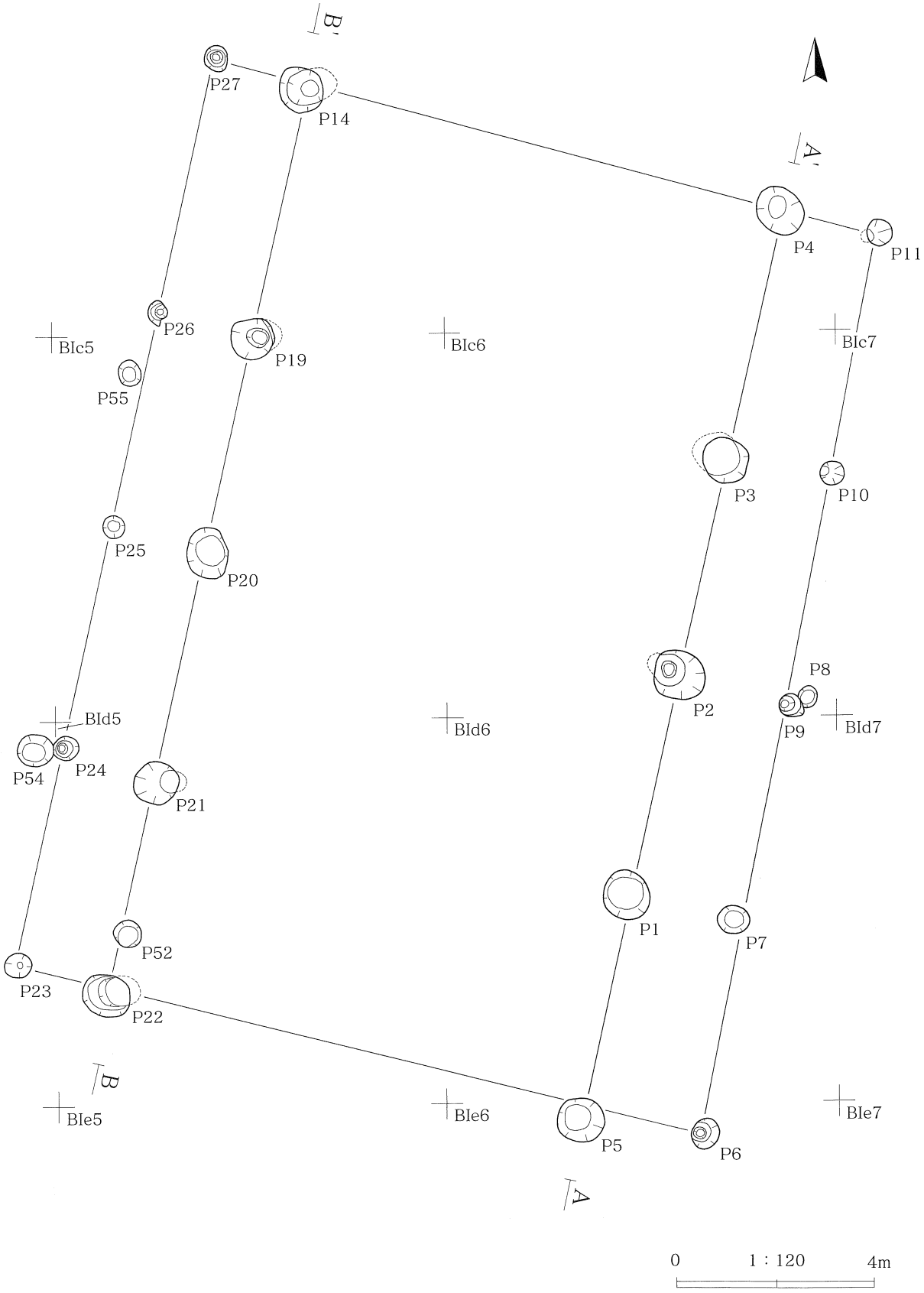
＜掘り方＞　柱穴の掘り方は径44×42cm～56×49cmで、平均47cmの円形及び楕円形を呈し、深さは52～75cmある。また、庇も主柱に平行に配置されており柱穴の径23×23～33×29cm、径平均26.3cm、深さ52～72cmである。

埋土は、２～４層からなり黒褐色土～暗褐色土が主体で構成され、黄褐色土～にぶい黄褐色土、及び炭化物が混入し、締まりはあるが幾分柔らかい。柱痕はP1で確認され、径17cmの円形である。他の3基の土層は上下に分かれる２層である。

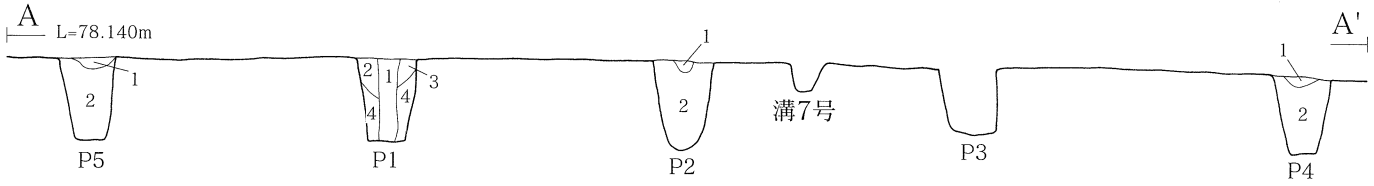
＜その他＞　建物跡内の西側を５号・６号溝が南北方向に走りP1・P20・P26・P27を削平している。溝が新しい。また、東側中央上に7号溝が2mほど建物の敷地内を通っているが、切り合いがないため新旧は不明である。

＜遺物＞　P4埋土下位から、かわらけ22が出土している。

＜時期＞　時期は不明である。


B'
A'
P27
P14
P4
P11
P26
P19
BIc5
BIc6
BIc7
P55
P3
P10
P25
P20
P8
P2
BId5
BId6
P9
BId7
P54
P24
P21
P1
P7
P52
P23
P22
B
BIe5
BIe6
BIe7
P5
P6
A
0
1：120
4m

第10図　掘立柱建物跡

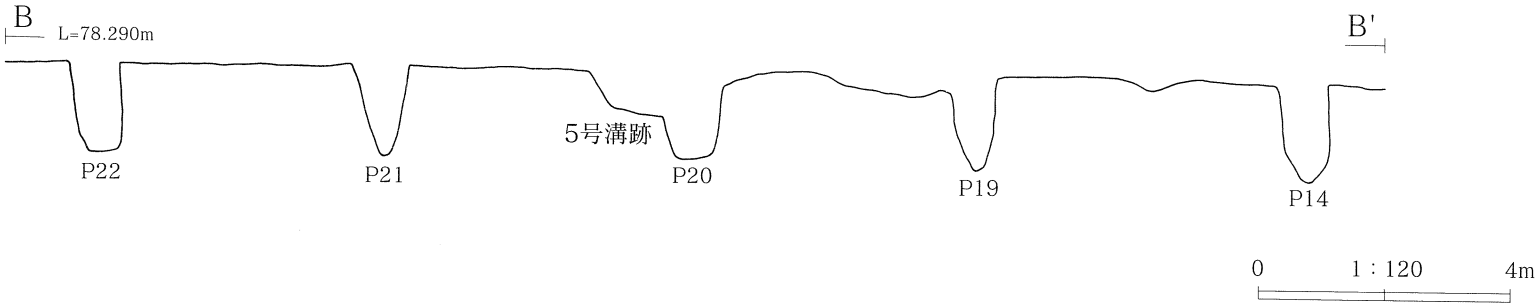


[P5]
1. 10YR3/2黒褐色と4/6褐色の混合土　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR3/4暗褐色と4/6褐色と5/6黄褐色の混合土　締まり無し　粘性あり

[P4]
1. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　4/6褐色2%含む　締まりあり　粘性あり
2. 10YR3/2黒褐色シルト　5/6黄褐色2%含む　締まりあり　粘性強い

[P1]
1. 10YR3/3暗褐色シルト　5/6黄褐色3%含む　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR4/6褐色粘土質土　3/2黒褐色5%　炭化物1%未含む　堅く締まる　粘性あり
3. 10YR3/2黒褐色と4/6褐色の混合土　締りあり　粘性あり
4. 10YR3/3暗褐色と4/6褐色の混合土　締りあり　粘性あり

[P2]
1. 10YR3/3暗褐色　4/6褐色3%含む　締まりあり　粘性あり
2. 10YR3/3暗褐色と4/6褐色の混合土　締まりあり　粘性あり



第11図　掘立柱建物跡断面

（3）土坑

1号土坑（第12図、写真図版5）

＜位置・検出状況＞　南側調査区BⅠ－e7に位置し、Ⅱ層上面で検出された。

＜規模・平面形＞　開口部87×82㎝、底部50×49㎝、深さ99.3㎝の円形を呈する。

＜形態＞　底面から直線的に立ち上がり、断面形は逆台形である。

＜埋土＞　黒褐色土～暗褐色土を主体に、地山粒を含み、底部は締まりにかけるが、上層にいくにしたがって硬く締まる。

＜遺物＞　土師器1の小片が1点出土した。甕の頸部～口縁部で、胎土は砂粒を含み金雲母が混入し、口縁部は外反している。

＜時期＞　中世と考えられる。

2号土坑（第12図、写真図版5）

＜位置・検出状況・重複＞　南側調査区BⅠ－d7～BⅠ－e7に位置し、Ⅱ層上面で検出された。北側の一部が3号土坑と重複し、2号土坑が新しい。

＜規模・平面形＞　開口部1.03×0.9m、底部53×46㎝、深さ1.06mの円形を呈する。

＜形態＞　底面から直線的に立ち上がり、断面形は逆台形である。

＜埋土＞　暗褐色土を主体に、褐色土を含み、底部は締まりにかけるが、上層にいくにしたがって硬く締まる。

＜遺物＞　2の須恵器破片が1点出土した。甕の体部で、叩き目と内側には当て具痕が見られる。胎土は砂粒を小量含んでいるがきめ細かい。

＜時期＞　中世と考えられる。

3号土坑（第12図、写真図版6）

＜位置・検出状況・重複＞　南側調査区BⅠ－d7に位置し、Ⅱ層上面で検出された。南側の一部が2号土坑と重複している。3号土坑が古い。

＜規模・平面形＞　開口部2.17×1.3m、底部1.87×1.0m、深さ13㎝の楕円形を呈する。

＜形態＞　底面から内彎し立ち上がり、浅い皿状になっている。

＜埋土＞　暗褐色土を主体に褐色土を含み、粘性があり硬く締まる。

＜遺物＞　かわらけが３点出土した。いずれもロクロ形成でヨコナデが施されている。かわらけ4が静止糸切り痕、5・6では回転糸切り痕が見られ、15世紀のものと考えられる。

＜時期＞　出土遺物から中世のものと考えられる。

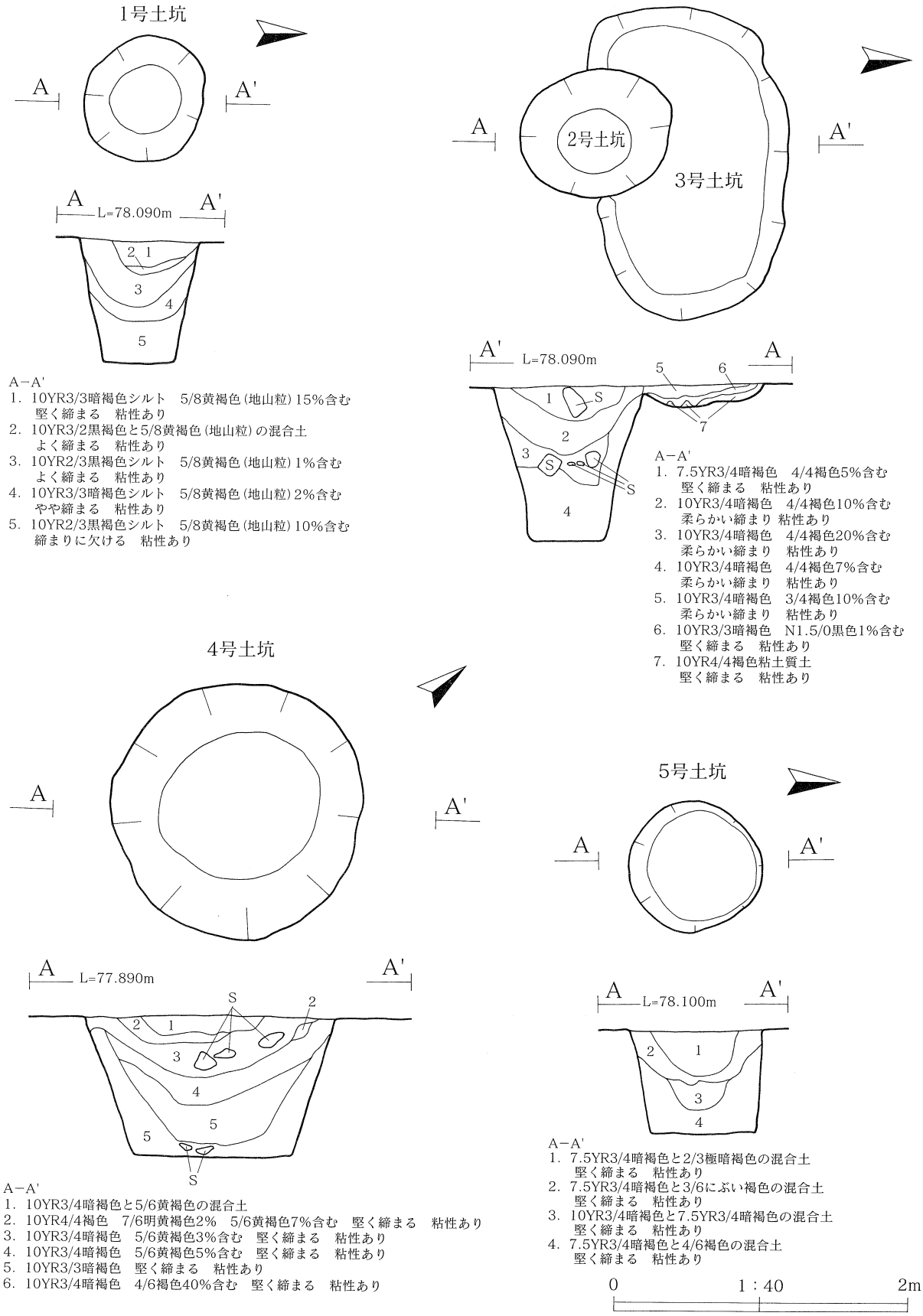
4号土坑（第12図、写真図版6）

＜位置・検出状況・重複＞　南側調査区BⅠ－ｆ9に位置し、Ⅱ層上面で検出された。北側の一部が溝と重複している。4号土坑が古い。

＜規模・平面形＞　開口部1.84×1.78m、底部1.15×0.98m、深さ1.17mで開口部は円形を呈する。

＜形態＞　底面から開口部まで直線的に立ち上がり、断面形は逆台形になっている。

＜埋土＞　褐色土～暗褐色土を主体に、地山の黄褐色土を含む。３層約10～40㎝の深さの所に10～20㎝の


1号土坑
A
A'
A
L=78.090m
A'
2
1
3
4
5
A−A'
1. 10YR3/3暗褐色シルト　5/8黄褐色(地山粒)15%含む
堅く締まる　粘性あり
2. 10YR3/2黒褐色と5/8黄褐色(地山粒)の混合土
よく締まる　粘性あり
3. 10YR2/3黒褐色シルト　5/8黄褐色(地山粒)1%含む
よく締まる　粘性あり
4. 10YR3/3暗褐色シルト　5/8黄褐色(地山粒)2%含む
やや締まる　粘性あり
5. 10YR2/3黒褐色シルト　5/8黄褐色(地山粒)10%含む
締まりに欠ける　粘性あり
2号土坑
3号土坑
A
A'
A'
L=78.090m
A
5
6
1
S
2
7
3
S
S
4
A−A'
1. 7.5YR3/4暗褐色　4/4褐色5%含む
堅く締まる　粘性あり
2. 10YR3/4暗褐色　4/4褐色10%含む
柔らかい締まり 粘性あり
3. 10YR3/4暗褐色　4/4褐色20%含む
柔らかい締まり　粘性あり
4. 10YR3/4暗褐色　4/4褐色7%含む
柔らかい締まり　粘性あり
5. 10YR3/4暗褐色　3/4褐色10%含む
柔らかい締まり　粘性あり
6. 10YR3/3暗褐色　N1.5/0黒色1%含む
堅く締まる　粘性あり
7. 10YR4/4褐色粘土質土
堅く締まる　粘性あり
4号土坑
A
A'
A
L=77.890m
A'
S
2
2
1
3
4
5
5
S
A−A'
1. 10YR3/4暗褐色と5/6黄褐色の混合土
2. 10YR4/4褐色　7/6明黄褐色2%　5/6黄褐色7%含む　堅く締まる　粘性あり
3. 10YR3/4暗褐色　5/6黄褐色3%含む　堅く締まる　粘性あり
4. 10YR3/4暗褐色　5/6黄褐色5%含む　堅く締まる　粘性あり
5. 10YR3/3暗褐色　堅く締まる　粘性あり
6. 10YR3/4暗褐色　4/6褐色40%含む　堅く締まる　粘性あり
5号土坑
A
A'
A
L=78.100m
A'
2
1
3
4
A−A'
1. 7.5YR3/4暗褐色と2/3極暗褐色の混合土
堅く締まる　粘性あり
2. 7.5YR3/4暗褐色と3/6にぶい褐色の混合土
堅く締まる　粘性あり
3. 10YR3/4暗褐色と7.5YR3/4暗褐色の混合土
堅く締まる　粘性あり
4. 7.5YR3/4暗褐色と4/6褐色の混合土
堅く締まる　粘性あり
0
1：40
2m

第12図　1～5号土坑

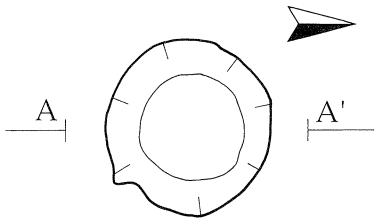
石が人為的に捨てられていた。また、遺物も石の上に捨てられた形で出土している。粘性があり堅く締まる。
＜遺物＞　須恵器３点、中国産陶器の破片２点が出土している。須恵器7・9は甕の体部で、叩き目と内面に当て具痕が同様に見られ、須恵器8の底部も出土している。中国産陶器10・11の壷2点は、同一個体で壷の体部上半から頸部部分である。褐釉が両面に施され明褐色で、約5cmの耳が１つ付き、波状沈線が2点に見られる。
＜時期＞　中国産陶器が日本に入ってくるのが、鎌倉・室町からまでであることと、須恵器から見て中世と考えられる。

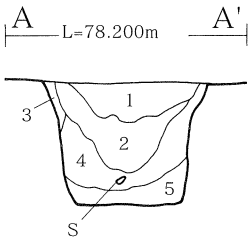
５号土坑（第12図、写真図版6）
＜位置・検出状況＞　南側調査区BⅡ－d0～ BⅡ－d1に位置し、Ⅱ層上面で検出された。
＜規模・平面形＞　開口部93×88cm、底部74×74cm、深さ81.4cmで開口部は円形を呈する。
＜形態＞　底面から開口部まで直線的に立ち上がり、断面形は逆台形になっている。
＜埋土＞　暗褐色土を主体に、極暗褐色土または、にぶい褐色土を含む。粘性があり硬く締まる。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　時期不明。

６号土坑（第13図、写真図版7）
＜位置・検出状況・重複＞　南側調査区BⅡ－c0に位置し、Ⅱ層上面で検出された。
＜規模・平面形＞　開口部93×86cm、底部56×54cm、深さ67.1cmで開口部は円形を呈する。
＜形態＞　中位からやや外反して立ち上がり、断面形は逆台形になっている。
＜埋土＞　褐色土～黒褐色土を主体に、地山の黄褐色土を含む。
＜遺物＞　かわらけ1点が出土している。底部～体部の破片でロクロ形成されヨコナデが見られる。底部から口縁部に緩やかに立ち上がっている。さらに口縁部の割れ口の厚さが8mmあることから大きなかわらけであることが推測される。
＜時期＞　中世と考えられる。

７号土坑（第13図、写真図版7）
＜位置・検出状況・重複＞　南側調査区BⅠ－f4に位置し、Ⅱ層上面で検出された。溝が中央上部を東西方向に横切っている。溝の精査中に底部が深く広がってきた為に土坑の存在に気付いた。7号土坑が古い。
＜規模・平面形＞　開口部1.42×1.15m、底部1.24×0.78m、深さ78.5cmで開口部は不正な楕円形を呈する。
＜形態＞　底面が平らで広くできている。底面中央部から柱穴跡が検出された。規模は直径22×21cm、深さ25.8cmである。中位付近に段差が見られる。検出当初は土坑と判断していたが、底部の柱穴跡が杭を立てていた柱穴であるとすれば、陥し穴状遺構の可能性もあると考えられる。
＜埋土＞　土層注記記載なし。土坑であることが分かったのが遅かった為に埋土を確認できなかった。
＜遺物＞　出土しない。
＜時期＞　時期不明。

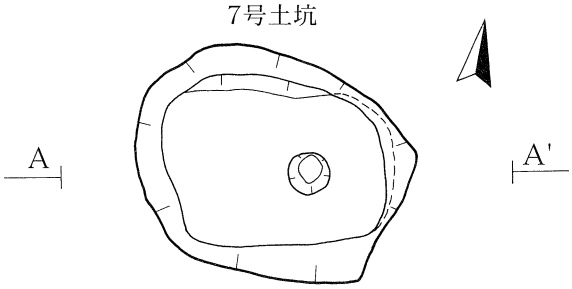
6号土坑

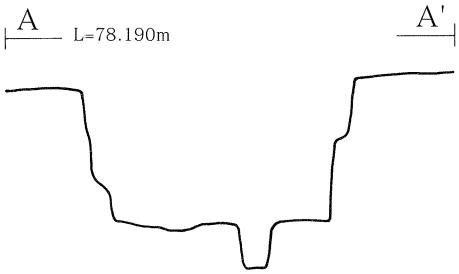




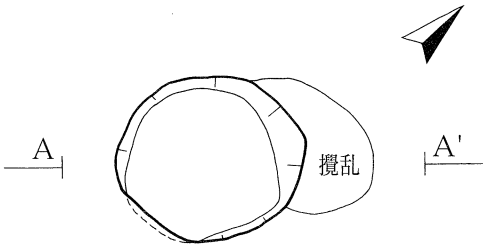
A−A'
1. 10YR2/3黒褐色　5/6黄褐色3%含む　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR3/4暗褐色　5/6黄褐色15%含む　堅く締まる　粘性あり
3. 10YR5/6黄褐色粘土質土　堅く締まる　粘性あり
4. 10YR4/6褐色　3/4暗褐色50%含む　堅く締まる　粘性あり
5. 10YR4/6褐色　3/4暗褐色20%含む　堅く締まる　粘性あり

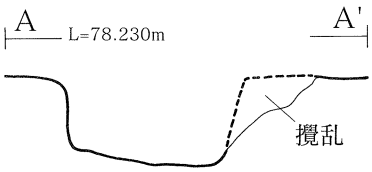
7号土坑



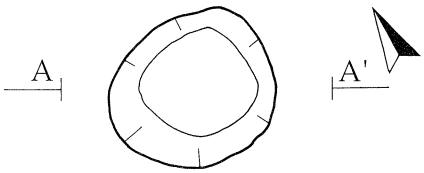


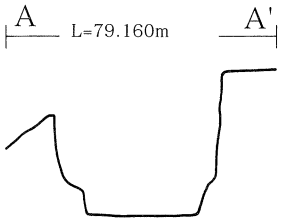
8号土坑

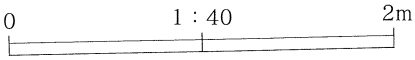




9号土坑







第13図　6～9号土坑

8号土坑（第13図）

＜位置・検出状況＞　南側調査区BⅠ－e5～BⅠ－e6に位置し、Ⅱ層上面で検出された。

＜規模・平面形＞　開口部99×87㎝、底部83×77㎝、深さ45㎝で開口部は不整な楕円形を呈する。

＜形態＞　底部は西側から東側に向けて下に傾斜している。壁面西側は底部から垂直に立ち上がっている。また、東側は土の下に緩やかな立ち上がりを見せている。

＜埋土＞　土層注記記載なし。

＜遺物＞　出土していない。

＜時期＞　時期不明。

9号土坑（第13図、写真図版7）

＜位置・検出状況・重複＞　南側調査区BⅡ－g1に位置し、Ⅱ層上面で検出された。1号堀の東斜面上に位置し開口部西側が重複している。堀との新旧関係は不明である。

＜規模・平面形＞　開口部88×79㎝、底部58×52㎝、深さ63.4㎝で開口部は円形を呈する。

＜形態＞　1号堀の東斜面に位置している為、開口部西側が重複し低くなっている。

＜埋土＞　土層注記記載なし。

＜遺物＞　出土していない。

＜時期＞　時期不明。

10号土坑（第14図、写真図版7）

＜位置・検出状況・重複＞　北側調査区AⅢ－I3に位置し、地山面で検出された。南側の一部が調査区域外にある。

＜規模・平面形＞　開口部2.91×1.51m(調査区域外)、深さ52.4㎝で開口部は長方形を呈する。南側が調査区域外にあるため、方形若しくは長方形と推察される。

＜形態＞　底部はほぼ平らで壁面が垂直に立ち上がっている。

＜埋土＞　褐色土～暗褐色土を主体として、地山粒、黄褐色土、にぶい橙色土等を含む。

＜遺物＞　出土していない。

＜時期＞　時期不明。

11号土坑（第14図、写真図版7）

＜位置・検出状況＞　北側調査区AⅡ－e2に位置し、地山面で検出された。南側の一部が調査区域外にある。

＜規模・平面形＞　開口部2.36×2.17m、底部87×69㎝、深さ72㎝で開口部は楕円形を呈する。

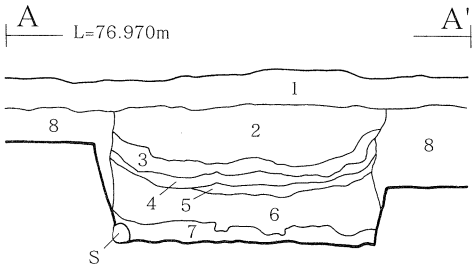
＜形態＞　底部から壁面が外側45°方向に外傾しながら立ち上がる。

＜埋土＞　黒褐色土～褐色土を主体に、地山粒、炭化物粒、焼土粒等を含む。

＜遺物＞　かわらけ13～16の4点が出土し、いずれも15世紀のものと考えられる。

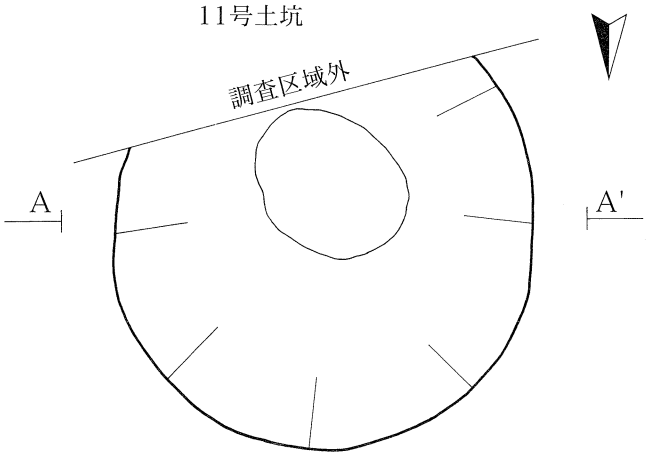
＜時期＞　出土遺物から中世と考えられる。

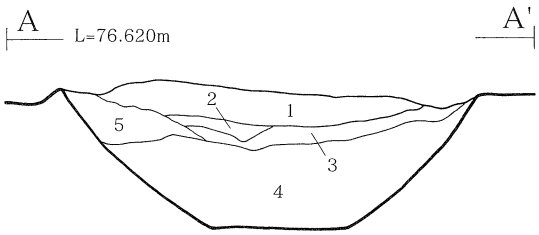
10号土坑



A−A'
1. 10YR3/4暗褐色　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR4/4褐色　7.5YR6/6褐色2%含む　堅く締まる　粘性あり
3. 10YR4/4褐色　7/4にぶい橙色15%　N2/0黒色2%　7.5YR4/6褐色3%含む　堅く締まる　粘性あり
4. 10YR4/4褐色　5/6黄褐色10%含む　堅く締まる　粘性あり
5. 10YR4/4褐色　N2/0黒色30%　7.5YR2/3極暗褐色　4/6褐色3%含む　堅く締まる　粘性あり
6. 10YR4/4褐色　7/4にぶい橙色3%　5/6黄褐色3%　堅く締まる　粘性あり
7. 10YR7/4にぶい橙色　6/8明黄褐色5%　4/4褐色5%含む粘土質土　堅く締まる　粘性あり
8. 10YR4/4褐色と5/6黄褐色30%の混合土　堅く締まる　粘性あり

11号土坑





A−A'
1. 10YR2/2黒褐色粘土質シルト　炭化物粒状1mm2%含む　堅く締まる　粘性強い　遺物含む
2. 10YR2/3黒褐色粘土質シルト　堅く締まる　粘性あり
3. 10YR3/3暗褐色粘土質シルト　焼土粒含む　堅く締まる　粘性あり
4. 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト　堅く締まる　粘性あり
5. 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト　5/8黄褐色（地山）ブロック状に含む　堅く締まる　粘性強い

0　1：40　2m

第14図　10・11号土坑

（4）柱穴遺構（第15～18図）

＜位置・検出状況＞　南側調査区から250基（掘立柱建物跡の20基含む）、北側調査区から6基合わせて、256基検出された。検出状況は、ほとんどがⅡ層上面からの検出であるが溝状遺構、堀跡斜面等の他の遺構内からもある。

＜規模・平面形＞　直径は14×15～56×59㎝、深さ4.7～77.4㎝で、円形状が大部分を占める。

＜埋土＞　褐色土～暗褐色土を主体とし、黄褐色土が混じる。

＜遺物＞　P14の埋土から22のかわらけ１点が出土した。

＜時期＞　時期は不明。

（5）溝跡

１号溝跡（第19図、写真図版8）

＜位置・検出状況・重複＞　南側調査区の北側に位置し、北西BⅠ－b3からAⅠ－i4まで北に向かい大きく南東方向に曲がりBⅡ－b2に達する。Ⅱ層上位面で検出した。8号溝がAⅠ－i6～BⅡ－b2まで溝中央から南壁を切り平行している。また、BⅡ－b1･2で住居跡の西側壁と南側壁を切り、北東部を14号溝が横切る。新旧関係は不明であるが、8号より古く住居跡より新しい。

＜規模・平面形・方向＞　上幅0.71～1.04m（1･8号0.64～1.54m）、下幅55～71㎝（1･8号10～40㎝）、深さ30.1～49.9㎝、全長47.55mにわたって検出された。方向は南－北から大きく右に曲がり西－東へ向かっている。

＜埋土＞　褐色土～暗褐色土が主体で黄褐色土が混じる。

＜遺物＞　手捏ねかわらけ19の１点が出土し、15世紀のものと考えられる。

＜時期＞　出土遺物および、住居跡より新しいことから中世と考える。

２号溝（第20図、写真図版9）

＜位置・検出状況・重複＞　南側調査区西側BⅠ－a3～BⅠ－e3に位置する。Ⅱ層上面で検出した。南端で3号溝につながる形になっている。

＜規模・平面形・方向＞　上幅30～60㎝、下幅18～49㎝、深さ0.8～14.5㎝、全長は15.48mである。方向は北―南である。

＜埋土＞　褐色土～暗褐色土が主体で黄褐色土が混じる。

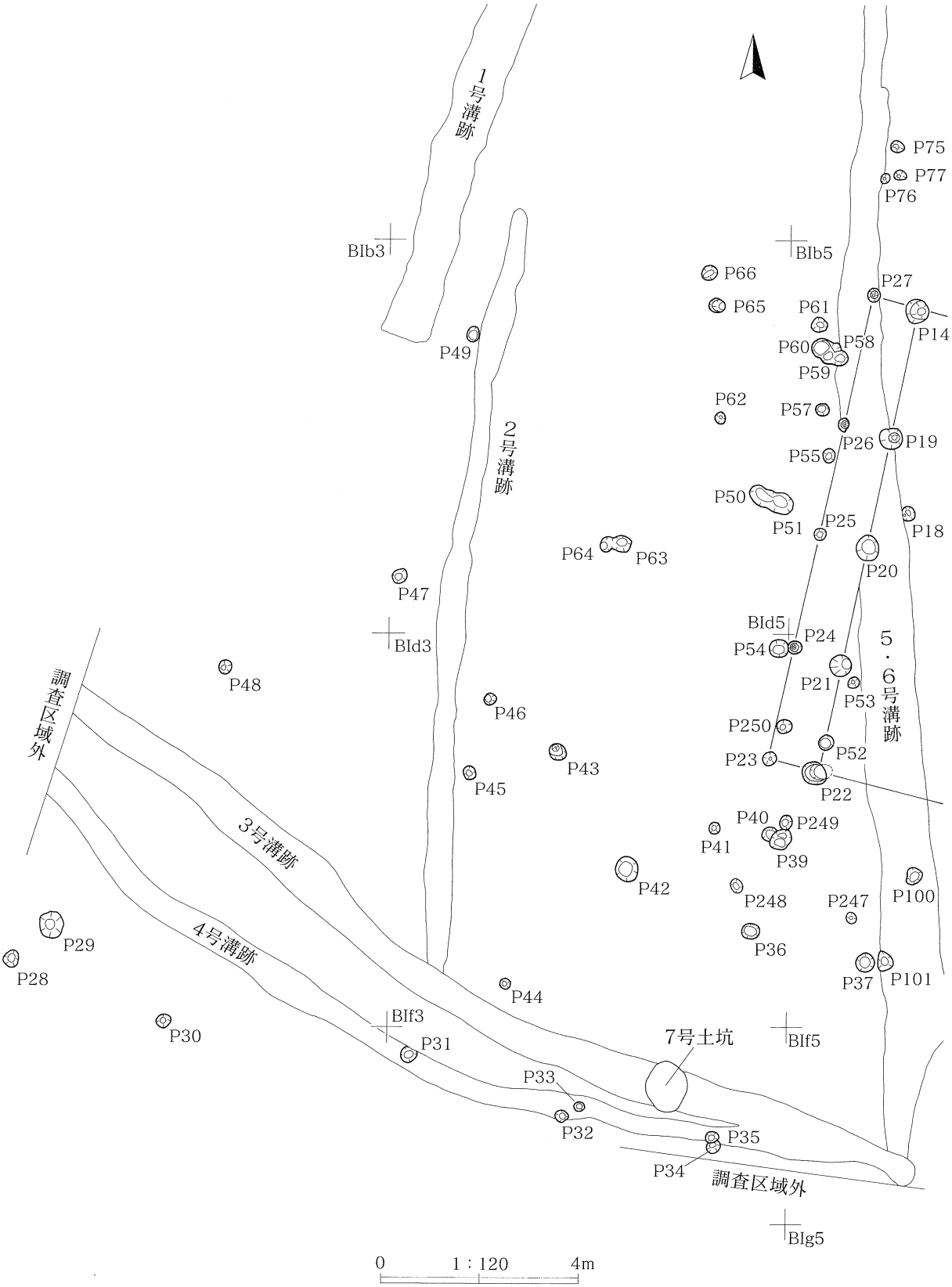
＜遺物＞　縄文晩期20の鉢の口縁部分1点が出土した。

＜時期＞　縄文晩期の出土遺物は1点のみであることから、流れ込みの可能性があり時期は特定できない。

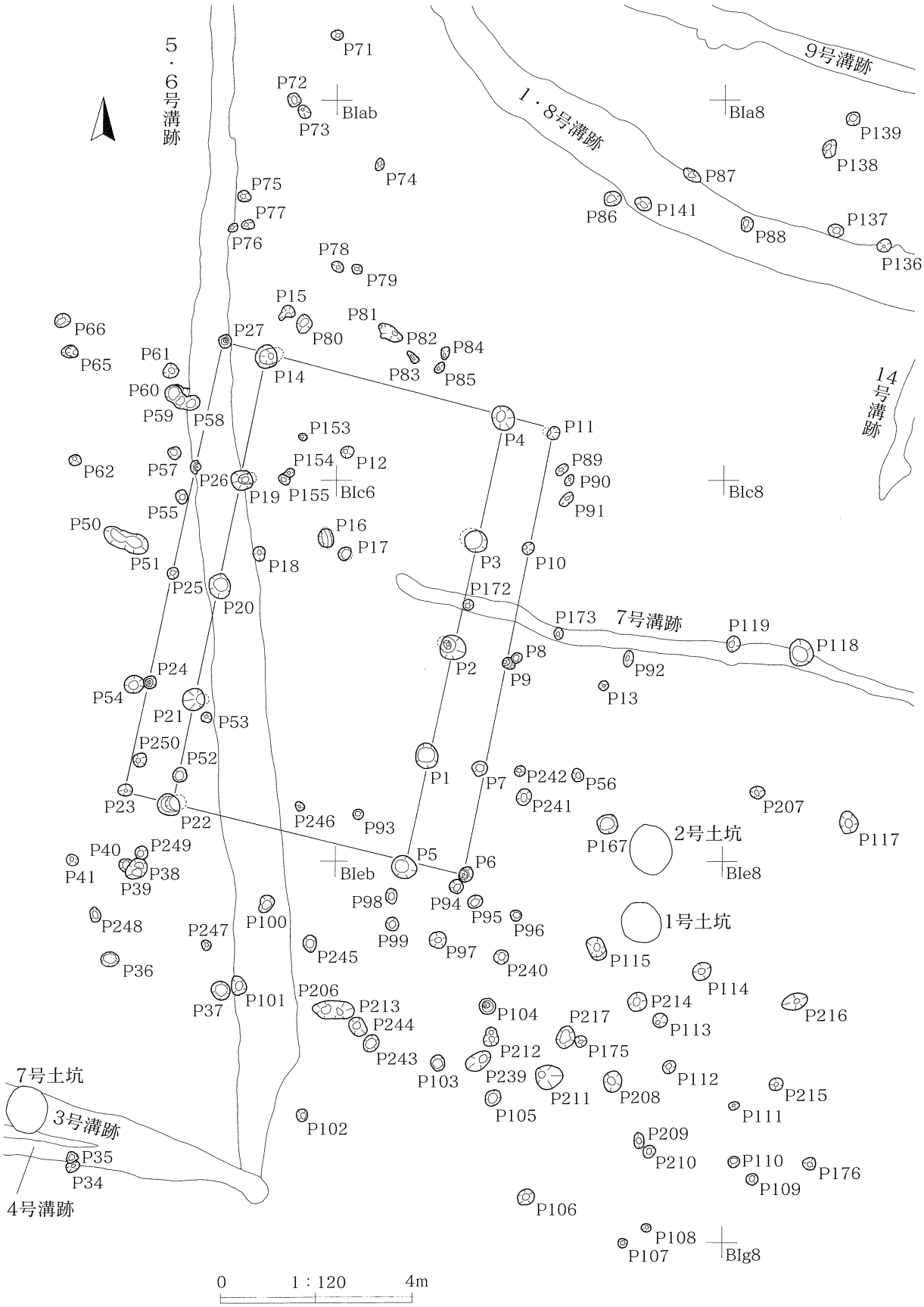
3号溝跡（第20図、写真図版9）

＜位置･検出状況・重複＞　南側調査区南西隅BⅠ－d3～BⅠ－f4に位置する。Ⅱ層上面で検出した。中央付近で2号溝が直交する形になっている。東側で7号土抗と重複し、土抗より溝が新しい。また、東端で4号溝と重複する。新旧関係は切り合いで3号溝の方が幾分多く残っているが、立ち上がりが急なため特定はできない。

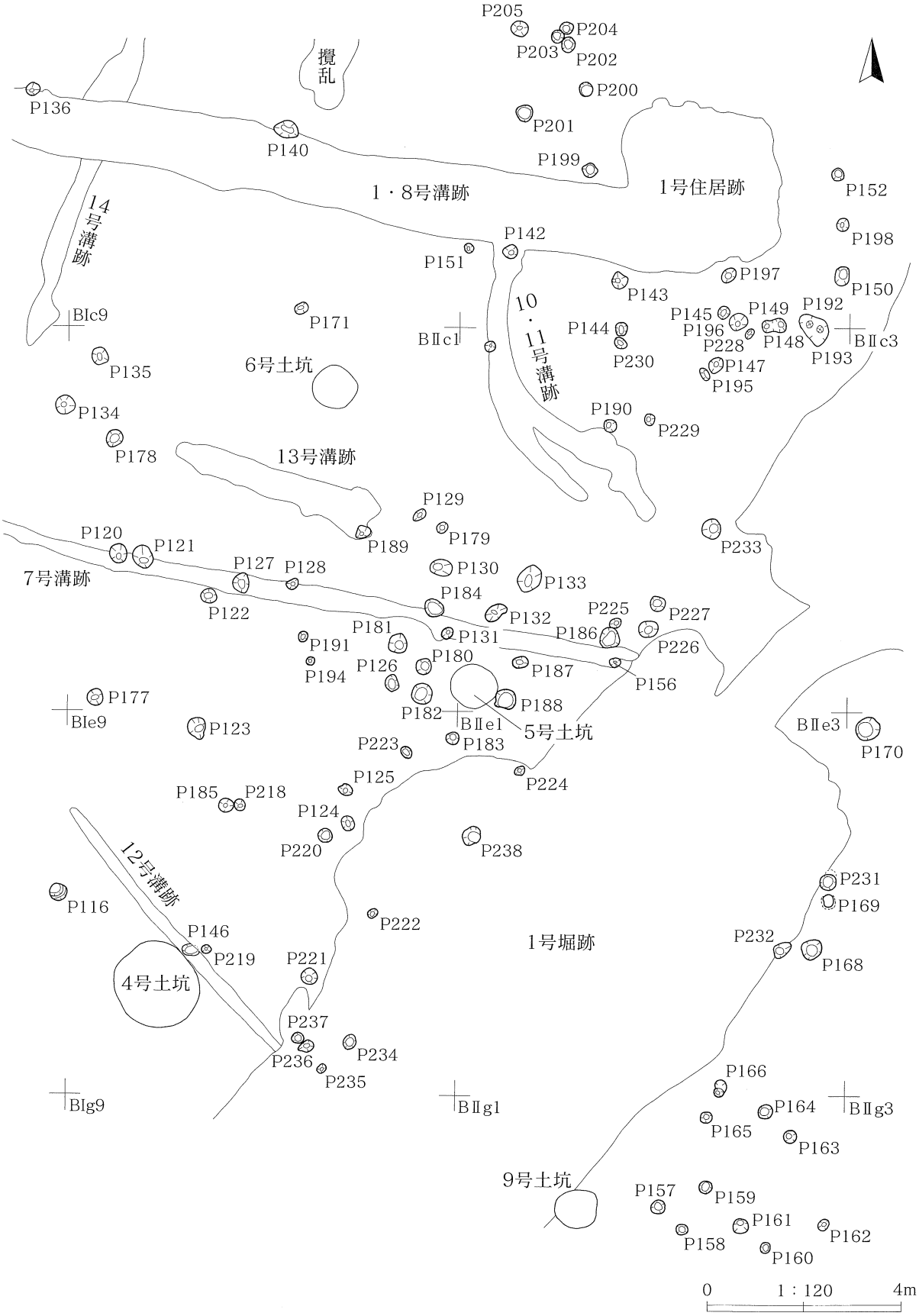
＜規模・平面形・方向＞　上幅76～94㎝、下幅18～43㎝、深さ10.9～37.7㎝、全長19･40m、西―南東に向かい南方向に緩やかに弧を描いている。


1号溝跡
2号溝跡
3号溝跡
4号溝跡
5・6号溝跡
調査区域外
調査区域外
7号土坑
BIb3
BIb5
BId3
BId5
BIf3
BIf5
BIg5
P75
P77
P76
P66
P65
P27
P61
P14
P60
P58
P59
P49
P62
P57
P26
P19
P55
P50
P51
P25
P18
P64
P63
P20
P47
P24
P54
P48
P21
P53
P46
P250
P52
P43
P23
P45
P22
P40
P249
P41
P39
P42
P248
P247
P100
P29
P36
P28
P37
P101
P44
P30
P31
P33
P32
P35
P34
0
1：120
4m

第15図　柱穴遺構（1）


5・6号溝跡
1・8号溝跡
9号溝跡
14号溝跡
7号溝跡
3号溝跡
4号溝跡
7号土坑
2号土坑
1号土坑
BIab
BIa8
BIc6
BIc8
BIeb
BIe8
BIg8
P71
P72
P73
P74
P75
P76
P77
P78
P79
P80
P81
P82
P83
P84
P85
P86
P87
P88
P136
P137
P138
P139
P141
P66
P65
P61
P60
P59
P58
P27
P14
P15
P153
P154
P12
P155
P62
P57
P26
P19
P55
P50
P51
P16
P17
P18
P25
P20
P4
P11
P89
P90
P91
P3
P10
P172
P173
P119
P118
P92
P13
P2
P8
P9
P24
P54
P21
P53
P250
P52
P23
P22
P1
P7
P242
P56
P241
P207
P117
P167
P246
P93
P40
P249
P41
P38
P39
P5
P6
P98
P94
P95
P96
P248
P247
P100
P99
P97
P240
P115
P245
P36
P37
P101
P206
P213
P244
P104
P217
P214
P113
P216
P114
P243
P103
P212
P175
P239
P211
P208
P112
P215
P105
P111
P102
P209
P210
P110
P176
P109
P106
P108
P107
0
1：120
4m

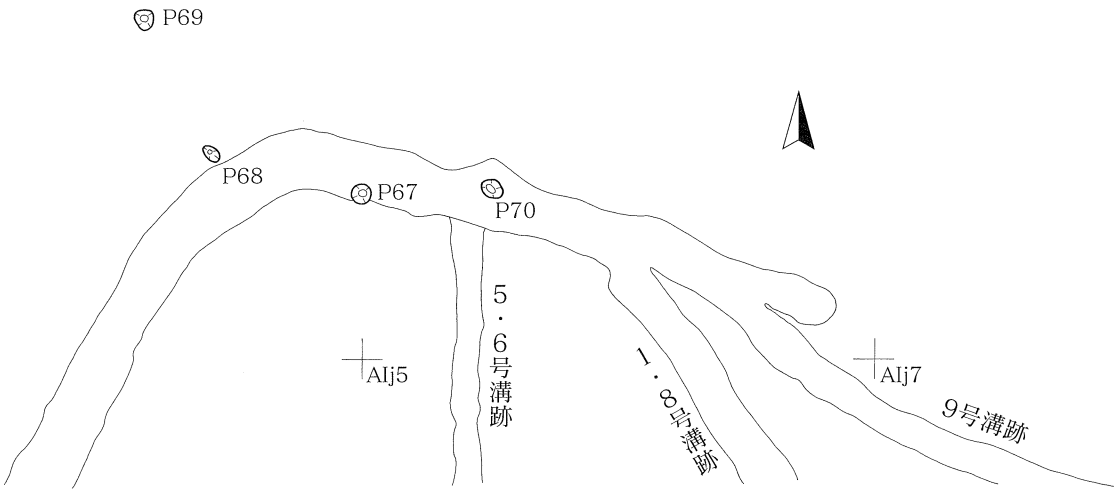
第16図　柱穴遺構(2)



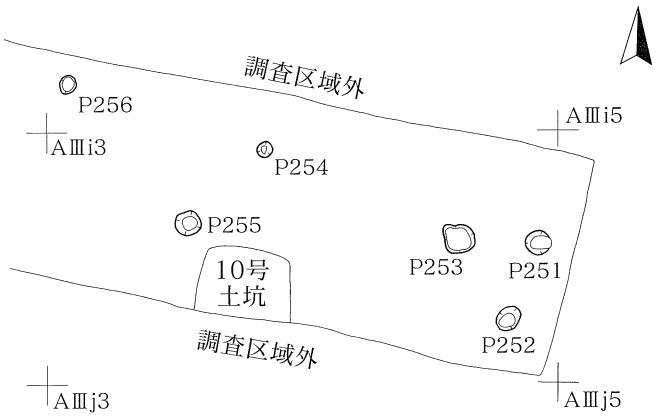
P205
P204
P203
P202
P200
攪乱
P136
P140
P201
P199
1・8号溝跡
1号住居跡
P152
14号溝跡
P142
P198
P151
P197
P150
P143
10・11号溝跡
P145
P149
P192
BIc9
P171
BⅡc1
P144
P196
P228
P148
BⅡc3
P230
P193
P135
6号土坑
P147
P195
P134
P190
P229
P178
13号溝跡
P129
P120
P121
P189
P179
P233
7号溝跡
P127
P128
P130
P133
P184
P122
P132
P225
P227
P181
P131
P186
P191
P226
P180
P194
P126
P187
P156
P177
P188
BIe9
P182
BⅡe1
5号土坑
BⅡe3
P123
P170
P223
P183
P125
P224
P185
P218
P124
P220
P238
12号溝跡
P231
P116
P169
P222
P146
1号堀跡
P232
P219
P221
P168
4号土坑
P237
P234
P236
P235
P166
BIg9
BⅡg1
P164
BⅡg3
P165
P163
9号土坑
P157
P159
P161
P162
P158
P160
0
1：120
4m

第17図　柱穴遺構(3)

柱穴D



柱穴E



0　1：120　4m

第18図　柱穴遺構(4)

第3表　柱穴一覧表

単位：cm

柱穴No.	直径	深さ	柱穴No.	直径	深さ	柱穴No.	直径	深さ
1	48×53	63.0	53	23×23	27.0	105	32×33	30.7
2	56×59	69.0	54	33×36	43.4	106	33×36	48.0
3	46×49	52.0	55	23×26	19.8	107	19×23	31.2
4	44×53	60.0	56	22×28	23.2	108	17×20	36.4
5	45×49	63.0	57	22×27	10.7	109	23×24	67.4
6	23×33	35.8	58	14×16	31.0	110	23×24	29.6
7	29×32	36.0	59	16×20	32.5	111	20×23	29.1
8	20×23	56.1	60	— ×40	30.3	112	28×28	63.7
9	23×24	55.6	61	27×30	37.1	113	30×32	77.6
10	25×26	29.2	62	23×24	21.2	114	36×43	60.2
11	26×28	44.6	63	33×35	26.5	115	33×42	65.8
12	23×25	—	64	23×30	23.2	116	33×38	24.9
13	16×20	33.0	65	25×35	30.0	117	34×49	38.0
14	44×50	75.0	66	27×29	32.2	118	48×57	39.3
15	14×36	32.3	67	31×31	47.5	119	25×35	19.6
16	27×38	—	68	14×30	21.9	120	35×39	51.3
17	25×30	—	69	26×32	19.1	121	37×47	36.7
18	24×28	—	70	28×34	42.6	122	29×35	32.5
19	42×44	68.0	71	19×24	31.4	123	35×44	28.6
20	42×54	33.9	72	25×30	17.0	124	24×30	29.8
21	43×48	72.0	73	18×32	36.7	125	22×28	34.2
22	41×52	69.0	74	19×27	26.8	126	26×34	33.6
23	26×28	44.5	75	24×28	21.0	127	34×42	40.8
24	24×27	32.3	76	17×18	10.8	128	20×26	19.4
25	23×23	23.1	77	18×27	17.3	129	19×24	29.9
26	27× —	43.8	78	20×27	31.9	130	34×46	41.9
27	24×28	20.6	79	18×20	11.1	131	20×26	13.4
28	25×35	40.8	80	31×36	31.4	132	27×50	26.6
29	50×56	29.3	81	31× —	32.7	133	45×60	47.7
30	26×28	12.3	82	28× —	48.2	134	37×42	22.0
31	28×32	38.0	83	14×30	13.9	135	33×36	15.3
32	22×24	43.6	84	14×16	14.2	136	26×30	16.4
33	16×19	29.2	85	16×24	20.7	137	30×31	35.3
34	25×25	15.2	86	32×34	34.8	138	25×41	13.5
35	25×26	15.0	87	22×38	24.1	139	27×31	22.9
36	35×38	52.5	88	25×28	16.6	140	36×53	41.3
37	37×42	60.9	89	17×29	10.1	141	20×36	21.0
38	45×48	51.5	90	16×24	13.0	142	28×30	27.7
39	38×39	39.0	91	17×35	25.8	143	30×39	30.5
40	16×25	13.4	92	18×25	22.4	144	22×35	16.6
41	17×20	24.5	93	18×18	85.0	145	26×26	23.5
42	43×52	35.9	94	25×28	30.6	146	46×59	39.6
43	32×38	20.6	95	26×30	28.5	147	29×35	21.6
44	22×23	22.9	96	23×26	23.5	148	28×—	35.0
45	22×25	13.2	97	35×37	20.2	149	25×—	19.1
46	24×24	14.7	98	26×32	36.9	150	17×39	30.6
47	30×33	13.0	99	26×30	58.8	151	18×24	34.5
48	26×27	14.4	100	26×35	38.4	152	20×25	10.0
49	24×29	8.2	101	34×40	51.9	153	16×17	—
50	38×93	49.2	102	23×26	41.1	154	17×18	—
51	38×93	45.4	103	30×37	35.4	155	17×25	—
52	28×28	25.3	104	31×32	17.0	156	17×21	29.0

柱穴No.	直径	深さ	柱穴No.	直径	深さ	柱穴No.	直径	深さ
157	30×32	21.4	191	17×22	22.7	225	22×28	22.5
158	22×24	23.2	192	14×15	11.2	226	55×39	32.1
159	24×27	28.4	193	15×16	13.8	227	30×37	30.8
160	18×24	41.0	194	16×17	4.7	228	19×22	15.2
161	27×33	35.0	195	15×28	15.5	229	18×23	46.0
162	20×23	41.0	196	29×35	19.9	230	20×27	30.0
163	24×26	38.8	197	29×30	32.2	231	32×34	41.5
164	31×34	38.5	198	28×30	23.5	232	28×44	50.6
165	24×24	22.7	199	25×28	39.8	233	36×40	11.7
166	17×20	15.5	200	28×29	24.9	234	28×30	48.4
167	41×44	46.6	201	30×34	38.6	235	17×18	31.3
168	42×44	33.5	202	27×32	28.8	236	24×34	32.6
169	24×26	33.0	203	25×25	37.8	237	25×26	44.8
170	42×47	27.1	204	25×27	12.6	238	34×42	41.0
171	21×27	37.8	205	30×33	36.5	239	33×57	28.2
172	18×23	12.1	206	—×36	50.7	240	28×33	44.0
173	17×25	11.5	207	25×29	44.7	241	32×35	16.4
174	25×28	39.8	208	39×46	61.6	242	22×25	9.7
175	26×28	13.5	209	22×33	22.8	243	32×38	25.5
176	25×26	28.7	210	24×26	36.8	244	34×42	57.0
177	19×23	7.5	211	50×58	67.4	245	27×39	8.9
178	31×35	23.8	212	30×40	10.9	246	16×23	19.1
179	22×22	17.3	213	—×34	77.4	247	19×23	16.7
180	30×34	16.8	214	40×42	14.3	248	22×30	17.4
181	36×42	17.8	215	27×30	53.5	249	25×30	22.6
182	42×44	47.1	216	34×57	61.4	250	25×29	20.3
183	25×26	24.5	217	36×47	24.1	251	20×22	34.5
184	29×42	49.3	218	24×27	28.1	252	35×43	41.5
185	30×30	34.8	219	18×23	18.9	253	47×57	28.5
186	40×46	18.6	220	27×30	26.3	254	25×26	13.3
187	26×30	62.9	221	33×34	42.3	255	38×42	19.4
188	44×46	25.7	222	19×24	24.8	256	25×28	21.7
189	34×36	10.0	223	22×26	17.1			
190	25×29	17.4	224	15×21	38.2			

＜埋土＞　褐色土～暗褐色土が主体で黄褐色土混じる。

＜遺物＞　出土していない。

＜時期＞　時期不明。

4号溝跡（第20図、写真図版9）

＜位置･検出状況・重複＞　南側調査区南西隅BⅠ－d3～BⅠ－f4に位置する。Ⅱ層上面で検出した。東端で3号溝と重複する。新旧関係は切り合いで3号溝の方が幾分多く残っているが、立ち上がりが急なため特定はできない。

＜規模・平面形・方向＞　上幅30～72㎝、下幅10～24㎝、深さ20.7～47.7㎝、全長18･28m、西―南東に向かい南方向に緩やかに弧を描いている。

＜埋土＞　褐色土～暗褐色土が主体で黄褐色土混じる。

＜遺物＞　出土していない。

＜時期＞　時期不明。

5号溝跡（第21図、写真図版10）

＜位置･検出状況・重複＞　南側調査区西側AⅠ－I5～BⅠ－f5に位置する。Ⅱ層上面で検出した。調査区を南北に縦断し、北端で1号溝に直交し南端で4号に交わる。BⅠ－a5から6号溝と一部重複する。途中から平行して流れ南端で再度重複する。5号溝が新しい。また、掘立柱建物跡南西側を通り、柱穴P2・P26と重複している。5号溝が新しい。

＜規模・平面形・方向＞　上幅38～64㎝、下幅5～34㎝、深さ13.1～38.9㎝、全長28･90m、南－北方向にほぼ直線的に続いている。

＜埋土＞　暗褐色土～黒暗褐色土が主体である。

＜遺物＞　出土していない。

＜時期＞　時期不明。

6号溝跡（第21図、写真図版10）

＜位置･検出状況・重複＞　南側調査区西側AⅠ－a5～BⅠ－f5に位置する。Ⅱ層上面で検出した。BⅠ－a5から5号溝と一部重複し途中から平行して流れ南端で再度重複する。新旧関係は6号溝が古い。また、掘立柱建物跡南西側を通り、柱穴P19・P27と重複し6号溝が新しい。

＜規模・平面形・方向＞　開口部16～64㎝、底部幅6～30㎝、深さ1.5～24.4㎝、全長21･62m、南－北方向にほぼ直線に続いている。

＜埋土＞　暗褐色土～黒暗褐色土が主体である。

＜遺物＞　出土していない。

＜時期＞　時期不明。

7号溝跡（第21図、写真図版10）

＜位置･検出状況・重複＞　南側調査区BⅠ－c6～BⅡ－d1に位置する。Ⅱ層上面で検出した。掘立柱建物跡北東の床面から東端の1号堀跡に続いている。新旧関係は切り合いがないため不明。堀との新旧関係も不明である。

＜規模・平面形・方向＞　上幅20～76㎝、下幅4～26㎝、深さ3.0～21.4㎝、全長22.8m、西－東方向にほぼ直線的である。

＜埋土＞　暗褐色土～黄褐色土が主体である。

＜遺物＞　出土てしいない。

＜時期＞　時期不明。

8号溝跡（第19図、写真図版8）

＜位置・検出状況・重複＞　南側調査区の北側AⅠ－i6～BⅡ－b22に位置する。AⅠ－i6から1号溝と北西部から南壁を切り重複する。また、BⅡ－b1･2で住居跡の西側壁と南側壁を切っていることから8号溝が新しい。東側を14号溝が交差しているが新旧関係は不明である。

＜規模・平面形・方向＞　上幅0.64～1.54m、下幅10～40㎝、深さ30.1～49.9㎝、全長12.55mにわたって検出された。南に緩やかな弧を描きながら西－東に続いている。

＜埋土＞　褐色土～暗褐色土が主体で、黄褐色土が混じる。

＜遺物＞　出土していない。

＜時期＞　1号溝より新しいことから中世と考えられる。

9号溝跡（第19図、写真図版8）

＜位置･検出状況・重複＞　南側調査区北側AⅠ－i6～AⅠ－j9に位置する。Ⅱ層上面で検出した。西側で1号溝とつながっている。東側で14号溝が交差しているが新旧関係は不明である。

＜規模・平面形・方向＞　上幅38～71㎝、下幅18～48㎝、深さ0.5～15.1㎝、全長15.4mである。西－東方向にほぼ直線に続いている。

＜埋土＞　暗褐色土・黄褐色土が主体である。

＜遺物＞　出土していない。

＜時期＞　時期不明。

10号溝跡（第22図、写真図版11）

＜位置･検出状況・重複＞　南側調査区北東側BⅡ－b1～BⅡ－c1に位置する。Ⅱ層上面で検出した。溝の中央付近から東側に11号溝が枝分かれしている。

＜規模・平面形・方向＞　上幅28～56㎝、下幅18～48㎝、深さ7.1～9.1㎝、全長5.8mである。北－南に進み南東方向に緩く曲がっている。

＜埋土＞　暗褐色土・黄褐色土が主体である。

＜遺物＞　出土していない。

＜時期＞　時期不明。

11号溝跡（第22図、写真図版11）

＜位置･検出状況＞　南側調査区北東側BⅡ－c1に位置する。Ⅱ層上面で検出した。

＜規模・平面形・方向＞　上幅28～56㎝、下幅18～48㎝、深さ7.1～9.1㎝、全長5.8mである。10号溝の中央付近で枝分かれするように南東方向に緩く曲がる。

＜埋土＞　暗褐色土・黄褐色土が主体である。

＜遺物＞　出土していない。

＜時期＞　時期不明。

12号溝跡（第22図、写真図版11）

＜位置･検出状況・重複＞　南側調査区南東側BⅠ－e9･f9～BⅡ－f0に位置する。Ⅱ層上面で検出した。中央付近で4号土抗北東壁と重複し切っていることから12号溝が新しい。

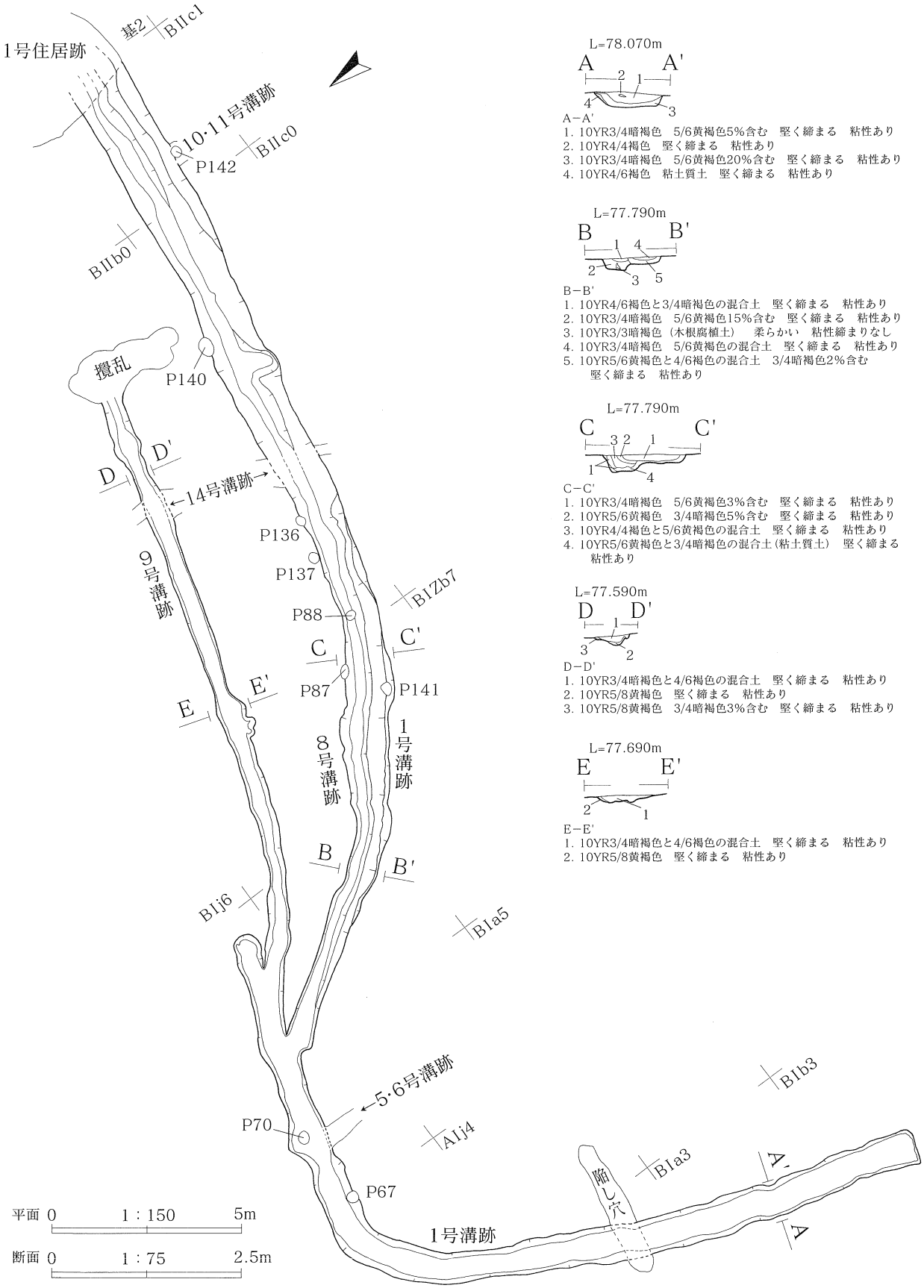
＜規模・平面形・方向＞　上幅16～31㎝、下幅9～26㎝、深さ4～11.7㎝、全長13.2mである。北西－南東方向にほぼ直線で向かい1号堀につながる。
＜埋土＞　作業の不手際で埋土の確認ができなかった。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　時期不明。

13号溝跡（第22図、写真図版12）
＜位置･検出状況＞　南側調査区東側BⅠ－ｃ9～BⅡ－c0･d0に位置する。Ⅱ層上面で検出した。
＜規模・平面形・方向＞　上幅36～76㎝、下幅21～72㎝、深さ5～11.7㎝、全長4.4mである。北西－南東方向にほぼ直線に向いている。
＜埋土＞　褐色土－暗褐色土が主体である。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　時期不明。

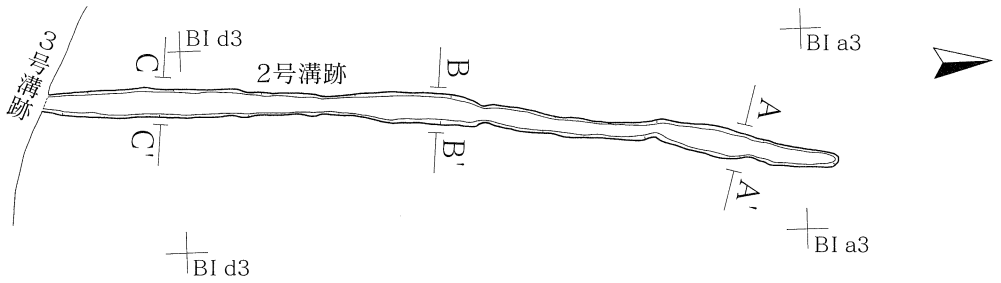
14号溝跡（第22図、写真図版12）
＜位置･検出状況＞　南側調査区東側AⅠ－j9～BⅠ－c8に位置する。Ⅱ層上面で検出した。
＜規模・平面形・方向＞　上幅24～44㎝、下幅13～38㎝、深さ1～9.2㎝、全長9.92mである。北－南方向に向いている。9号溝・1･8号溝をB－a9～b9地点で横切っているが新旧関係は不明である。
＜埋土＞　注記なし。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　時期不明。

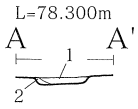
15号溝跡（第22図、写真図版12）
＜位置･検出状況＞　北側調査区西側AⅡ－d2･e1･e2に位置する。Ⅱ層上面で検出した。
＜規模・平面形・方向＞　上幅0.68～1.1m、下幅16～38㎝、深さ10.3～17.5㎝、全長3.8mである。方向は北西－南東方向である。
＜埋土＞　暗褐色･明褐色土･灰黄橙色土が主体である。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　時期不明。

16号溝跡（第22図、写真図版12）
＜位置･検出状況＞　北側調査区西側AⅡ－f3･f4に位置する。Ⅱ層上面で検出した。
＜規模・平面形・方向＞　上幅30～42㎝、下幅14～22㎝、深さ6.3～15.2㎝、全長4.6mである。方向は北西-東方向である。
＜埋土＞　暗褐色土が主体である。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　時期不明。

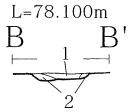

1号住居跡
基2
BIIc1
10・11号溝跡
P142
BIIc0
BIIb0
撹乱
P140
D
D'
←14号溝跡→
9号溝跡
P136
P137
BIZb7
P88
C
C'
P87
P141
E
E'
8号溝跡
1号溝跡
B
B'
BIj6
BIa5
←5・6号溝跡
P70
AIj4
BIb3
BIa3
A
A'
陥し穴
P67
1号溝跡
平面 0 1：150 5m
断面 0 1：75 2.5m
L=78.070m
A−A'
1. 10YR3/4暗褐色　5/6黄褐色5%含む　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR4/4褐色　堅く締まる　粘性あり
3. 10YR3/4暗褐色　5/6黄褐色20%含む　堅く締まる　粘性あり
4. 10YR4/6褐色　粘土質土　堅く締まる　粘性あり
L=77.790m
B−B'
1. 10YR4/6褐色と3/4暗褐色の混合土　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR3/4暗褐色　5/6黄褐色15%含む　堅く締まる　粘性あり
3. 10YR3/3暗褐色（木根腐植土）　柔らかい　粘性締まりなし
4. 10YR3/4暗褐色　5/6黄褐色の混合土　堅く締まる　粘性あり
5. 10YR5/6黄褐色と4/6褐色の混合土　3/4暗褐色2%含む
堅く締まる　粘性あり
L=77.790m
C−C'
1. 10YR3/4暗褐色　5/6黄褐色3%含む　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR5/6黄褐色　3/4暗褐色5%含む　堅く締まる　粘性あり
3. 10YR4/4褐色と5/6黄褐色の混合土　堅く締まる　粘性あり
4. 10YR5/6黄褐色と3/4暗褐色の混合土（粘土質土）　堅く締まる
粘性あり
L=77.590m
D−D'
1. 10YR3/4暗褐色と4/6褐色の混合土　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR5/8黄褐色　堅く締まる　粘性あり
3. 10YR5/8黄褐色　3/4暗褐色3%含む　堅く締まる　粘性あり
L=77.690m
E−E'
1. 10YR3/4暗褐色と4/6褐色の混合土　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR5/8黄褐色　堅く締まる　粘性あり

第19図　1・8・9号溝跡

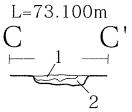




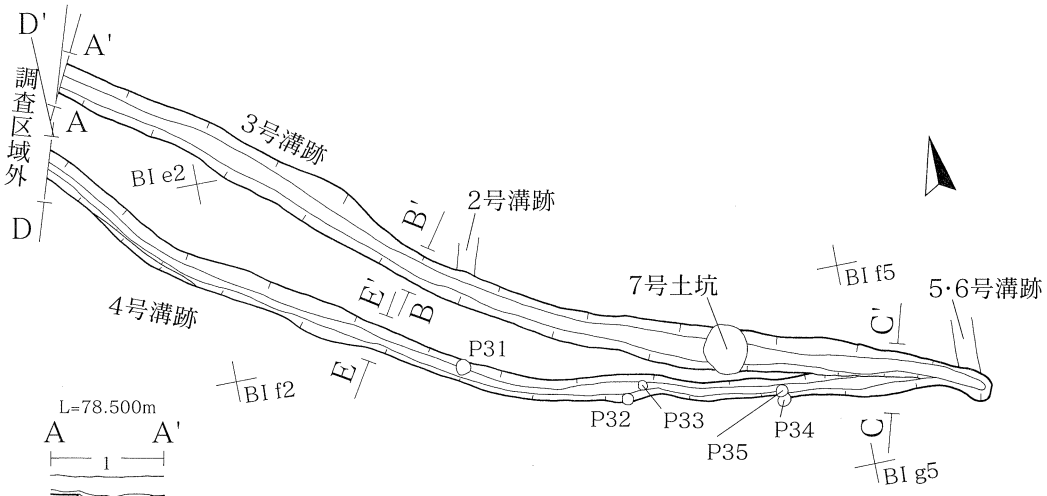
A−A'
1. 10YR3/4暗褐色　5/6黄褐色7%含む　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR6/4褐色　堅く締まる　粘性あり

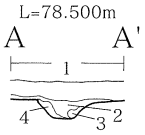


B−B'
1. 10YR3/4暗褐色　5/6黄褐色15%含む　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR4/6褐色粘土質土　堅く締まる　粘性あり

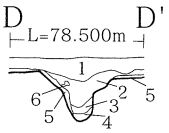


C−C'
1. 10YR3/4暗褐色　4/6黄褐色10%含む　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR4/6褐色　堅く締まる　粘性あり

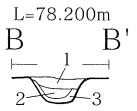




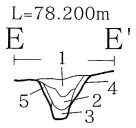
A−A'
1. 10YR3/4暗褐色　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR3/4暗褐色と5/6黄褐色2%含む　堅く締まる　粘性あり
3. 10YR3/4暗褐色　4/6褐色の混合土　堅く締まる　粘性あり
4. 10YR3/4暗褐色　4/6褐色5%含む　粘土質土　堅く締まる　粘性あり



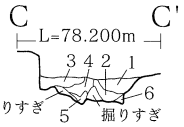
D−D'
1. 10YR3/4暗褐色　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR3/4暗褐色　5/6黄褐色2%含む　堅く締まる　粘性あり
3. 10YR3/4暗褐色　4/6褐色の混合土　堅く締まる　粘性あり
4. 10YR3/4暗褐色　4/6褐色5%　堅く締まる　粘性あり
5. 10YR5/6黄褐色　粘土質土　堅く締まる　粘性あり
6. 10YR5/6黄褐色　10YR3/4暗褐色20%含む　堅く締まる　粘性あり



B−B'
1. 10YR3/4暗褐色　5/6黄褐色15%含む　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR3/4暗褐色　5/6黄褐色10%含む　堅く締まる　粘性あり
3. 10YR5/6黄褐色　堅く締まる　粘性あり



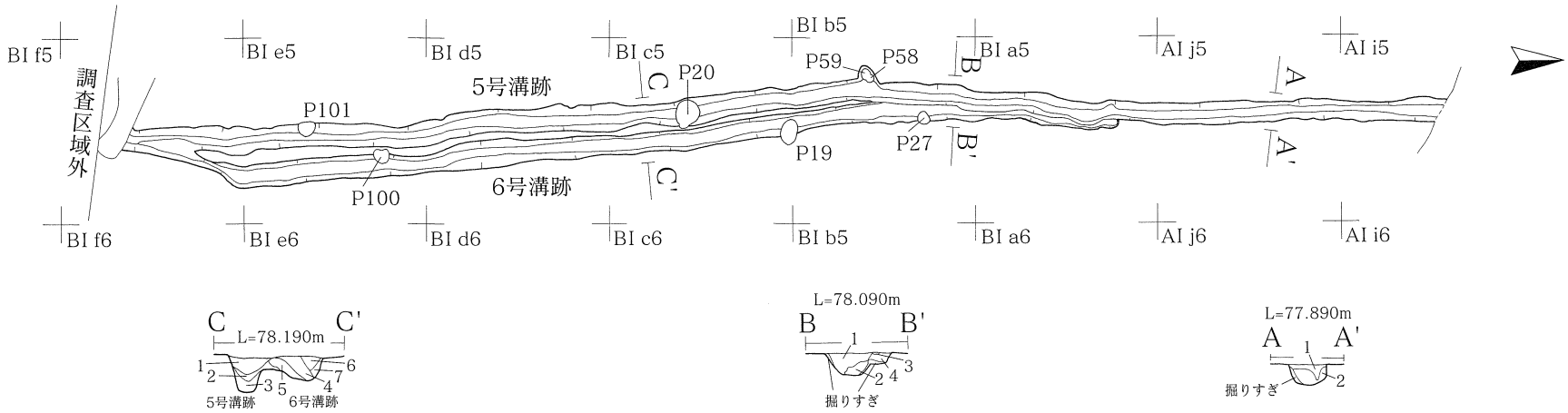
E−E'
1. 10YR3/4暗褐色　5/6黄褐色15%含む　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR3/4暗褐色　5/6黄褐色10%含む　堅く締まる　粘性あり
3. 10YR3/3暗褐色　5/6黄褐色5%含む　堅く締まる　粘性あり
4. 10YR3/4暗褐色30%と5/6黄褐色70%の混合土　堅く締まる　粘性あり
5. 10YR5/6黄褐色　堅く粘土質土　粘性あり



C−C'
1. 10YR4/4褐色シルト　5/8黄褐色(地山粒)7%含む　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　5/8黄褐色(地山粒)1%未満　堅く締まる　粘性あり
3. 10YR4/4褐色シルト　5/8黄褐色(地山粒)1%　堅く締まる　粘性あり
4. 10YR4/3にぶい黄褐色と5/6黄褐色の混合土　堅く締まる　粘性あり
5. 10YR3/4暗褐色　堅く締まる　粘性あり
6. 10YR5/6黄褐色と3/4暗褐色の混合土

平面　0　1：150　5m　　断面　0　1：75　2.5m

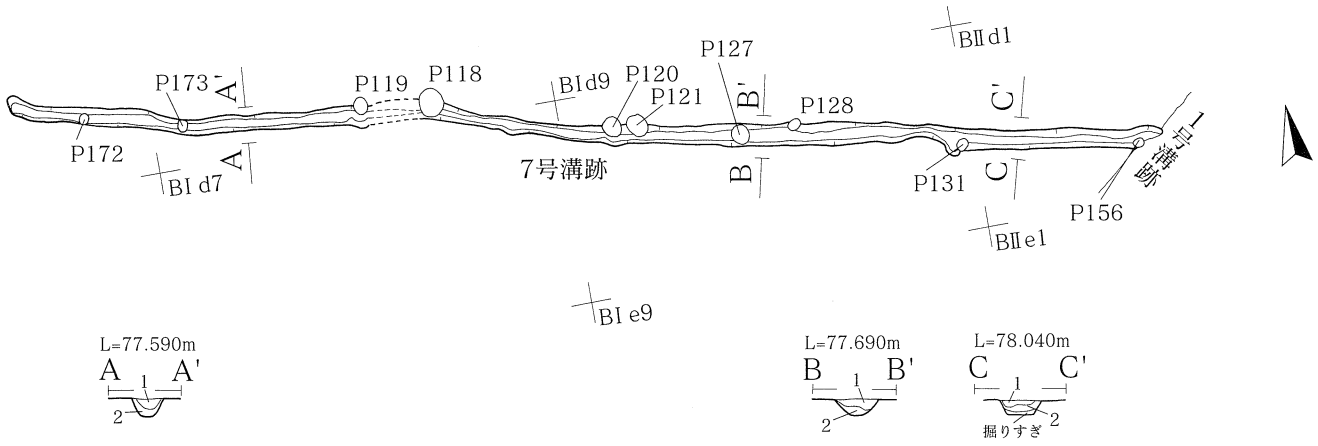
第20図　2～4号溝跡



C−C'
1.10YR3/4暗褐色シルト　4/6褐色10%含む　堅く締まる　粘性あり
2.10YR3/3暗褐色シルト　4/6褐色10～15%　炭化物1%含む　堅く締まる　粘性強い
3.10YR3/3暗褐色シルト　4/6褐色7%含む　堅く締まる　粘性強い
4.10YR2/3黒褐色粘土質シルト　炭化物1%含む　堅く締まる　粘性強い
5.10YR3/2黒褐色と4/6と黒褐色と4/2灰黄褐色の混合土　堅く締まる　粘性あり
6.10YR3/4暗褐色シルト　4/6褐色5%　炭化物1%未満含む　堅く締まる　粘性あり
7.10YR3/4暗褐色と4/2灰黄褐色の混合土　堅く締まる　粘性あり

B−B'
1.10YR3/4暗褐色シルト　4/6褐色10%含む　堅く締まる　粘性強い
2.10YR3/3暗褐色シルト　4/6褐色7%含む　堅く締まる　粘性強い
3.10YR3/3暗褐色シルト　4/6褐色2%含む　堅く締まる　粘性あり
4.10YR2/3黒褐色シルト　3/3暗褐色15%含む　堅く締まる　粘性あり

A−A'
1.10YR3/4暗褐色シルト　4/6褐色10%含む　堅く締まる　粘性強い
2.10YR3/3暗褐色シルト　4/6褐色7%含む　堅く締まる　粘性強い

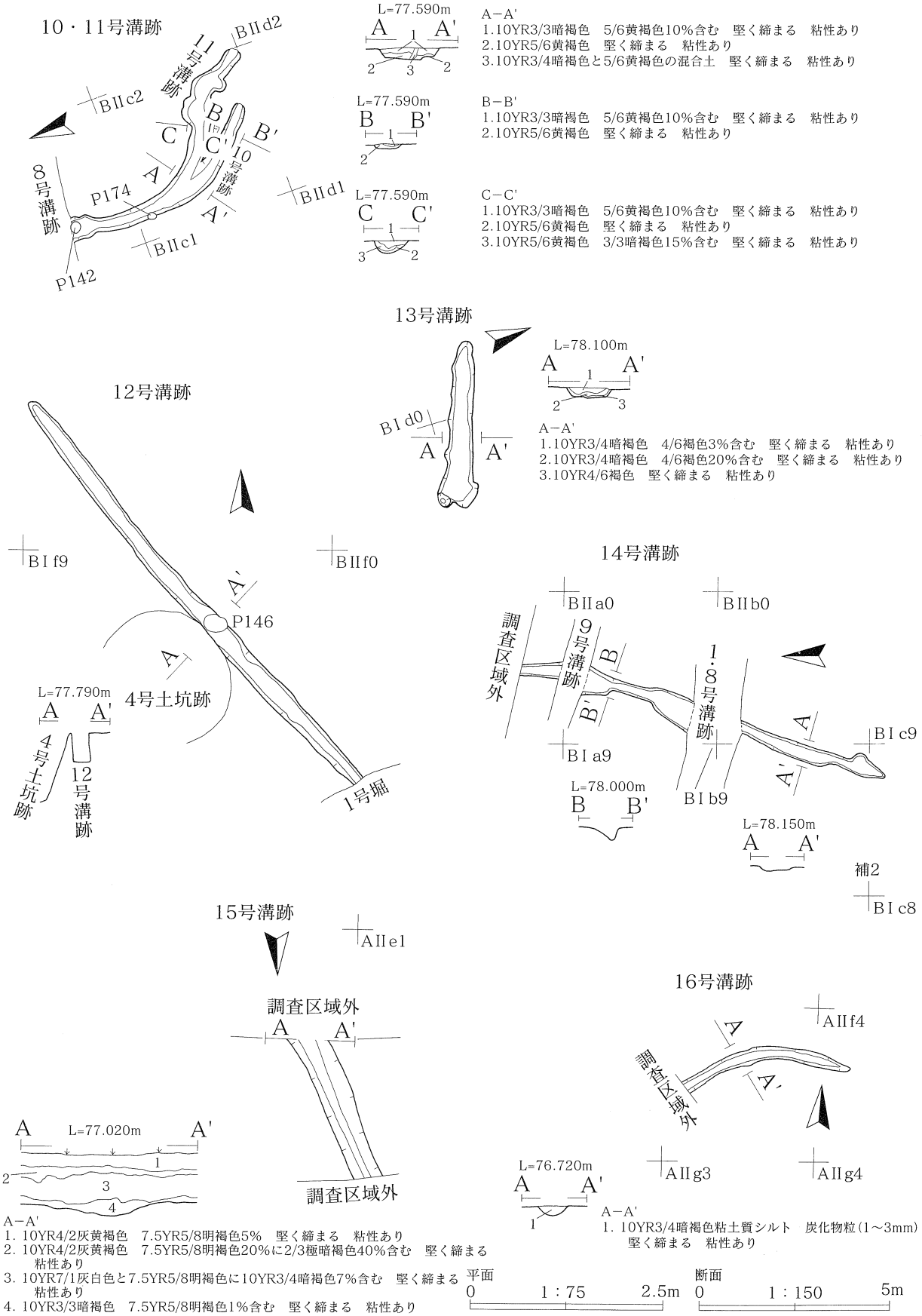


A−A'
1.10YR4/3暗褐色　5/6黄褐色5%含む　堅く締まる　粘性あり
2.10YR5/8黄褐色　4/3暗褐色2%含む　粘土質土　粘性あり

B−B'・C−C'
1.10YR3/4暗褐色　5/6黄褐色5%含む　堅く締まる　粘性あり
2.10YR3/4暗褐色　5/6黄褐色2%含む　堅く締まる　粘性あり

平面 0　1：150　5m
断面 0　1：75　2.5m

第21図　5～7号溝跡



第22図　10〜16号溝跡

（6）堀跡

1号堀跡（南側）（第23図、写真図版13）

＜位置･検出状況・重複＞　南側調査区北東隅BⅡ－b3～南BⅠ－g9～南東隅BⅡ－g2に位置する。Ⅱ層上面で検出した。南西部に7号溝、西中央部に12号溝が合流する形になっているが新旧関係は不明である。

＜規模・平面形・方向＞　上幅5.82～7.145m、下幅3.34～5.34m、深さ0.46～1.04m、全長22.9mである。方向は南-北東を指す。

＜埋土＞　暗褐色土が主体である。底部は灰白色の粘土である。

＜遺物＞　西中央部斜面から瓦器17、底部で須恵器？18が出土している。

＜時期＞　出土品から中世と考えられる。

1号堀跡（北側）（第24図、写真図版13）

＜位置・検出状況＞　北側調査区AⅡ－g5～g7、南側AⅡ－h5～h7に位置し、地山面の濁った面で検出した。

＜規模・平面形・方向＞　開口部5.56～5.68m、底部幅3.68～3.98m、深さ34.7～59.5㎝、全長3.88mである。方向は南-北方向である。

＜埋土＞　暗褐色土が主体である。

＜遺物＞　出土していない。

＜時期＞　1号掘跡南側延長部分であることから中世と考える。

2号堀跡（第24図、写真図版14）

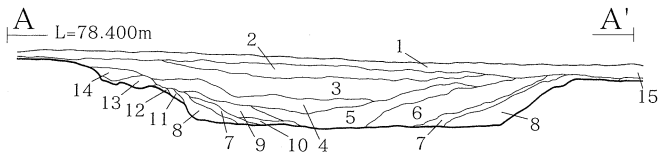
＜位置･検出状況＞　北側調査区AⅡ－g8･h8～AⅢ－h0に位置する。Ⅱ層上面で検出した。

＜規模・平面形・方向＞　上幅6.44～6.84m、下幅3.89～4.32m、深さ50.5～86.5㎝、全長3.38mである。方向は南-北方向である。

＜埋土＞　褐色土･暗褐色土が主体である。

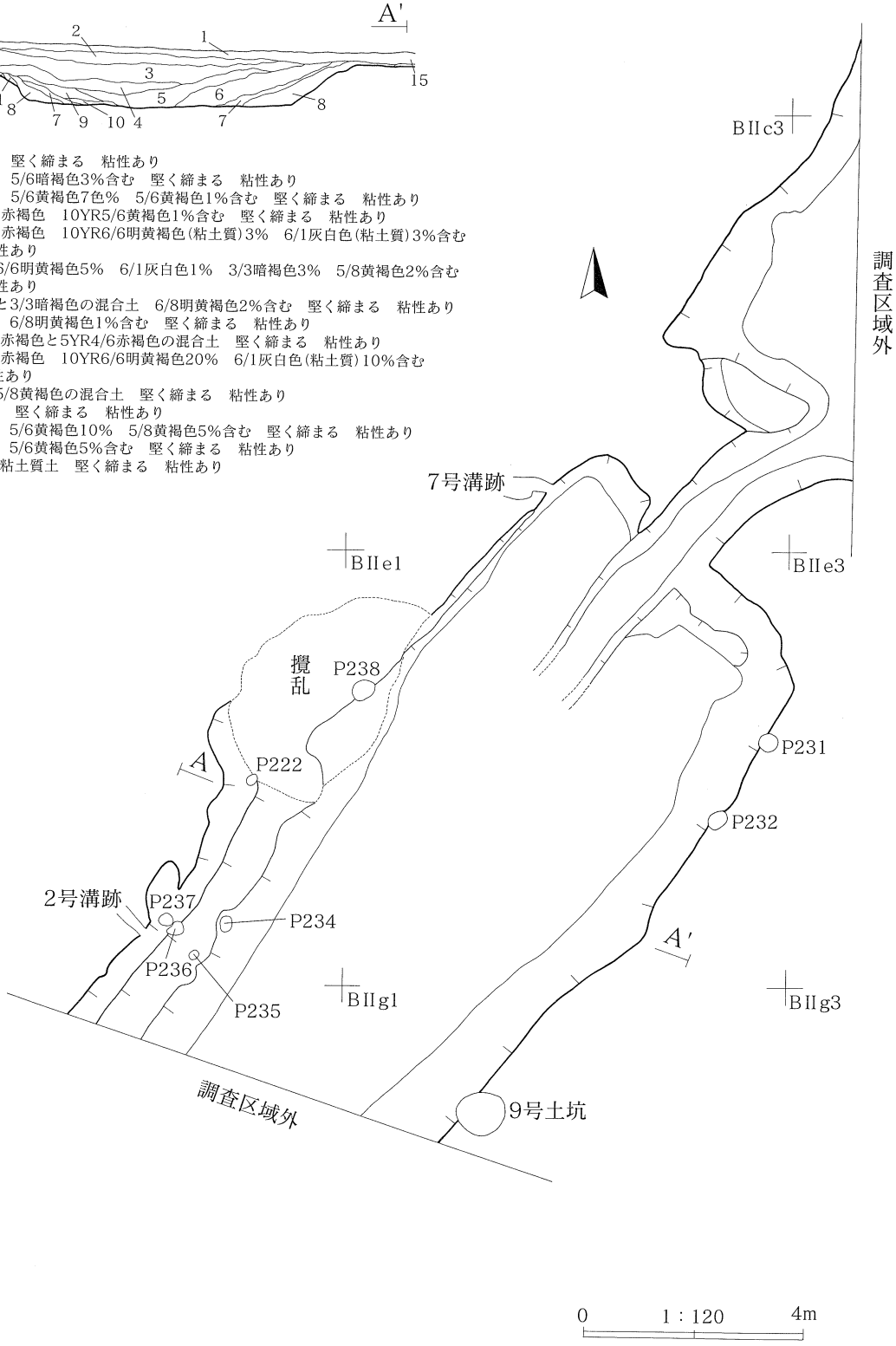
＜遺物＞　出土していない。

＜時期＞　1号堀跡と約8mで平行しており、中世と考える。

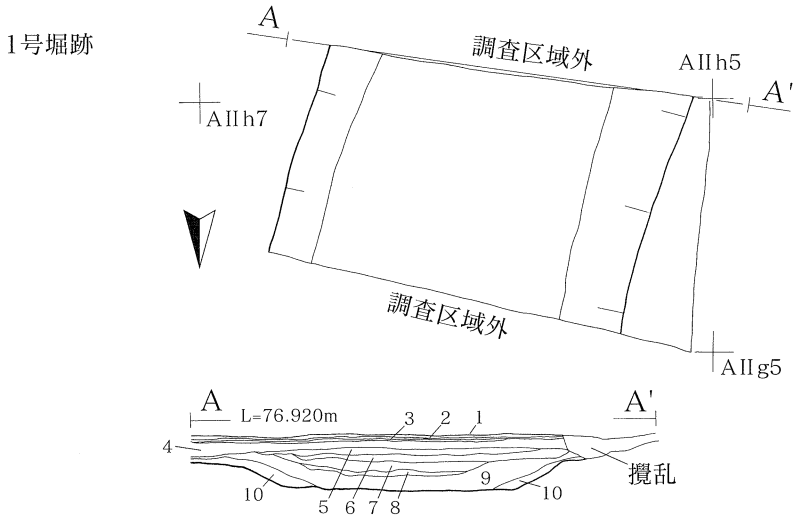


A−A'

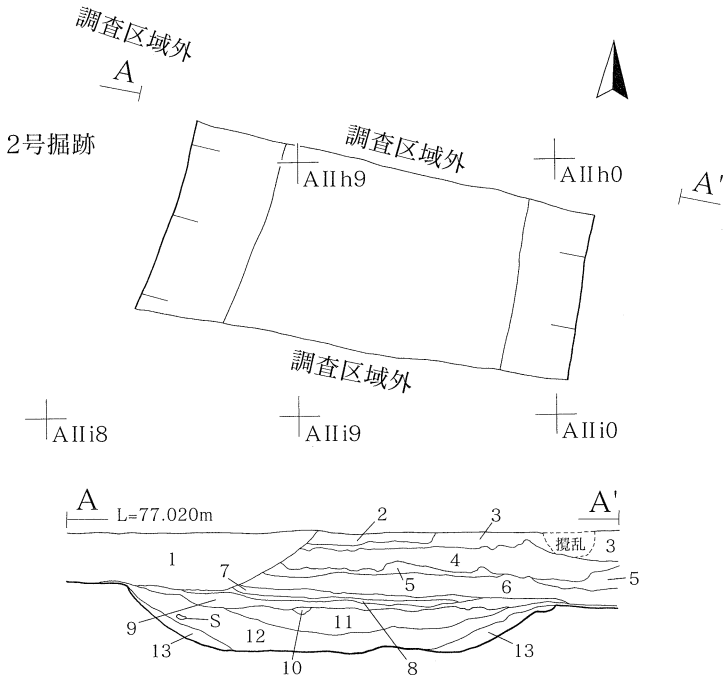
1. 10YR3/4暗褐色　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR3/4暗褐色　5/6暗褐色3%含む　堅く締まる　粘性あり
3. 10YR3/4暗褐色　5/6黄褐色7色%　5/6黄褐色1%含む　堅く締まる　粘性あり
4. 2.5YR4/3にぶい赤褐色　10YR5/6黄褐色1%含む　堅く締まる　粘性あり
5. 2.5YR4/3にぶい赤褐色　10YR6/6明黄褐色(粘土質)3%　6/1灰白色(粘土質)3%含む　堅く締まる　粘性あり
6. 10YR4/4褐色　6/6明黄褐色5%　6/1灰白色1%　3/3暗褐色3%　5/8黄褐色2%含む　堅く締まる　粘性あり
7. 10YR6/1灰白色と3/3暗褐色の混合土　6/8明黄褐色2%含む　堅く締まる　粘性あり
8. 10YR3/4暗褐色　6/8明黄褐色1%含む　堅く締まる　粘性あり
9. 2.5YR4/3にぶい赤褐色と5YR4/6赤褐色の混合土　堅く締まる　粘性あり
10. 2.5YR4/3にぶい赤褐色　10YR6/6明黄褐色20%　6/1灰白色(粘土質)10%含む　堅く締まる　粘性あり
11. 10YR4/4褐色　5/8黄褐色の混合土　堅く締まる　粘性あり
12. 7.5YR5/8黄褐色　堅く締まる　粘性あり
13. 10YR3/4暗褐色　5/6黄褐色10%　5/8黄褐色5%含む　堅く締まる　粘性あり
14. 10YR3/4暗褐色　5/6黄褐色5%含む　堅く締まる　粘性あり
15. 7.5YR5/6明褐色粘土質土　堅く締まる　粘性あり



第23図　1号堀跡（南側）



A−A'
1. 10YR3/4暗褐色　堅く締まる　粘性あり
2. 10YR3/4暗褐色と4/4褐色に5/8黄褐色5%含む混合土　堅く締まる　粘性あり
3. 10YR3/4暗褐色と4/3にぶい黄褐色の混合土　堅く締まる　粘性あり
4. 10YR3/4暗褐色と4/3にぶい黄褐色に6/8明黄褐色(粘土質)3%含む　堅く締まる　粘性あり
5. 10YR4/4褐色　6/8明黄褐色5%　7/3にぶい黄橙色1%　6/6明黄褐色1%の混合土　堅く締まる　粘性あり
6. 10YR6/6明黄褐色　4/4褐色15%　7/3にぶい黄橙色7%　6/8明黄褐色3%を含む
7. 10YR4/4褐色　7/3にぶい黄橙色1%　6/8明黄褐色1%含む　堅く締まる　粘性あり
8. 10YR4/4褐色と7.5YR5/8明褐色に6/8明黄褐色15%含む　混合土　堅く締まる　粘性あり
9. 10YR4/4と7.5YR5/8明褐色に6/8明褐色の2%含む　堅く締まる　粘性あり
10. 10YR4/4褐色　7.5YR5/8明黄色　7/3にぶい橙色5%　6/8橙色1%の混合土　よく締まる　粘性あり



A−A'
1.10YR4/2灰黄褐色　7/4にぶい黄橙　7.5YR5/8明褐色　2/3極暗褐色の混合土(攪乱土) 堅く締まる　粘性あり
2.10YR3/4暗褐色　5YR4/8赤褐色10%含む　堅く締まる　粘性なし
3.7.5YR3/4暗褐色　10YR4/6にぶい黄橙10%含む　堅く締まる　粘性あり
4.7.5YR5/8明褐色　2/3極暗褐色7%　10YR4/4褐色15%含む(攪乱土)　堅く締まる　粘性あり
5.7.5YR3/4暗褐色　堅く締まる　粘性あり
6.10YR4/3暗褐色　8/4浅黄橙色2%　6/8明黄褐色2%含む　堅く締まる　粘性あり
7.7.5YR3/2黒褐色　10YR7/1灰白色　5/6黄褐色　4/4褐色の混合土　堅く締まる　粘性あり
8.10YR4/3にぶい黄褐色と4/6褐色に8/4浅黄橙15%　5/6黄褐色の2%含む混合土　堅く締まる　粘性あり
9.10YR3/4暗褐色と4/6褐色に8/4浅黄橙20%　5/6黄褐色の2%含む混合土　堅く締まる　粘性あり
10.10YR4/4暗褐色　8/4浅黄橙20%含む　堅く締まる　粘性あり
11.10YR4/3にぶい黄褐色　8/4浅黄橙色1%　5/6黄褐色1%含む　堅く締まる　粘性あり
12.10YR4/4褐色　8/4浅黄橙色2%　5/6黄褐色2%含む　堅く締まる　粘性あり
13.10YR3/4暗褐色　8/4浅黄橙色1%　5/6黄褐色2%含む　堅く締まる　粘性あり

0　1：120　4m

第24図　1号堀跡（北側）・2号堀跡

V　まとめ

1．遺構

(1) 縄文時代の遺構

陥し穴状遺構跡

南側調査区の北西部から1基検出された。形状は溝状の陥し穴状遺構で、長軸方向は東西方向を向いている。縦断面形はフラスコ状を呈し、底にいくにしたがって狭くなっている。開口部の西側の一部を溝跡に切られている。埋土は、黒褐色土や褐色土が主体で、下層に粘土質土を多く含んでいる。

遺構内から遺物が検出されなかったので、時期を特定する資料に欠けるが、調査区域内から3点の縄文土器が検出されていることや、形状や類例から推察して縄文時代の遺構と考えられる。

(2) 中世の遺構

①竪穴住居跡

南側調査区の北東部隅から1棟検出された。規模・平面形については、3.4×3.15mの隅丸方形である。西壁の南側と南壁が溝に切られている。カマドを持たず、中央から焼土が検出されている。また、床面中央から炭化物が多量に検出されたことから、焼失家屋の可能性があると考えられる。

埋土は、暗褐色土、黒褐色土が主体であるが、黄褐色土や粘土質土を多く含む混合土となっており、人為的に埋められた可能性がある。出土遺物は、鎌の一部とみられる鉄製品が床面の中央北側から出土した。

時期については、床面の四隅に4本の柱穴がみられることや、壁面に沿って柱穴が配置されていることから中世の住居跡と考えられる。

②掘立柱建物跡

南調査区南西部から1棟検出された。規模は南北に4間10.05m、東西に1間4.56mである。また、東西に庇を持っている。5･6号溝が西側床面を縦断し、柱穴4本の上部を切っている。北東側に7号溝が約2m建物の敷地内に入っているが、切り合いがないため新旧関係は不明である。埋土は、黒褐色土～暗褐色土が主体を占めている。

出土遺物は、15世紀のかわらけ1点がP14から出土している。検出面の表土が15～20㎝と大変浅い場所であることから、農地造成を行った際に床面及び遺物が除去された可能性がある。時期については、出土遺物のかわらけが1点しかないため判断するのは難しい。

柱穴の規模は表の通りである。

第4表　掘立柱建物跡柱穴観察表　　単位：㎝

No.	直　径	深さ	No.	直　径	深さ	No.	直　径	深さ	No.	直　径	深さ
A　列			B　列			A　列　庇			B　列　庇		
P5	45×49	63	P22	41×52	69	P6	23×33	36	P23	26×28	45
P1	48×53	63	P21	43×48	72	P7	29×33	36	P24	24×27	32
P2	49×56	69	P20	42×54	67	P9	23×24	56	P25	23×23	23

No.	直　径	深さ	No.	直　径	深さ	No.	直　径	深さ	No.	直　径	深さ
	A　列			B　列			A　列			B　列	
P3	46×49	52	P19	42×44	68	P10	25×26	29	P26	ー×27	44
P4	44×53	60	P14	44×50	75	P11	26×28	45	P27	24×28	21

③土坑

南側調査区9基、北側調査区2基の計11基が検出された。平面形は円形8基、楕円形1基、方形もしくは長方形1基、不整形2基で、円形が多い。6基から遺物が出土している。他の遺構と重複しているものは4基ある。また、7号土坑は低部に柱穴がある。検出当初はこの柱穴に気付かなかったため、土坑として登録したが、杭を立てた陥し穴状遺構の可能性もあると考えられるが断定できない。

遺物が出土している土坑に関しては中世のものと考えられる。その他のものについては、時期が不明である。

各土坑の平面形、規模等については次の表の通りである。

第5表　土坑一覧表　　単位：cm

No.	遺　構　名	平面形	開口部径	底部径	深　さ	備　　考
1	1号土坑	円　形	82×87	49×50	99.3	土師器甕片1点出土
2	2号土抗	円　形	90×103	46×53	106.0	須恵器甕片1点出土 3号と重複している
3	3号土坑	楕円径	128×217	100×178	13.0	かわらけ3点出土　2号と重複
4	4号土坑	円　形	178×184	98×109	117.0	須恵器甕3点・中国産陶器2点
5	5号土坑	円　形	88×93	73×74	81.4	
6	6号土坑	円　形	86×93	54×56	67.1	かわらけ1点出土
7	7号土坑	不正形	115×142	78×124	788.5	3・4号溝と重複、中央に柱穴あり
8	8号土坑	不定形	87×99	77×83	35.5	
9	9号土坑	円　形	78×88	52×58	63.4	1号堀斜面にあり重複している
10	10号土坑	方形？	151×291	67×撹乱	52.4	南側が調査区外のため不明であるが、方形もしくは長方形と推測される。
11	11号土坑	円　形	217×236	69×87	72.0	かわらけ4点出土

④溝跡

南側調査区から14条、北側調査区から2条の計16条検出された。溝跡の向きは南―北方向が1号・2号・5号・6号・14号・15号・16号の7条。東―西方向の溝が3号・4号・7号・8号・9号・13号の6条。南東―北西方向が10号・11号・12号の3条である。南―北から東―西方向に大きく曲がっているものが1条である。

この遺構が多くみられる南側調査区も決して広い範囲と言えない場所である。この狭い範囲内に重複・交差する溝跡が実に14条あり、同時期に存在したものだけではなく、1号溝跡と8号溝跡のように時が経ち、殆ど溝跡の形状をとどめない所に低みを利用して新たに掘り直した溝もあることが重複する断面から窺い知ることができる。時期については、1号溝跡からかわらけ1点のみの出土であるため特定できない。

規模、重複関係については表の通りである。

第6表　溝跡一覧表

遺　構　名	全長　m	上幅　m	深さ　cm	埋　　土	重　複　関　係
1号溝跡	47.55	104～71	49.9～30.1	褐色土～暗褐色土主体	8号溝と重複　14号溝と交差
2号溝跡	15.48	60～30	14.5～ 0.8	褐色土～暗褐色土主体	4号溝に通じる

遺　構　名	全長　m	上幅　m	深さ　cm	埋　　土	重　複　関　係
3号溝跡	19.40	94～76	37.7～10.4	褐色土～暗褐色土主体	4号溝跡と重複
4号溝跡	18.28	72～30	47.7～20.7	褐色土～暗褐色土主体	3号溝跡と重複
5号溝跡	28.90	64～38	38.9～13.1	暗褐色土～黒褐色土主体	6号溝跡と重複　1号溝跡と4号溝跡に通じる
6号溝跡	21.62	64～16	24.4～ 1.5	暗褐色土～黒褐色土主体	5号溝跡と重複　4号溝跡に通じる
7号溝跡	22.80	76～20	21.4～ 3.0	暗褐色土～黄褐色土主体	掘立柱建物の敷地2mは入る 1号堀跡に通じる
8号溝跡	12.55	——	——	褐色土～暗褐色土主体	1号溝跡と重複。14号溝跡と交差
9号溝跡	15.40	71～38	15.1～ 0.5	暗褐色土・黄褐色土主体	14号溝跡と交差
10号溝跡	5.80	56～28	9.1～ 7.1	暗褐色土・黄褐色土主体	1号溝跡東側に通じる
11号溝跡	6.90	76～34	14.5～ 5.1	暗褐色土・黄褐色土主体	〃
12号溝跡	13.20	31～16	11.7～ 4.0	なし	4号土抗と重複
13号溝跡	4.40	76～36	11.7～ 5.0	褐色土～暗褐色土主体	
14号溝跡	9.92	44～24	9.2～ 1.0	なし	1号・9号・8号溝跡と交差
15号溝跡	8.60	44～24	17.5～10.3	なし	
16号溝跡	4.60	42～30	15.2～ 6.3	暗褐色主体	

③堀跡

両調査区から2条検出さた。南側調査区で検出された1号堀(南側)跡は、調査区の東側を南西―北東方向に斜めに縦断する形で検出された。北側調査区との間は調査区域外のため未調査ではあるが、北側調査区の1号堀(北側)に通じ全長約46mにおよび急俊で大きな沢につながっているものと考えられる。幅4.64m～7.14m、深さ1.04mである。特徴としては、BⅡ－d2～BⅡ－e3に幅約3mの土橋が設けられていることである。また、この土橋の中央には両岸を分けるように溝が通り南北の堀の水を流す形になっている。残念なことにこの溝が初めから備え付けられていたのか、後になって付け加えられたのかは不明である。

出土遺物は瓦器17が斜面から、不明18が堀底部から出土した。

1号堀跡(北側)の約8m東側に2号堀跡が検出された。規模は幅6.44～6.84m、深さ50.5～86.5cmで1号堀跡に平行するように造られている。遺物の出土がみられないため時期は不明である。2重堀の可能性が考えられる。

この胆沢河岸段丘に位置する舌状台地の基部には中世の館跡が連立している所である。沢を隔て北方約40～50mには、九郎館があり、本丸、二の丸、三の丸が造られ空堀で分けている。さらに、北方約400～500m離れた舌状台地には、明後沢遺跡群に八郎館、宗角館がある。堀跡や土塁跡が確認されていることから、本遺跡の堀も2重堀であるとするならば、東側の基部に急俊な段丘の斜面を利用した館跡があることが推測される。また、堀を構築できるだけの力を持つ、有力者がいたことが窺い知ることができる。

④柱穴

本遺跡からは256基（掘立柱建物跡の20基含む）が検出されている。南側調査区に多くみられる。出土遺物はP14のかわらけのみであることから時代は不明である。

2．出土遺物

出土遺物27点で、鉄製品１点、縄文土器3点、土師器2点、須恵器4点、瓦器1点、かわらけ11点、国

国産陶器1点、中国産陶器2点、不明1点である。出土場所は土坑、溝跡、堀跡からである。

（1）鉄製品

竪穴住居跡の床面上から鉄製の鎌１が出土した。部位は鎌の柄に近い頚部から刃部にかけての部分で両端は、湧水がある層で湿気のある埋土のため腐蝕が著しい。検出時には３つに分かれていた。

（2）縄文土器

縄文土器は3点出土している。20は晩期のもので口唇部に刻みが施され、口縁部には3条の平行沈線が逝ぐっている。24と25は後期のものと考えられる。出土場所が同じで同一個体と考えられる。胎土は砂が多く混じりもろく磨耗が著しい。また、大きな特徴として底部が方形を呈し、方形の底部から肩部にまで円形に調整されている。

（3）土師器・須恵器

土師器は2点出土している。2は1号土坑、23は遺構外からである。2は甕の口縁部破片である。23は胎土がきめ細かく薄手の甕と考えられる。須恵器は5点出土している。何れも甕の体部で、胎土が粗く、叩き目は細かく雑に作られている。産地の特定はできない。

（4）瓦器

瓦器17は、1号堀の斜面から出土した。土師質の胎土で作られてあり、小型で3脚を持つ香炉と考えられる。県内では浄法寺城跡(浄法寺町教育委員会2002)から、大きさ、形、模様、朱の顔料が塗布されたほぼ同規格のものが出土している。産地は関西地方で、主に京都付近で作られ関東地方に出まわっていたものと考えられる。

（5）かわらけ

かわらけはロクロ調整が10点、手づくね1点である。出土遺物27点のうち11点と高い割合を示す。胎土や口縁部の立ち上がりがきつくないことや口唇部が丸みを帯びていることから15世紀のものと考えられる。出土状況をみると土坑からの出土が8点、溝状遺構からの出土が2点、柱穴からの出土が1点である。土坑4基のうち4号土坑・11号土坑では埋土の中位層から上位層で検出され、10～20㎝の捨て石の上、若しくは、石に混じっていた。このことから器を使用した後に捨てたもと考えられる。また、溝状遺構から出土したものについては流れ込みと考えられる。

（6）中国産褐釉四耳壷

4号土坑から中国産の褐釉四耳壷2点が出土した。同じ埋土から検出され釉薬の色合いと同じ波状沈線もみられることからこの二つは、同一個体と考えられる。胎土がきめ細やかで薄くできている。肩部に紐をかける耳が付き、外面、内面とも褐釉が塗られている。同じ埋土で須恵器が3点検出されていることや、本遺跡の遺構、遺物の時期のものと考え合せ15世紀頃に持ち込まれたものと推測する。本県では、花巻城で3個体検出されており、本遺跡の出土は2例目にあたる。

褐釉四耳壷の産地は、中国の華北省あたりのものと考える。時代は宗、元、明の時代に多く輸出され、日

本には鎌倉・室町時代から江戸時代の長い時期に渡り、茶などの入れ物として入ってきた。また、日本人向けに色、形のよい物を選び観賞用としても輸入されたものである。当時としては、一般庶民には手の届かない高価なものであることから、輸入製品を入手できるだけの有力者がこの地に居たことも推測できる。

3. おわりに

今回の調査で、陥し穴状遺構の検出により、縄文時代には狩り場として活用されていたことがわかった。また、中世には、竪穴住居跡や土坑、堀跡が造られ、当時の人々の生活の場として使われていたことがわかった。このことから縄文時代と中世の複合遺跡であることが明らかになった。さらに、堀跡が2条検出されたことにより、2重堀の可能性とそれに伴う館等の遺跡が、本遺跡の東側に存在することが推測される。遺物の量は27点と少なかったが、中国産陶器（褐釉四耳壷）や瓦器が出土し、県内でも出土例の希な貴重な遺物である。さらに、これらの遺構と出土遺物から中世（15世紀ころ）には、大規模な工事や、高価な陶器を入手し得る有力者の存在が窺い知ることができたと言える。隣接する九郎館や八郎館との関係を考える上で、貴重な資料が得られたと考えられる。今後の調査で明らかになっていくことを期待したい。

＜参考資料・引用文献＞

三上次男　(昭和62)：「陶磁貿易史研究　上」中央公論美術出版

松本建速　日本中世土器研究会 (1996･8)：「中近世土器の基礎研究ｵ」土器から見た貿易陶器

八重樫忠郎　　平泉のかわらけの問題　　「第12回北陸中世考古学研究会」

菅　英志　　(昭和55)：「日本城郭大系　青森・岩手・秋田」　第2巻　創史社

岩手県埋蔵文化財センター（2000）：「川岸場「遺跡発掘調査報告書」岩埋文調査報告書第317集

岩手県埋蔵文化財センター（2002）：「稲荷遺跡発掘調査報告書」岩埋文調査報告書第408集

岩手県埋蔵文化財センター（1996）：「小幅遺跡第4次発掘調査報告書」岩埋文調査報告書第265集

岩手県埋蔵文化財センター（2001）：「志羅山遺跡発掘調査報告書」岩埋文調査報告書第352集

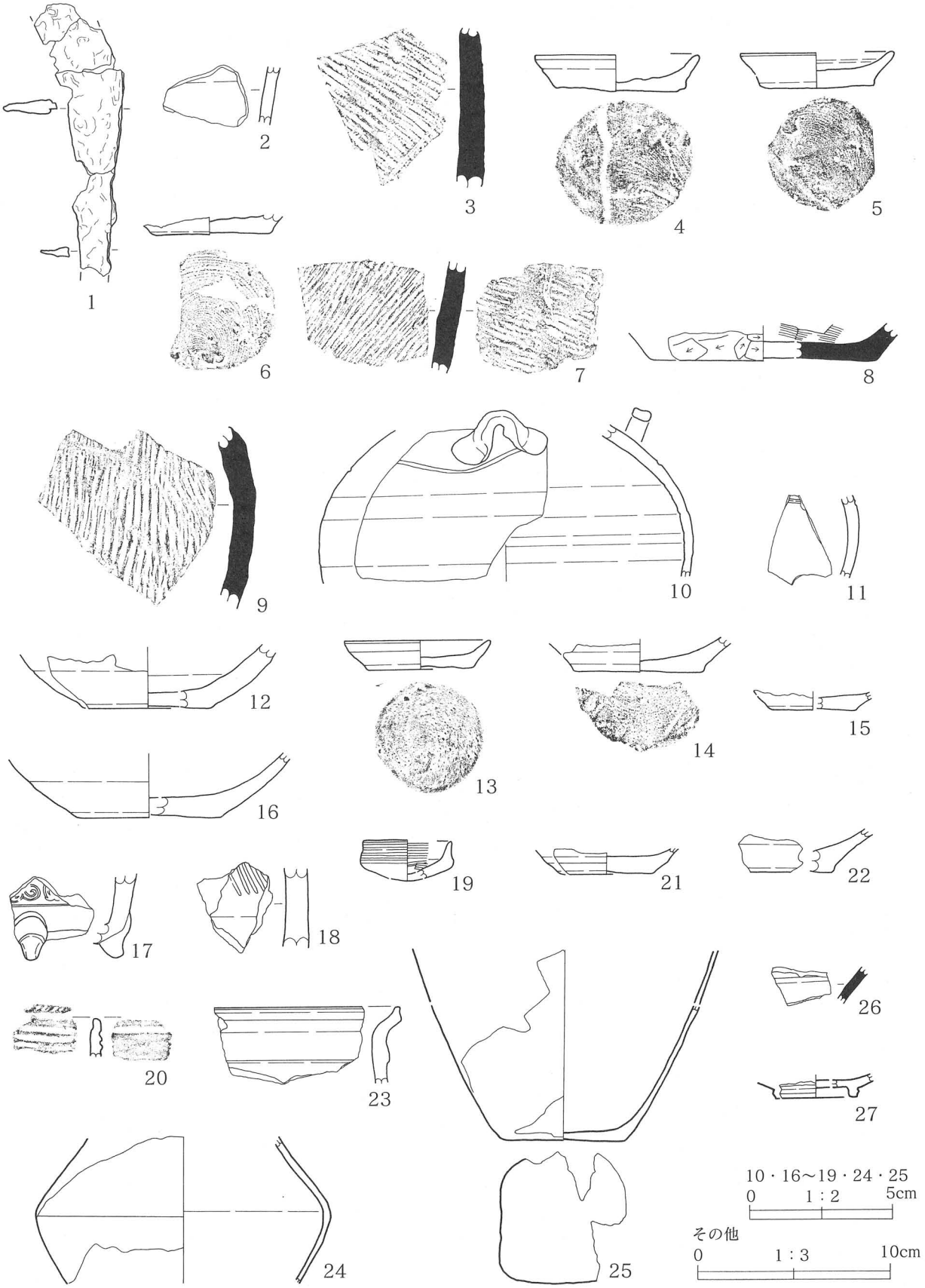
岩手県埋蔵文化財センター（1997）：「泉屋遺跡10･11･13･15次発掘調査報告書」岩埋文調査報告書第247集

平泉町教育委員会（1995）：「柳之御所跡発掘調査報告書」平泉町文化財調査報告書第38集

浄法寺町教育委員会（2002）：「浄法寺城跡平成13年度町内遺跡発掘調査概報」

花巻市教育委員会（1998）：「花巻城跡平成6年度三之丸発掘調査報告書」花巻市埋蔵文化財調査報告書第18集

前沢町教育委員会(1974)：「前沢町史上巻」前沢町史編集委員会



第25図　遺構内・外出土遺物

第7表　鉄製品観察表

番号	出土地点・層位	器　種	長　さ cm	幅 cm	厚　さ cm	備　　考	図版	写真
1	竪穴住居床面	鎌	14.2	4.9	0.8	鎌の根元から刃の一部	25	15

第8表　縄文土器観察表

番号	出土地点・層位	器種	部　位	文　様　の　特　徴	胎　土	図版	写真
20	2号溝　ＢＩ－d3 Ⅱ層上位	深鉢	口縁部	口唇部に刻み　口縁部平行沈線3本	きめ細かい	25	15
24	Ⅰ層上位　ＡⅢ－h3	深鉢	体部～口縁部	円状不正形　磨耗激しい	砂粒多く含む	25	15
25	Ⅰ層上Ａ位　Ⅲ－h3	深鉢	底部～体部	底部形方形　24と同一個体とみられる	砂粒多く含む	25	15

第9表　土師器・須恵器観察表

番号	出土地点・層位	器種	部　位	外面調整	内面調整	法　量(cm)			備　　考	図版	写真
						口径	器高	底径			
2	1号土坑	土師器	体部～口縁	ヨコナデ	ロクロナデ	—	—	—	外反を呈す	25	15
3	3号土坑	須恵器甕	体部	叩き目	当て具痕	—	—	—	きめ細かい　砂粒少量含む	25	15
7	4号土坑	須恵器甕	体部	叩き目	当て具痕	—	—	—	粗い胎土　叩き目粗い	25	15
8	4号土坑	須恵器甕	底部	ヘラ削り	ヘラナデ	—	(11.6)	(2.0)	きめ細かい　微砂粒少量含む	25	15
18	1号堀(南側)埋土下位	須恵器甕	体部	叩き目		—	—	—	きめ細かい　褐色釉薬つや有り	25	15
23	不明	土師器	体部	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	—	スス付着　ロクロ　段有り	25	15

第10表　陶器観察表

番号	出土位置・層位	器種	部　位	外面調整	内面調整	口径	器高	底径	備　　考	図版	写真
27	ＢＩ－ｅ９　Ⅱ層上位	陶器	高台～底部	ヘラ削り 釉薬	釉薬	—	—	—	底部釉薬塗布　高台面取り	25	15

第11表　中国産陶器観察表（褐釉四耳壷）

番号	出土位置・層位	器種	部　位	外面調整	内面調整	口径	器高	底径	備　　考	図版	写真
10	4号土坑埋土上位	壷	体部	波状沈線 釉薬	釉薬	—	—	—	きめ細かい　薄い　耳1付 褐釉薬	25	15
11	4号土坑埋土上位	壷	体部	波状沈線 釉薬	釉薬	—	—	—	きめ細かい　薄い　褐釉薬	25	15

第12表　ロクロかわらけ観察表

番号	遺構名	層　位	口径 cm	器高 cm	完度	色調	備　　考	図版
4	3号土坑	埋土下位	(8.5)	1.9	4/5	淡黄	静止糸切り痕	25
5	3号土坑	埋土下位	7.9	1.9	4/5	淡黄	回転糸切り痕	25
6	3号土坑	埋土下位	—	(1.0)	3/5	淡黄	回転糸切り痕、砂粒含む胎土	25
12	6号土坑	埋土	—	(3.3)	1/5	淡黄	砂粒多く含み粗い胎土	25
13	11号土坑	埋土中位	7.6	1.6	完形	淡黄	回転糸切り痕、砂粒含む、口縁部2.5cmが内彎あり	25
14	11号土坑	埋土中位	—	(1.9)	1/5	灰白	回転糸切り痕	25
15	11号土坑	埋土中位	—	1.0	1/5	淡黄	糸切り痕磨耗、	25
16	11号土坑	埋土中位	—	(3.4)	2/5	淡黄	大型、微粒砂多く含む、巻き上げ痕、スス付着	25
21	16号溝跡	埋土		(1.3)	1/4	淡黄	磨耗激しい、砂粒含む	25
22	P14	埋土	—	(2.3)	小片	淡黄	ヨコナデ、糸切り痕	25

第13表　手づくねかわらけ観察表

番号	遺構名	層　位	口径 cm	器高 cm	完度	色調	備　　考	図版
19	1号溝跡	埋土	(4.5)	(2.0)	1/5	淡黄	小型、底部中心から丸みをおび立ち上がる	25

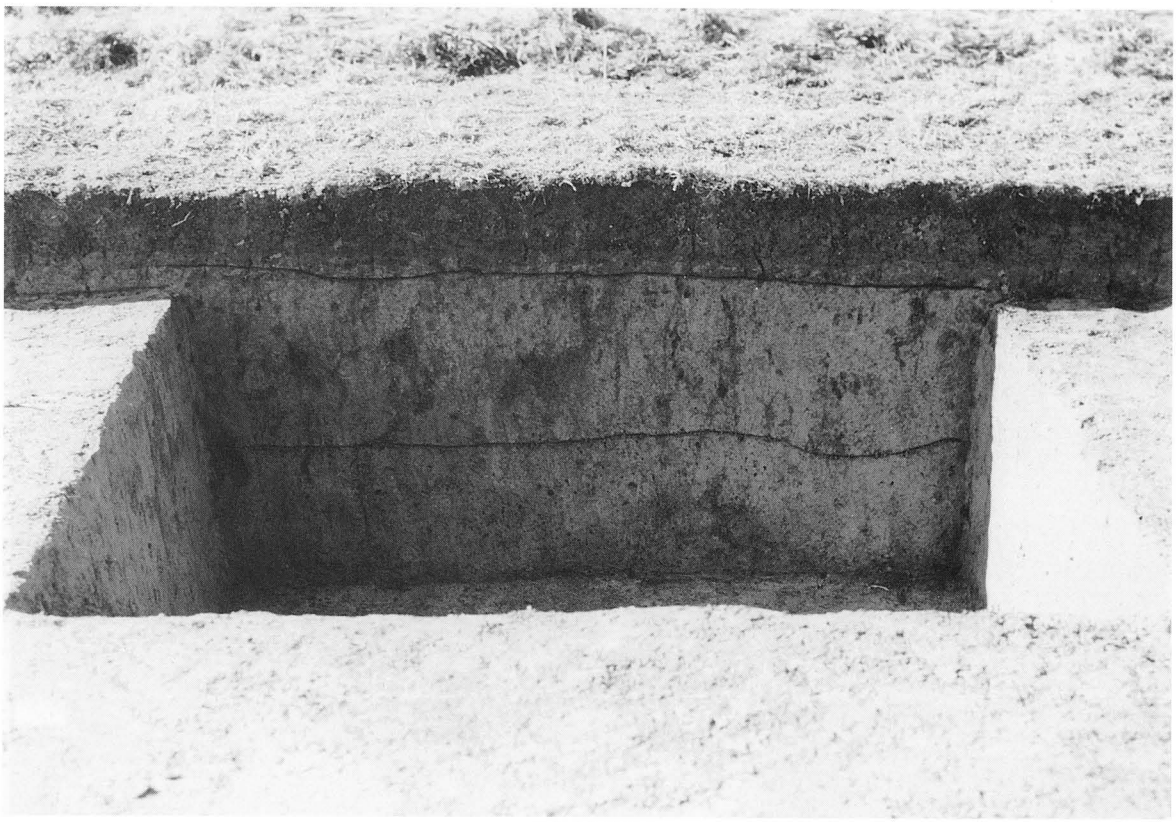
写真図版

遺跡遠景（南から）

遺跡全景

写真図版１　遺跡全景

調査前風景

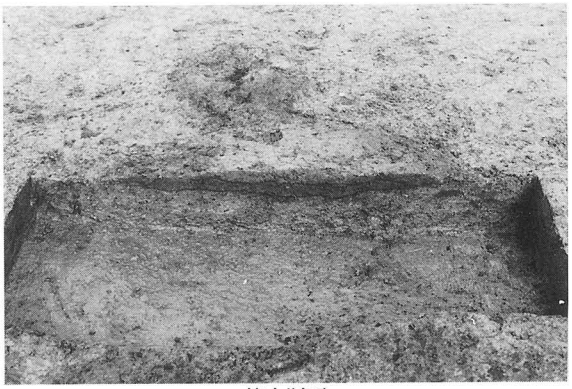


基本土層断面

写真図版2　調査前風景・基本土層断面

竪穴住居跡完掘

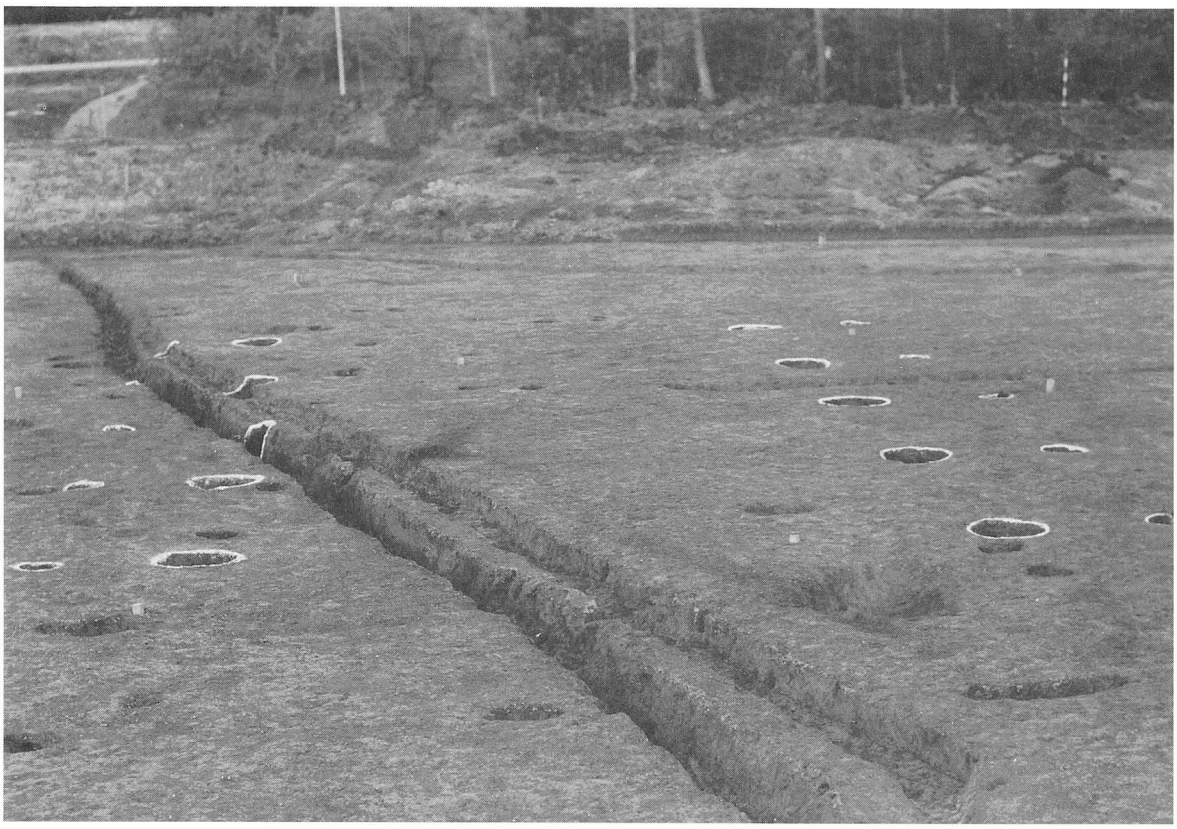
土層断面



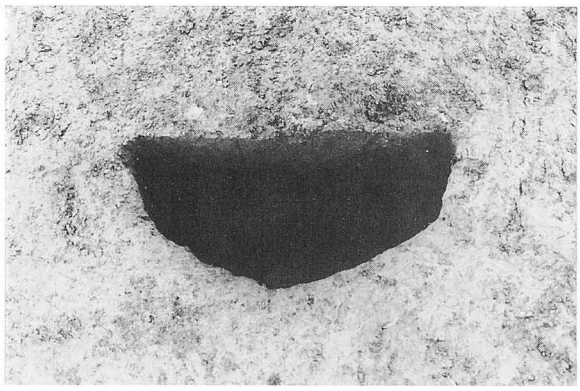
焼土断面

遺物出土状況(鎌)

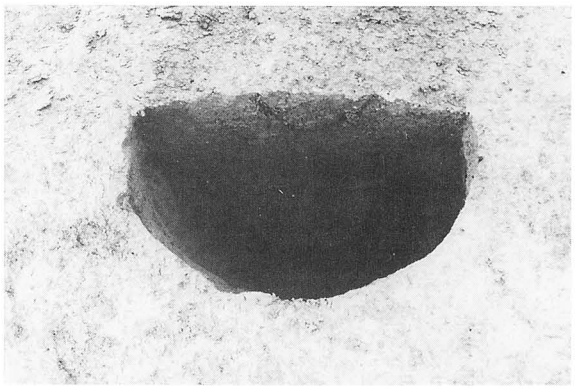
写真図版３　竪穴住居跡



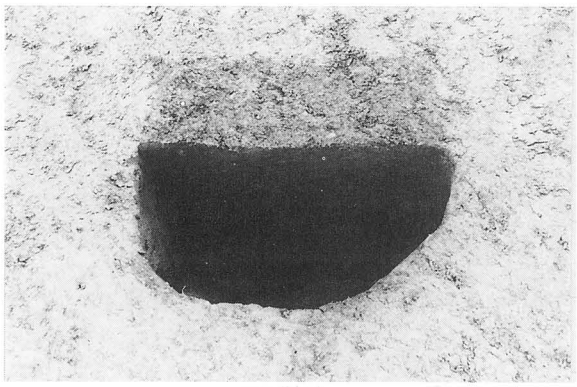
掘立柱建物跡完掘



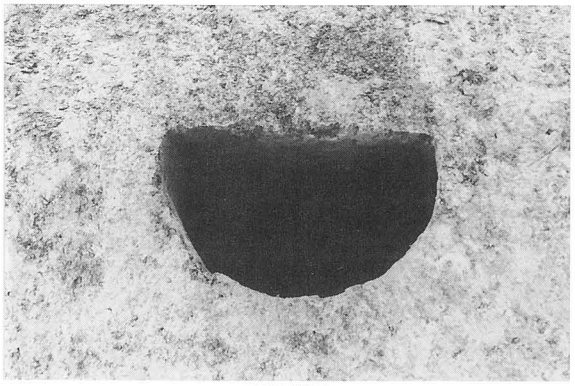
P１断面



P２断面

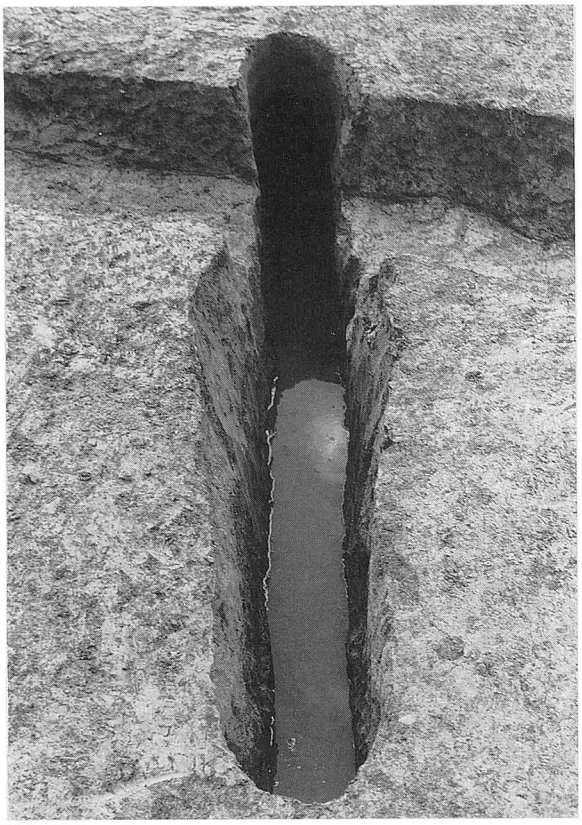


P４断面

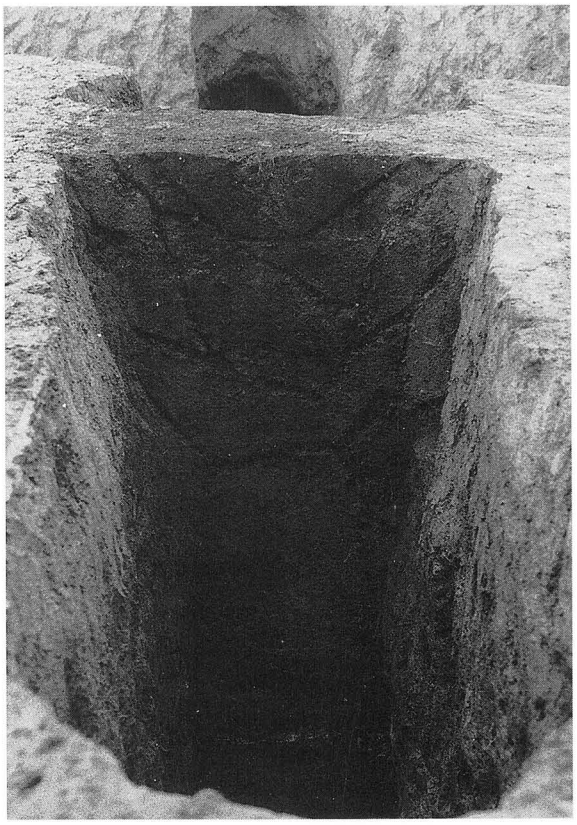


P22断面

写真図版４　掘立柱建物跡

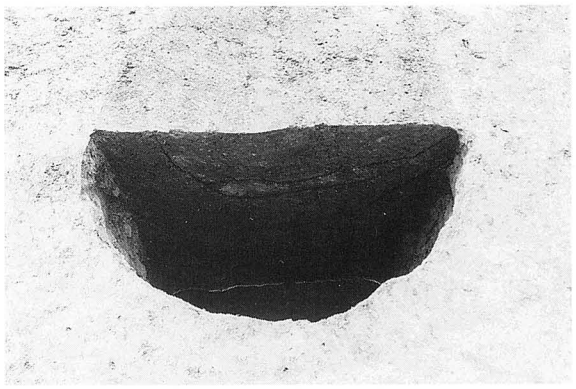


陥し穴状遺構平面



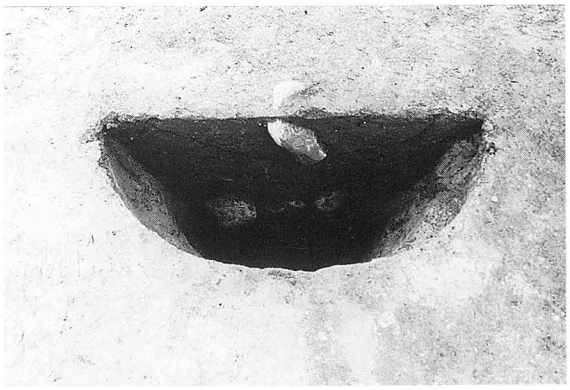
陥し穴状遺構断面

1号土坑平面



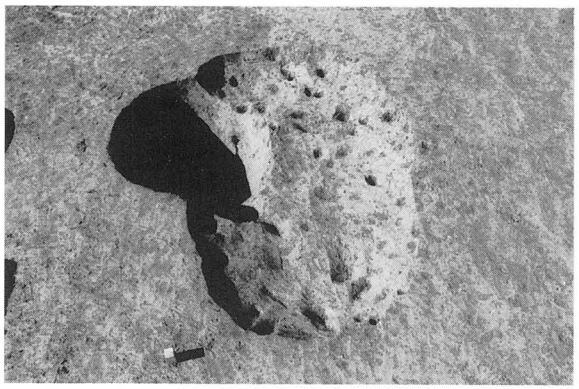
1号土坑断面

2号土坑平面

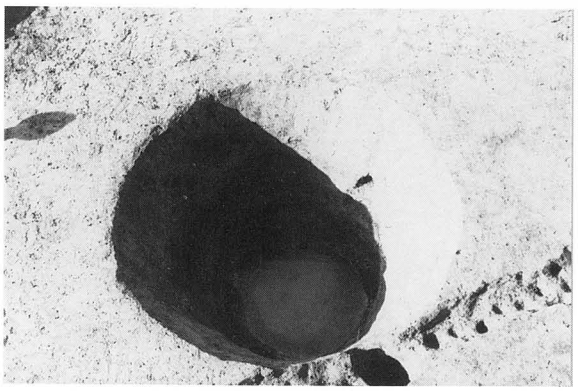


2号土坑断面

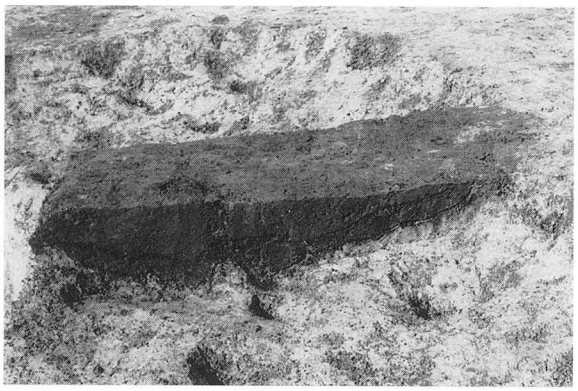
写真図版5　陥し穴状遺構、1・2号土坑



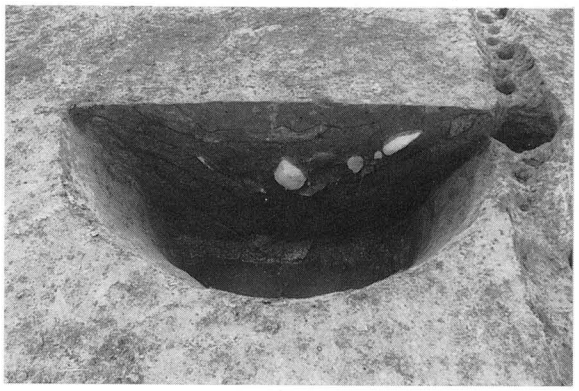
３号土坑平面



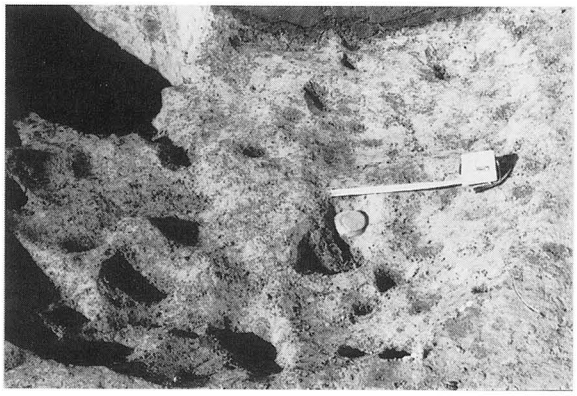
４号土坑平面



３号土坑断面

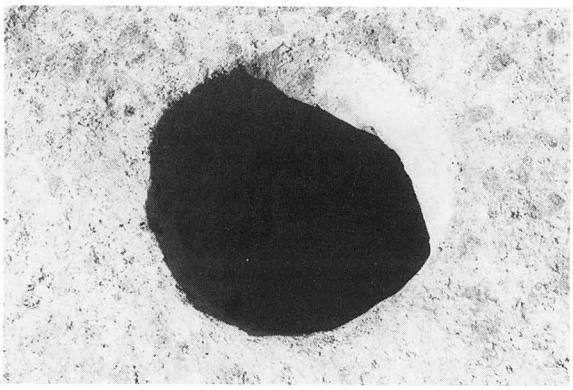


４号土坑断面

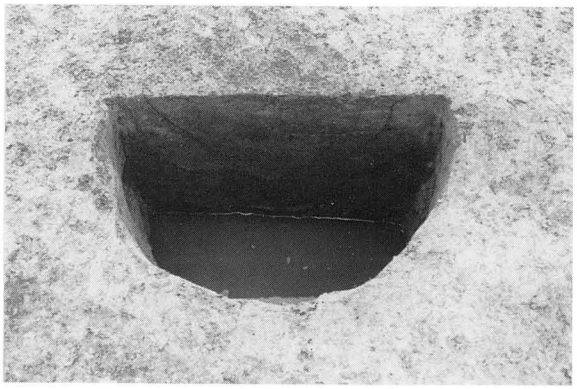


３号土坑遺物出土状況

４号土坑遺物出土状況

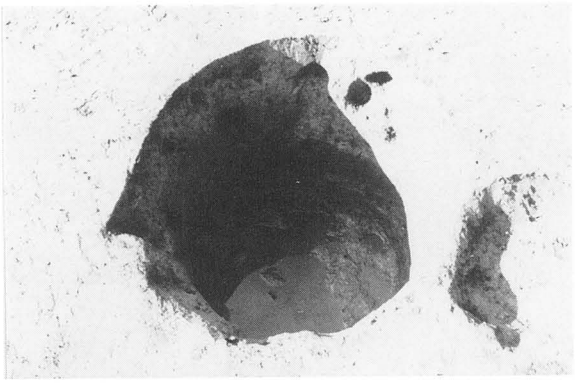


５号土坑平面

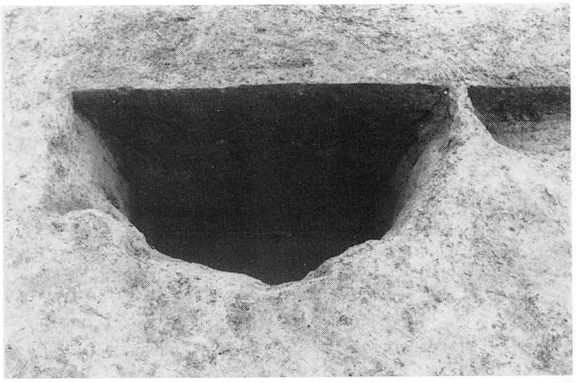


５号土坑断面

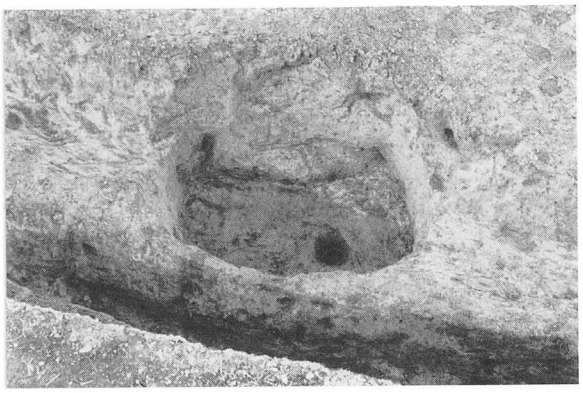
写真図版６　3～5号土坑・遺物出土状況



６号土坑平面

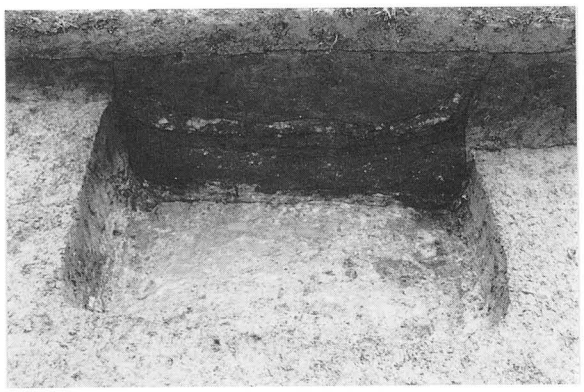


６号土坑断面

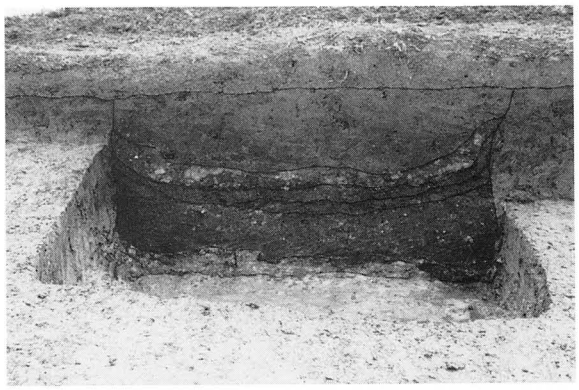


７号土坑平面

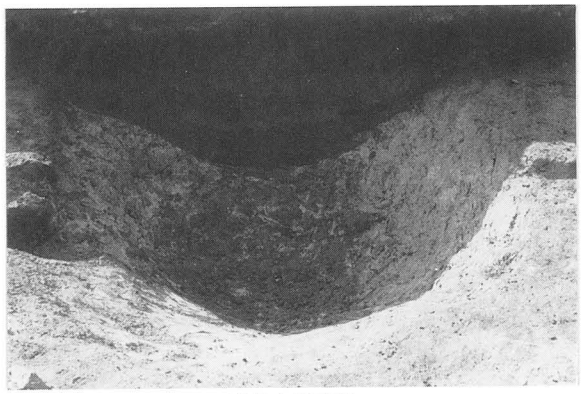
９号土坑平面



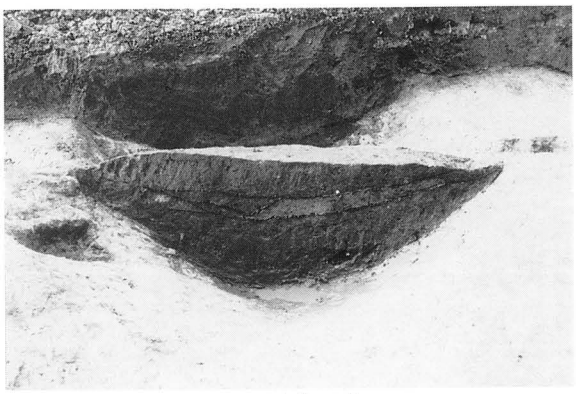
10号土坑平面



10号土坑断面

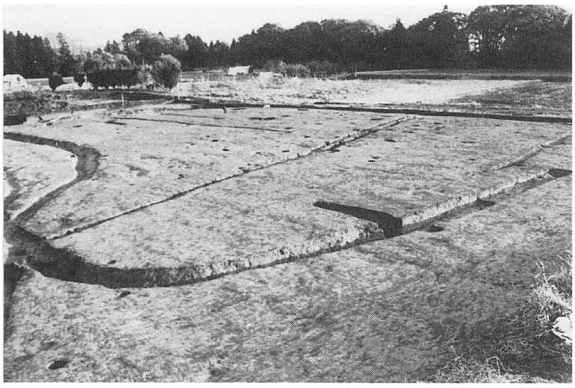


11号土坑平面

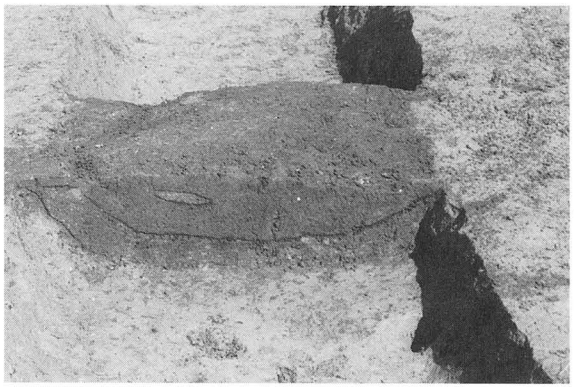


11号土坑平面

写真図版７　６・７・９・10・11号土坑



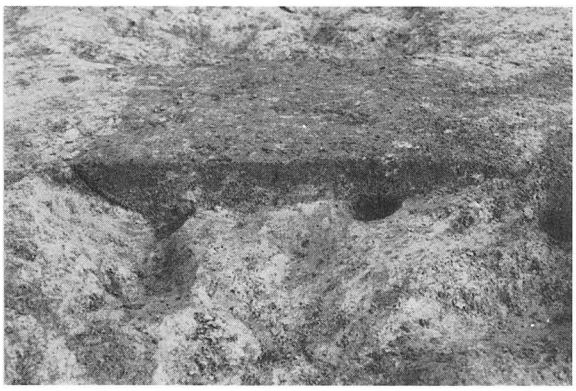
1号溝跡平面



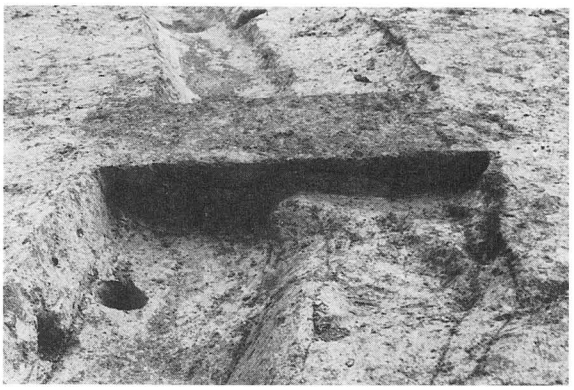
1号溝跡断面A~A'

9号溝跡（左上）、1・8号溝跡（右上）平面

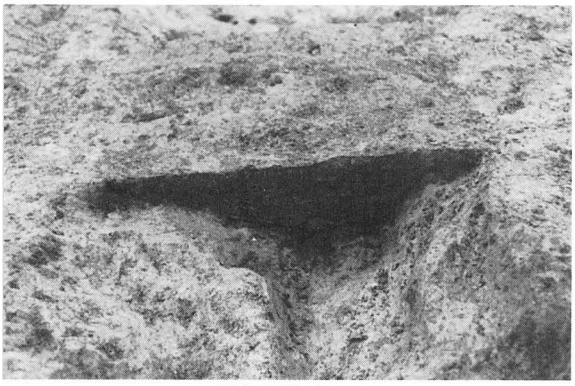
作業風景



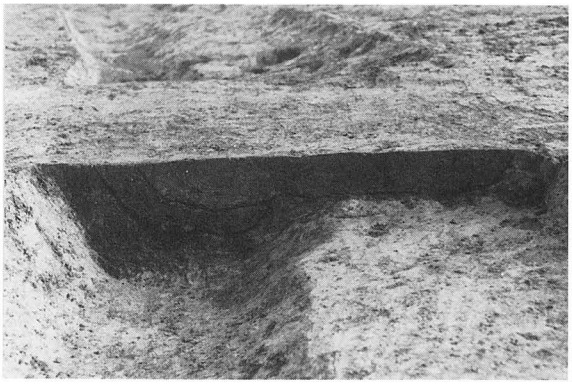
9号溝跡断面D~D'



1・8号溝跡断面B~B'



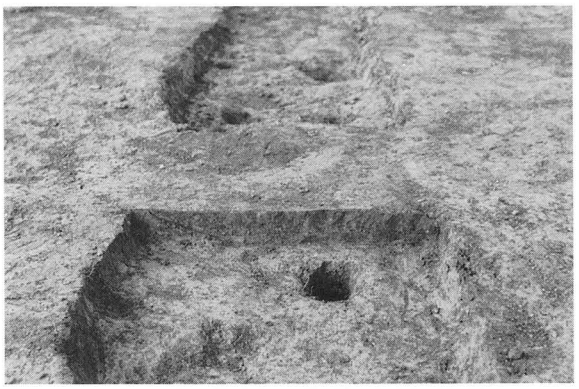
9号溝跡断面E~E'



1・8号溝跡断面C~C'

写真図版8　1・8・9号溝跡

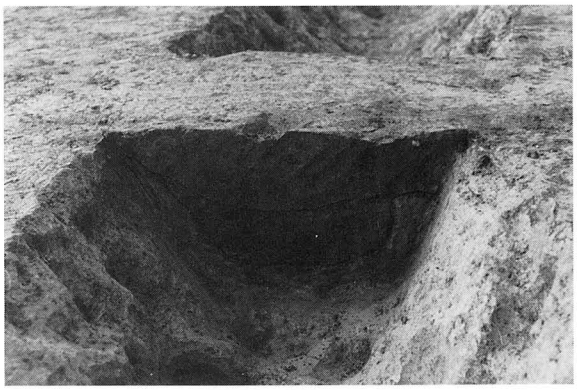
２号溝跡平面



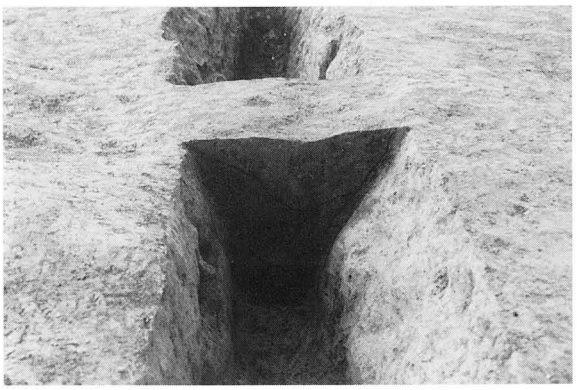
２号溝跡断面A~A'

２号溝跡断面C~C'

３・４号溝跡平面



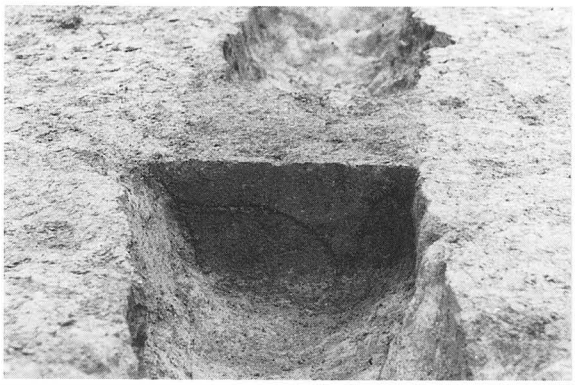
３号溝跡断面B~B'



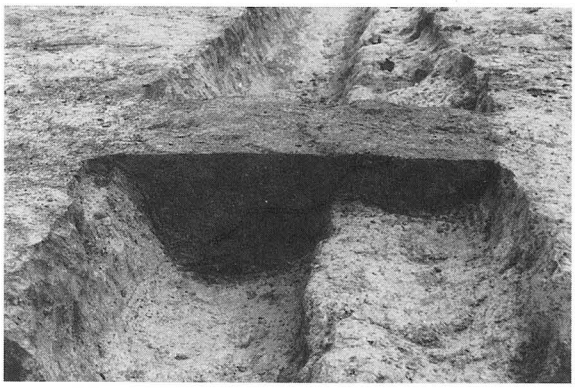
４号溝跡断面E~E'

写真図版９　２～４号溝跡

5・6号溝跡平面

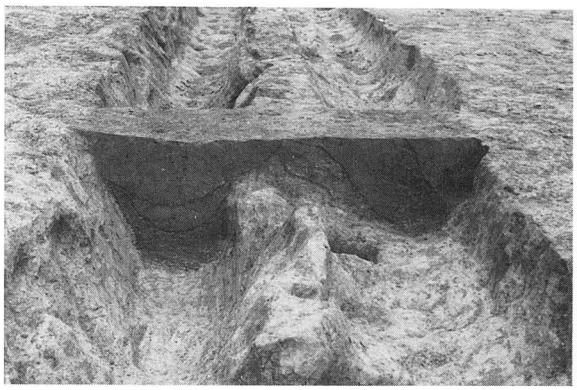


5・6号溝跡断面A~A'

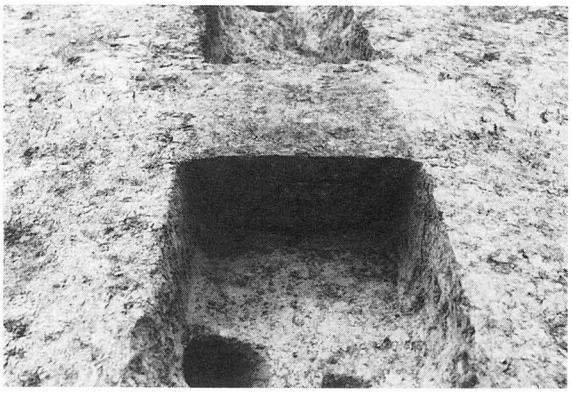


5・6号溝跡断面B~B'

7号溝跡平面



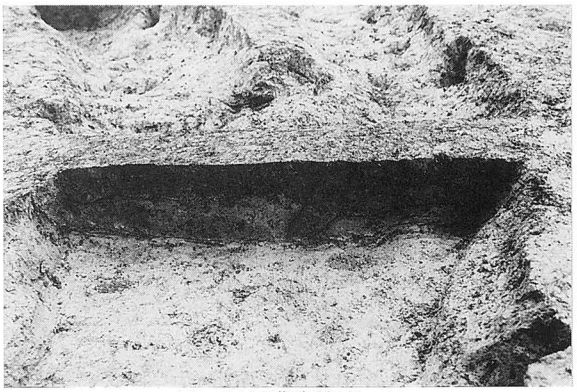
5・6号溝跡断面C~C'



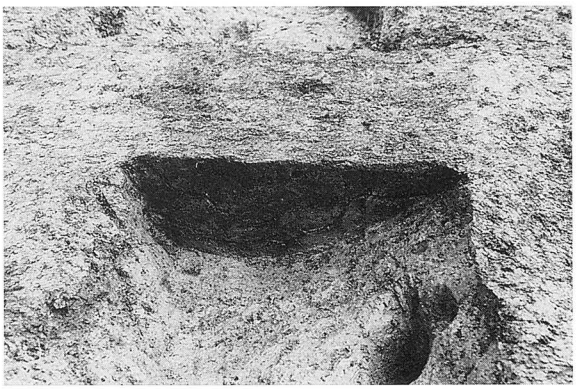
7号溝跡断面A~A'

写真図版10　5～7号溝跡

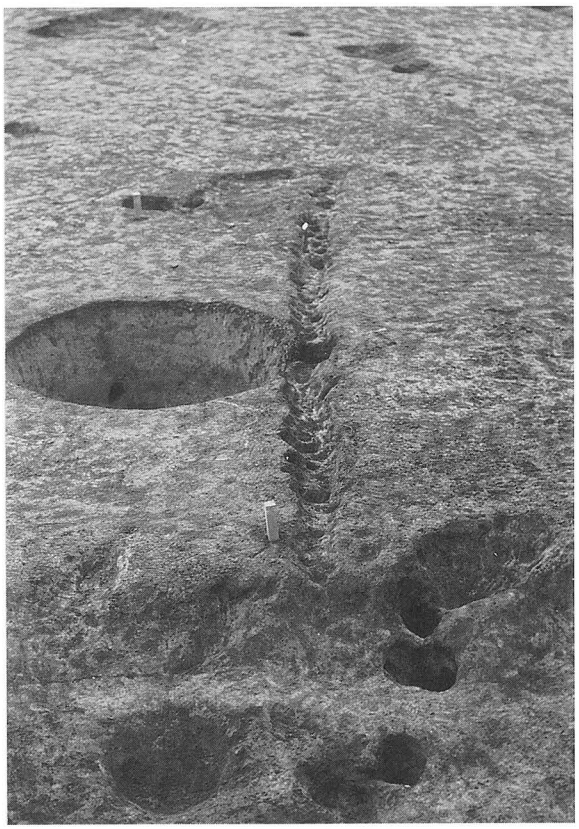
10・11号溝跡平面



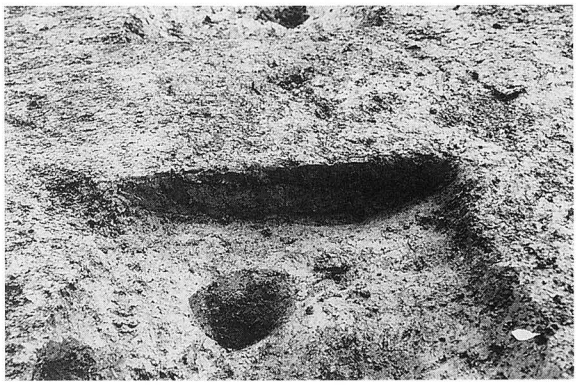
10・11号溝跡断面A~A'



10号溝跡断面B~B'



12号溝状遺構跡　平面

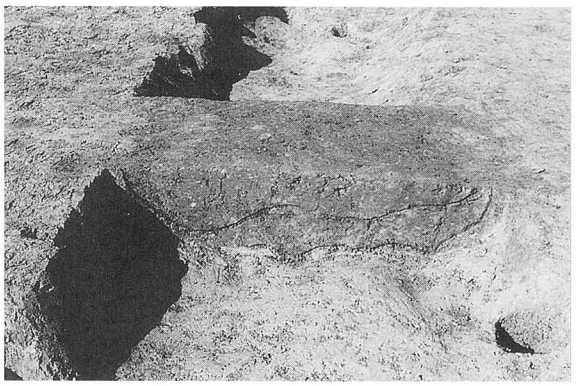


11号溝跡断面C~C'

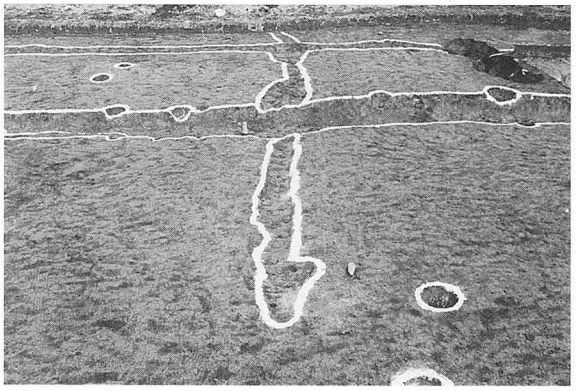
作業風景

写真図版11　10～12号溝跡

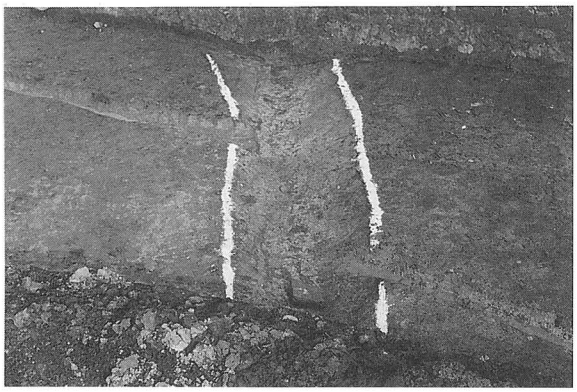
13号溝跡平面



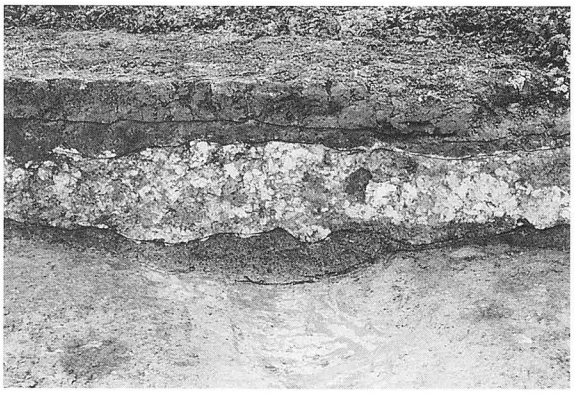
13号溝跡断面A~A'



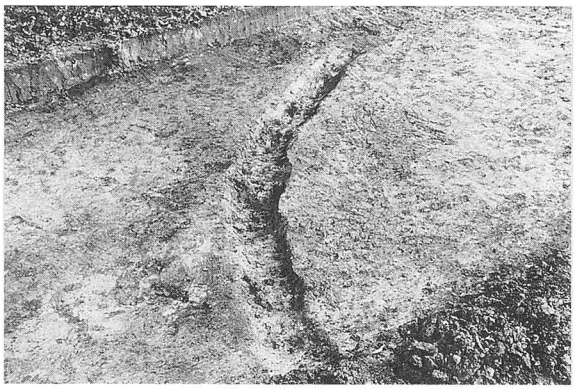
14号溝跡平面



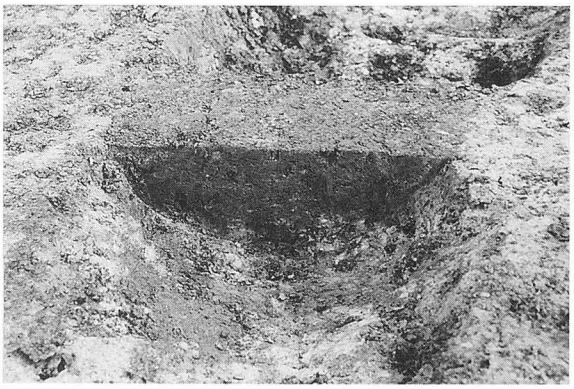
15号溝跡平面



15号溝跡断面A~A'



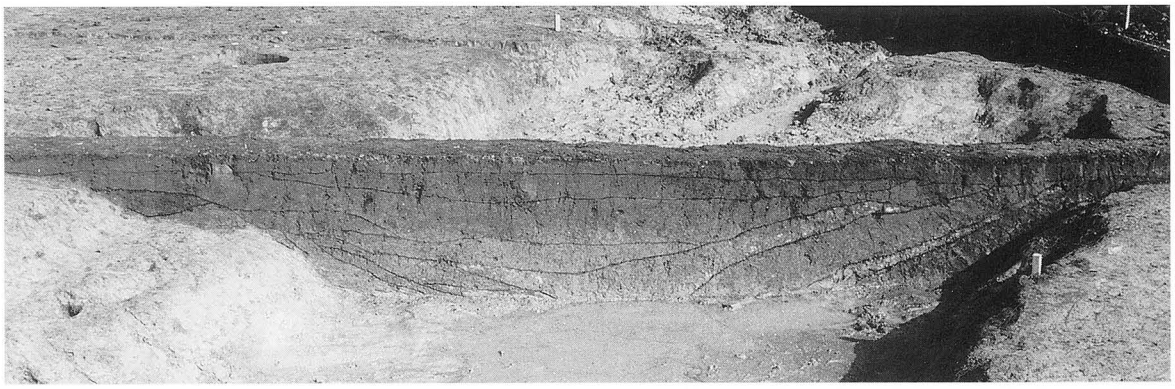
16号溝跡平面



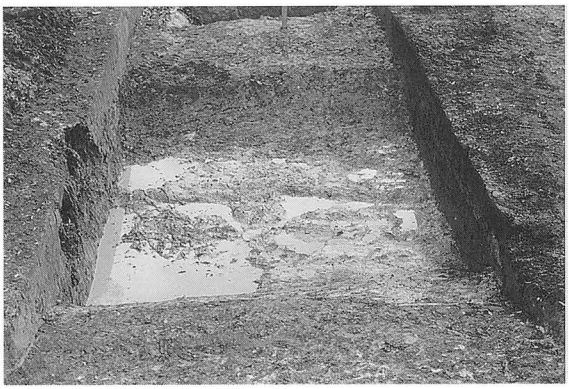
16号溝跡断面A~A'

写真図版12　13～16号溝跡

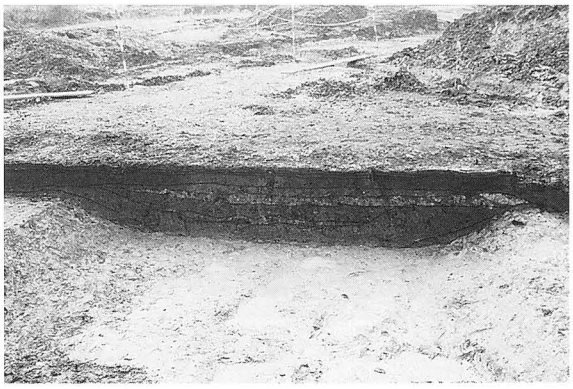
1号堀跡(南側)平面



断面



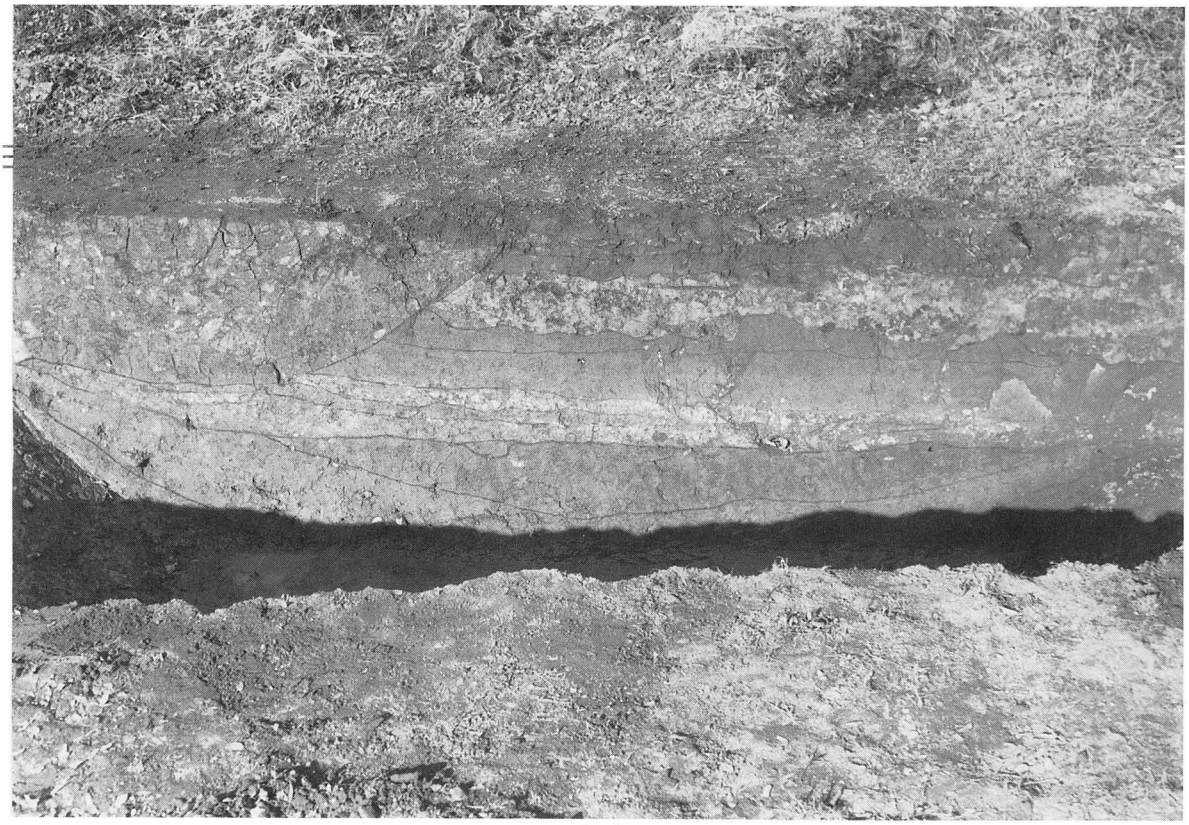
1号堀跡(北側)平面



断面

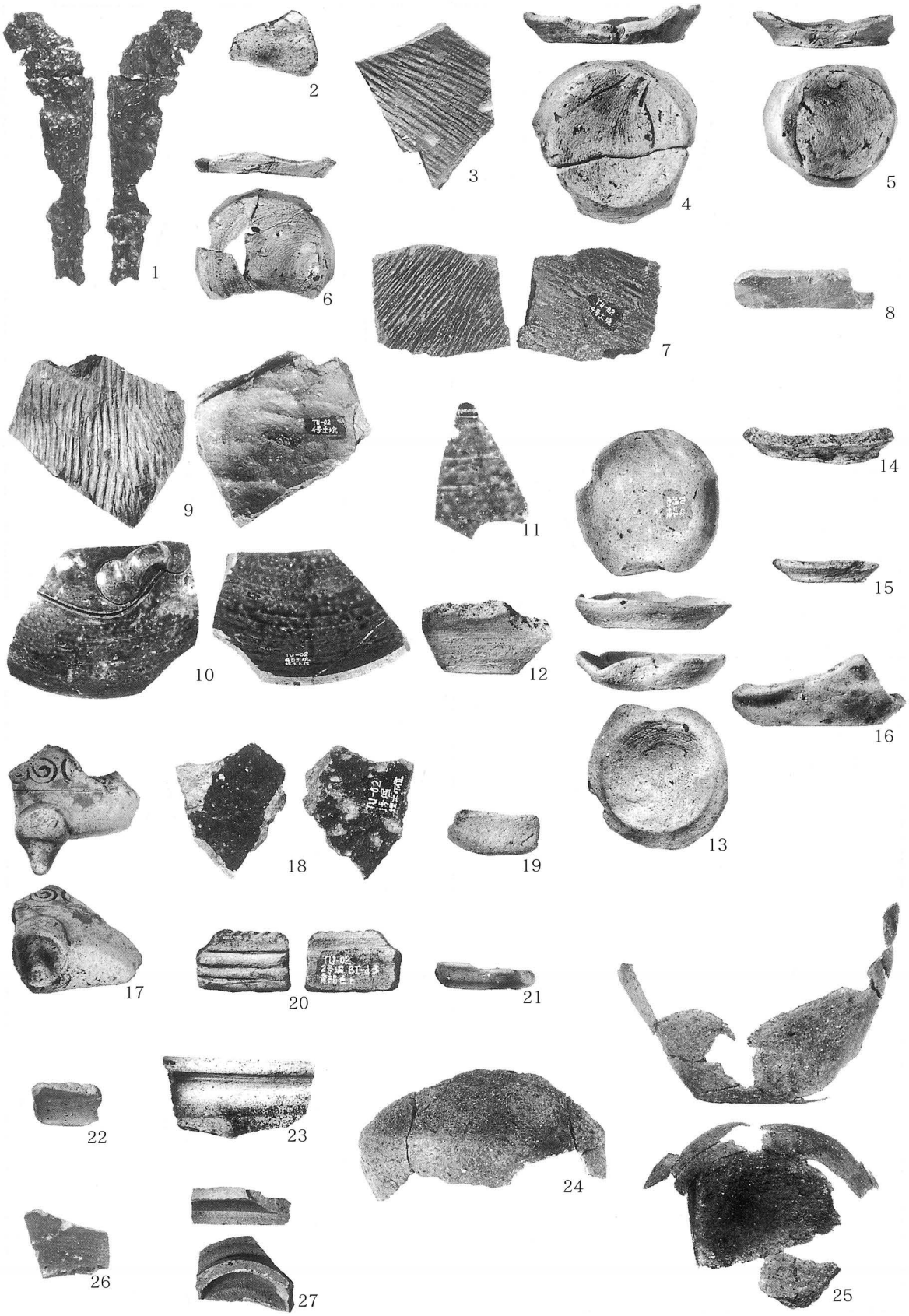
写真図版13　1号堀跡

２号堀跡平面



断面

写真図版14　２号堀跡



写真図版15　　出土遺物

報告書抄録

ふりがな	てらのうえいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	寺ノ上遺跡発掘調査報告書
副 書 名	県営ほ場整備事業寺領小林地区関連遺跡発掘調査
巻　　次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第445集
編 著 者 名	野中真盛
編 集 機 関	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所　在　地	〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11-185　　TEL019-638-9001・9002
発行年月日	西暦2004年1月29日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北 緯 ° ′ ″	東 経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
寺ノ上遺跡（てらのうえいせき）	岩手県胆沢郡（いわてけんいさわぐん） 前沢町古城字（まえさわちょうこじょうあざ） 寺ノ上（てらのうえ）182ほか	03382	NE46 —0242	39° 04′ 47″	141° 07′ 53″	2000.10.9 ～ 2000.11.27	1,533m²	県営ほ場整備事業に伴う緊急発掘調査
				世界測地系				

所収遺跡名	種　別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
寺ノ上遺跡	狩り場 城館跡	縄文時代 中　　世 時期不明	陥し穴状遺構　1基 竪穴住居跡　1棟 土　坑　6基 堀　跡　2条 掘立柱建物跡　1棟 土　坑　3基 溝　跡　14条 柱穴遺構　250基	縄文土器(晩期) かわらけ 瓦器 中国産陶器 鉄製品(鎌)	

平成15年度　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化センター職員名簿

所長	木村　昇	副所長	平野允苗

[管理課]

課長	韮澤正吾	嘱託	高橋照雄
課長補佐	山岸直美	〃	湯沢邦子
主査	中嶋賢一	〃	沼田テル子
主事	猿橋幸子	〃	伊藤滋子

[調査第一課]

課長	佐々木　勝	文化財調査員	北村忠昭
課長補佐	佐々木清文	〃	八木勝枝
文化財専門員	金子昭彦	〃	丸山浩治
文化財調査員	吉田　充	〃	北田　勲
〃	亀　大二郎	〃	島原弘征
〃	野中真盛	期限付調査員	坂部恵造
〃	新妻伸也	〃	小林弘卓
〃	阿部勝則	〃	藤原大輔
〃	杉沢昭太郎	〃	小針大志
〃	西澤正晴	〃	太田代一彦
〃	村木　敬	〃	新井田えり子

[調査第二課]

課長	三浦謙一	文化財調査員	星　雅之
課長補佐	中川重紀	〃	佐藤淳一
〃	高橋義介	〃	星　幸文
文化財専門員	小山内　透	〃	溜　浩二郎
〃	金子佐知子	〃	本多準一郎
〃	濱田　宏	〃	丸山直美
文化財調査員	赤石　登	〃	福島正和
〃	阿部眞澄	〃	米田　寛
〃	水上明博	〃	須原　拓
〃	阿部　憲	〃	中村絵美
〃	早坂　淳	〃	川又　晋
〃	小松則也	〃	村田　淳
〃	阿部徳幸	〃	(村上　拓)
〃	窓岩伸吾	期限付調査員	齋藤麻紀子
〃	亀澤盛行	〃	石崎高臣
〃	飯坂一重	〃	吉田里和
〃	鈴木裕明	〃	立花　裕
〃	林　勲	〃	江藤　敦
〃	阿部孝明	〃	駒木野智寛
〃	羽柴直人		

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第445集

寺ノ上遺跡発掘調査報告書

県営ほ場整備事業寺領寺ノ上関連遺跡発掘調査

印刷　平成16年1月22日
発行　平成16年1月29日

発行　㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　盛岡市下飯岡11地割185
TEL(019)638-9001・9002
FAX(019)638-8563

印刷　有限会社光文社印刷
〒020-0106　盛岡市東松園3丁目12-1
TEL(019)661-3441

Ⓒ（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化センター　2004